Empowered by Innovation NEC

VALUESTAR S

2 準備と設定

◎「あなたのパソコン」として使うために◎

パソコンは、ほかの電化製品とちがって
電源をいれただけでは使えません。
付属品をとりつけ、あなた個人が使うための
設定をし、インターネットにつなぐところまで、
この本の手順にそって、準備してみましょう。

もう一台パソコンを買ったときの
内容の移しかえや、設定を最初から
やり直す方法も、この本がご案内します。

新しいパソコンがやってきました！

箱を開いて、

嬉しいような、そわそわするような、

そんな、新しい道具を手にするときの気持ちを

たいせつにしながら、

間違いなく確実に、

パソコンの準備と設定を進めていけるよう、

この本は作られています。

853-810601-287-A

『準備と設定』の読み方

第1章～第3章まで
「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

パソコンの置き場所を確認したり、箱の中のケーブルや部品を接続したり、最初に電源を入れるときの設定（Windows のセットアップ）の手順を説明しています。

第4章
「基本中の基本の操作」

電源の入れ方／切り方、音量調節、CD-ROM などのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章・第6章
「これからインターネットを始めるかたへ」「パソコンを買い換えたかたへ」

インターネットに接続する方法について説明しています。これまでにパソコンを持っていなかったかたは第５章へ、以前に持っていたパソコンでもインターネットを利用していたかたは第６章へ進んでください。第６章では、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法も説明しています。

第7章
「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第8章
「再セットアップする」

パソコンの調子が悪くなったときなど、買ってきたときの状態に戻す「再セットアップ」について説明しています。

第9章
「パソコン内部に取り付ける」

このパソコンに、メモリを取り付ける方法を説明しています。

853-810601-287-A
2004 年 6 月　初版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

ポイント	そのページで説明している手順で、とくに大切なことです。
!	してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
CD/DVD ドライブ	DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブのことを指します。
「サポートナビゲーター」	電子マニュアル「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートナビゲーター」は、デスクトップの（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル（機種）を指します。
DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW モデル	DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブを搭載しているモデルのことです。
TV モデル	テレビ / 地上アナログデータ放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
Office 2003 モデル	Office Personal 2003 があらかじめインストールされているモデルのことです。

<table>
<tr><th rowspan="2">シリーズ名</th><th rowspan="2">型名
（型番）</th><th colspan="5">表記の区分</th></tr>
<tr><th>CD/DVDドライブ</th><th>ディスプレイ</th><th>TV機能</th><th>OS</th><th>添付ソフト</th></tr>
<tr><td rowspan="2">VALUESTAR S</td><td>VS700/9D
(PC-VS7009D)</td><td rowspan="2">DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW モデル</td><td>17型ワイド液晶ディスプレイ一体型モデル</td><td rowspan="2">TV モデル
（リモコン添付）</td><td rowspan="2">Windows XP Home Edition</td><td rowspan="2">Office 2003 モデル</td></tr>
<tr><td>VS500/9D
(PC-VS5009D)</td><td>15型液晶ディスプレイ一体型モデル</td></tr>
</table>

◆本文中の画面やイラスト、ホームページについて

・本体のイラストは17型ワイド液晶ディスプレイ一体型モデルです。イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。

・本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

・記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものです。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 1
Windows、Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 1
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows Millennium Edition	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 98 Second Edition	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 operating system 日本語版
Office Personal 2003	Microsoft® Office Personal Edition 2003 (Microsoft Office Word 2003、Microsoft Office Excel 2003、Microsoft Office Outlook® 2003、Microsoft Office Home Style+)
Outlook 2003	Microsoft® Office Outlook® 2003
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 6.0 Service Pack 1
アウトルックエクスプレス、Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
BIGLOBEでインターネット	BIGLOBEインターネット接続ツール
RecordNow DX	Sonic RecordNow DX

ご注意

（1）本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
（2）本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121 コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
（4）当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、（3）項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
（5）本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
（6）海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
（7）本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Microsoft® Windows® XP Home Edition および本機に添付の CD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
（8）ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

■輸出に関する注意事項
本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export
This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

目次

第 1 章

箱を開けて最初にすること

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型名や製造番号の確認のしかた、パソコンの置き場所などについての説明を読んでから始めましょう。

この章の所要時間：約 10 分

添付品はそろっていますか？

ポイント

● 箱を開けて『スタートシート』で確認

1 『スタートシート』を見る

梱包を開けると、添付品の箱の上に『スタートシート』が入っています。添付品が全部そろっているか確認してください。万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

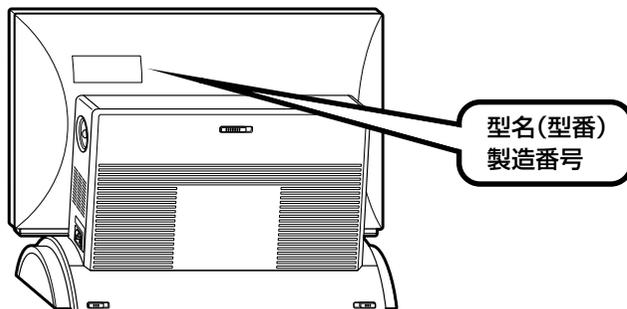
困ったときには…
NEC 121 コンタクトセンター
フリーコール 0120-977-121

添付品の内容はモデルにより異なります。

型名(型番)と製造番号を確認する

● 保証書と本体の記載が一致していることを確かめる

1 パソコン本体の保証書を見る

2 パソコン本体の記載と一致しているか確認する

- 記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC121コンタクトセンターにお問い合わせください。
- 保証書は、所定事項(販売店名、お買い上げ日など)が記入されていることを確認のうえ、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC121コンタクトセンターにお問い合わせください。
- お問い合わせ先については、別冊の『121wareガイドブック』をご覧ください。

パソコンの置き場所を決める

ポイント

- キーボードやマウスを使うために十分余裕のある場所に
- 電話回線や電源などの場所にも気をつける

1 パソコンの設置環境

◆屋内であること
屋外には設置しないでください。

◆しっかりした台の上
適当なテーブルや机がないときは、市販のパソコンラックを使うこともできます。

◆温度は 10 ～ 35℃、湿度は 20 ～ 80%
室内の温度と湿度が高く、機械やガラスなどの温度が低いと、水滴がついてしまうことがあります（結露）。パソコンが結露したときは、電源を入れずに 1 時間以上置き、水滴が蒸発してから使ってください。

◆ホコリの少ない場所
ホコリの多い場所に置くと、パソコンの内部にホコリがたまって故障の原因となることがあります。ホコリの少ない場所を選んでください。

2 パソコン周囲の広さ

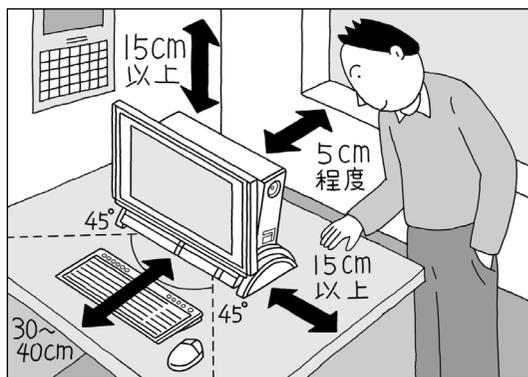
本体前に 30 ～ 40cm

キーボードを置き、ゆったりマウスを操作できる広さが必要です。
また、キーボードとマウスは、パソコン本体から45度の範囲で使用することをおすすめします。

本体後ろに 5cm 程度

本体の後ろ側に通風孔があるため、壁などから5cm程度離してください。

本体側面にも 15cm 以上

本体の側面にも通風孔があるため、15cm以上の空間を確保してください。

パソコンを使っているときは、本体の上に紙や布を置いて通風孔をふさがないようにしてください。内部の温度が上昇し、動作不良や故障の原因になります。

3 こんな場所にはパソコンを置かないで!

小さなお子さんがいる場合は、キーボードやマウスなどをお子さんが落としてしまうことがあるので、十分気をつけてください。

4 電源コンセントや電話回線などの近くに置く

◆電源コンセントについて

・ラジオやテレビに雑音が入ることがあるため、別のコンセントに接続してください。
・付属の電源ケーブルを直接電源コンセントに接続してください。
・コンセントが足りなくてパソコン用のテーブルタップを使うときは、テーブルタップの合計電力を守ってください。
・本体からアース線を接続できるよう、アース端子のあるコンセントを使ってください。コンセントにアース端子がないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持った人にアース端子付きコンセントの取り付けを相談してください。

◆電話回線について

ダイヤルアップ接続（インターネットを利用するたびに電話をかける)、ISDN（NTTのデジタル回線を使う)、ADSL（常時インターネットに接続しておく）などの方法でインターネットを利用するときは、パソコンに付属のモジュラーケーブルが電話回線の接続口（モジュラーコンセント）に届く範囲にパソコンを設置してください。ケーブルモデム（ケーブルTV用の接続機器）やルータ（LANの接続機器）を利用するときは、それらの機器の近くにパソコンを設置します。

◆アンテナ線について

パソコンでテレビを楽しむには、アンテナ線の位置や長さに注意が必要です。アンテナ線の接続については、別冊の『TVモデルガイド』をご覧ください。

5 パソコンの近くに置いてはいけないもの

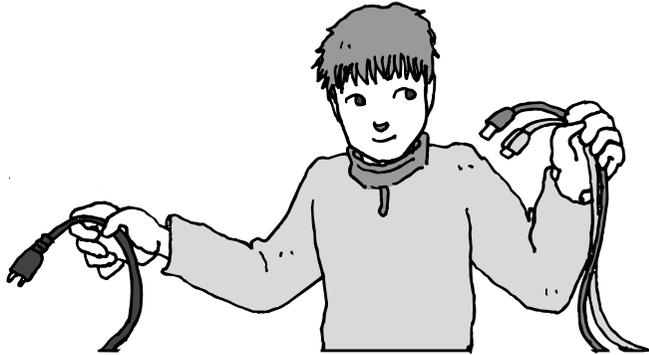
◆扇風機や大型のスピーカ、温風式こたつなど（磁気を発生するもの）
強い磁気を発生する装置が近くにあると、ディスプレイの表示や色が乱れることがあります。パソコン用スピーカなど、磁気をもらさないように設計された装置であれば、近くに置いてもだいじょうぶです。

◆ストーブなどの暖房器具
暖房器具の近くにパソコンを置くと、熱で変形したり、異常な動作をすることがあります。

◆他のディスプレイやテレビ、ラジオ
他のディスプレイやテレビの表示や色が乱れたりすることがあります。テレビやラジオの音声にノイズが入ることがあります。

◆コードレス電話、携帯電話
通話中にノイズが入ることがあります。パソコン側も電波の影響を受けるため、スピーカにノイズが入ることがあります。

第2章

電源を入れる前に接続しよう

パソコン本体の置き場所を決めたら接続です。キーボードとマウスを使う準備もします。じっくり説明を読んで慎重にやりましょう。次のページから順番に作業を進めてください。電源ケーブルの接続は最後ですよ。

この章の所要時間：約20分

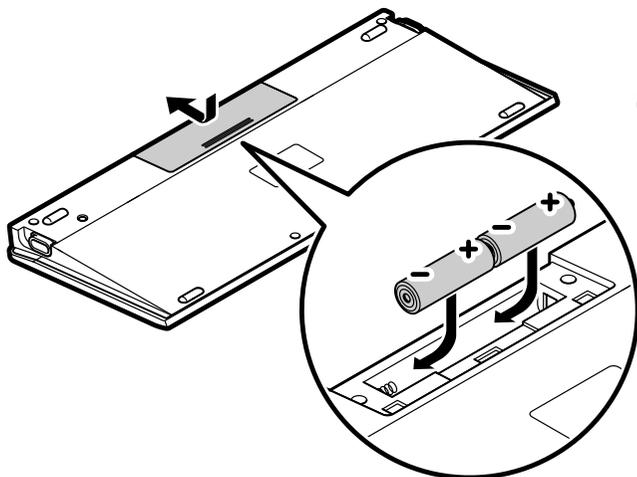
インターネットや周辺機器はあとから接続

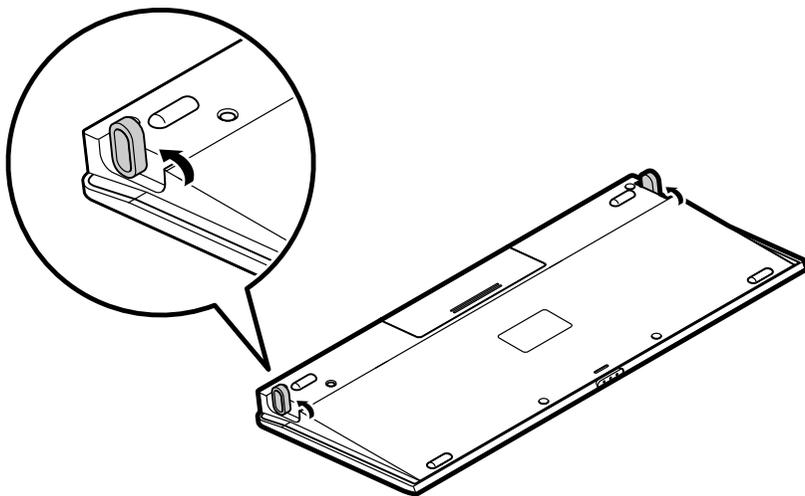
ここではまだ、電話回線には接続しません。また、プリンタなどの周辺機器も、まだ接続しないでください。「第3章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、電話回線や周辺機器の接続を行います。

キーボードを使う準備をする

ポイント
- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 キーボードに乾電池を入れる

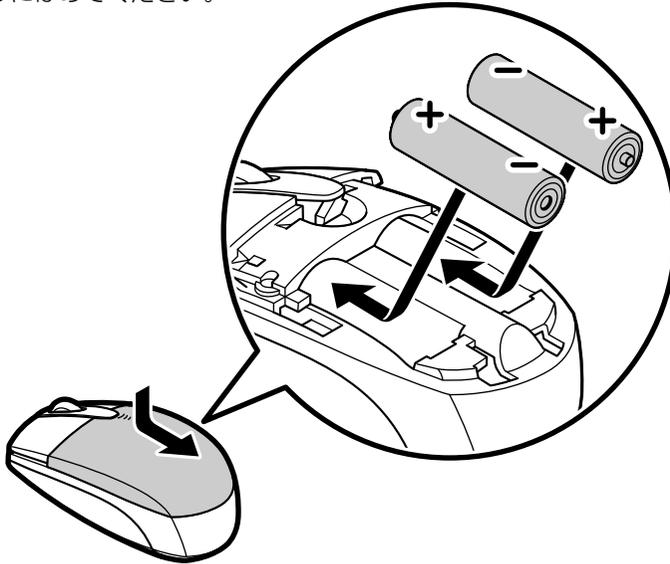
キーボード裏面の電池カバーを外して、添付の単３形アルカリ乾電池２本を入れます。入れたら電池カバーを元通りにはめてください。

乾電池の＋（プラス）と－（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示通りに入れてください。

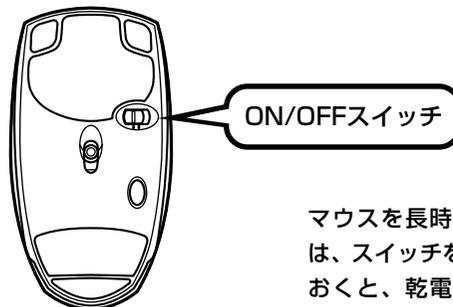
2 キーボードの足を立てる

キーボードは足を立てずに使うこともできます。

マウスを使う準備をする

ポイント
- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 マウスに乾電池を入れる

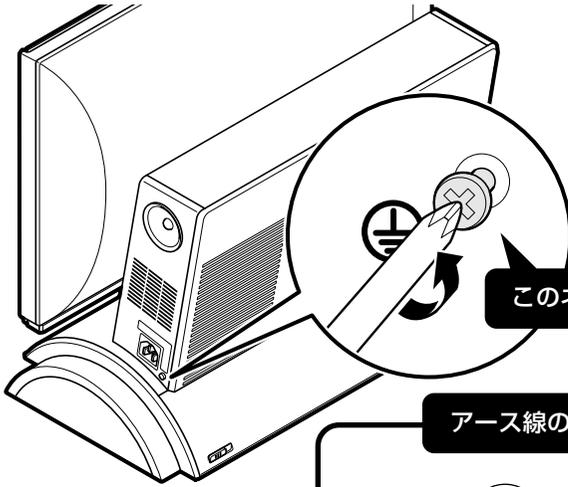
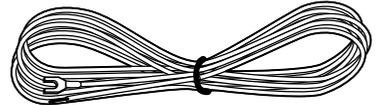
マウス上面の電池カバーを外して、添付の単３形アルカリ乾電池２本を入れます。入れたら電池カバーを元通りにはめてください。

2 マウス底面のON/OFFスイッチを「ON」にする

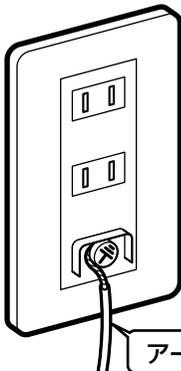
ON/OFF スイッチを「ON」にすると、マウス底面の中央部が赤く光ります。

マウスを長時間使わないときは、スイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

アースを接続する

ポイント

● パソコン側面のアース端子をコンセントのアース端子につなぐ

1 パソコンにアース線を接続する

ネジに合ったプラスドライバーを使ってください。

2 もう一方をコンセントのアース端子に接続する

・アース線は水道管につながないでください。

・電話線用のアース端子には接続しないでください。通話中に雑音が入るおそれがあります。

・アース端子付きのコンセントが利用できないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持つ人にアース端子付きコンセントの取り付けをご相談ください。

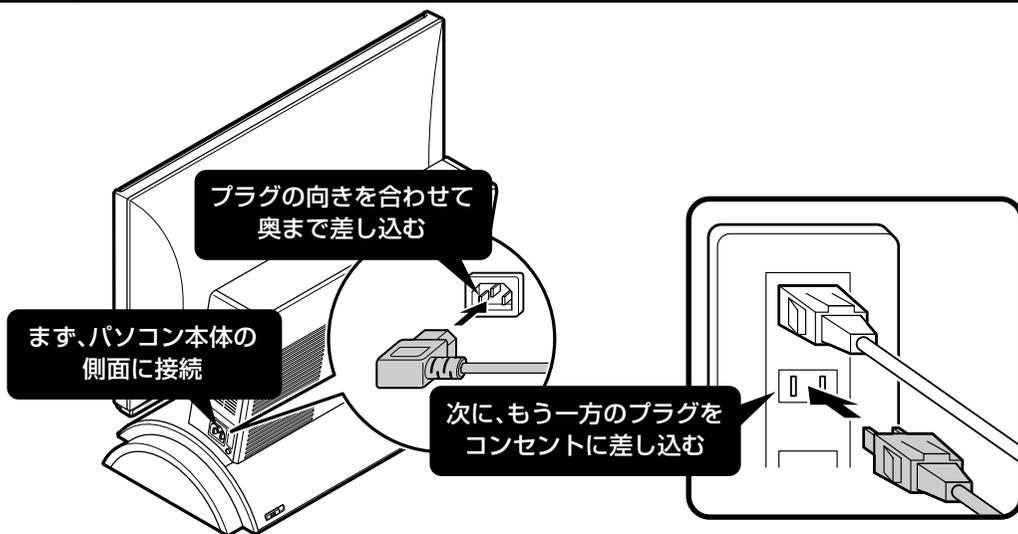
電源ケーブルを接続する

● プラグの向きを合わせる

1 パソコン本体の電源ケーブルを接続する

プラグの向きを合わせて奥まで差し込む

まず、パソコン本体の側面に接続

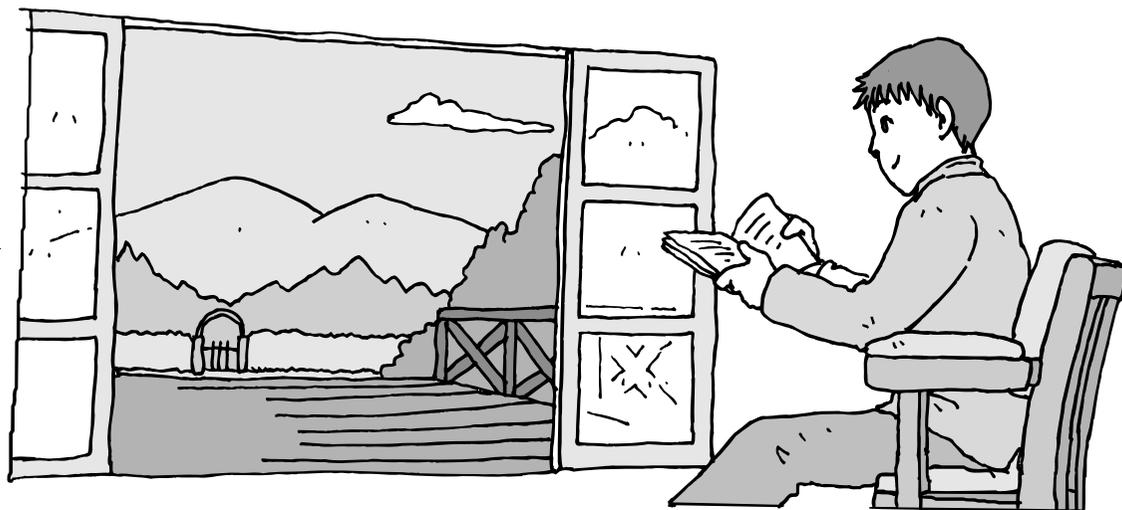
次に、もう一方のプラグをコンセントに差し込む

これで接続は完了です。

インターネット、TVアンテナ、周辺機器などの接続はあとから

ここまでの接続が終わったら、続けて「第３章　セットアップを始める」に進んでください。そのあとからインターネット、TV アンテナ、周辺機器などの接続を行います。

電源ケーブルなどが人の通る場所にないことを、もう一度確かめてください。ケーブルを足にひっかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

第3章

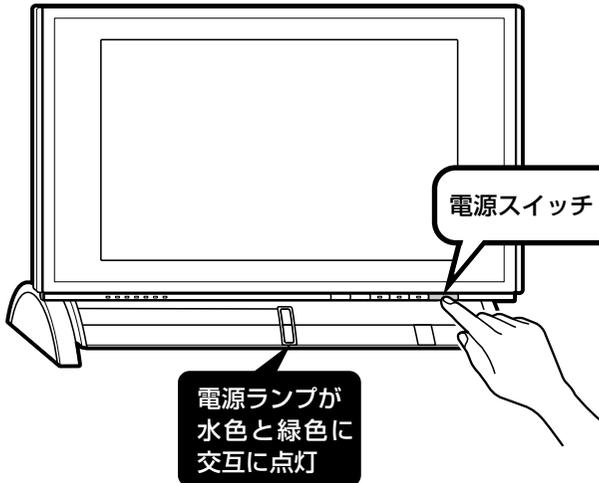
セットアップを始める

今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。このあとの説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

この章の所要時間：約30分

電源を入れる

ポイント

● 電源スイッチの場所を確かめておく

1 電源スイッチを押して電源を入れる

電源スイッチを押しても、電源ランプが点灯しない場合、電源ケーブルが正しく接続されていないことが考えられます。第２章の「電源ケーブルを接続する」（19ページ）をご覧ください。

画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ（社名のマーク）やWindowsのマークなどが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない！

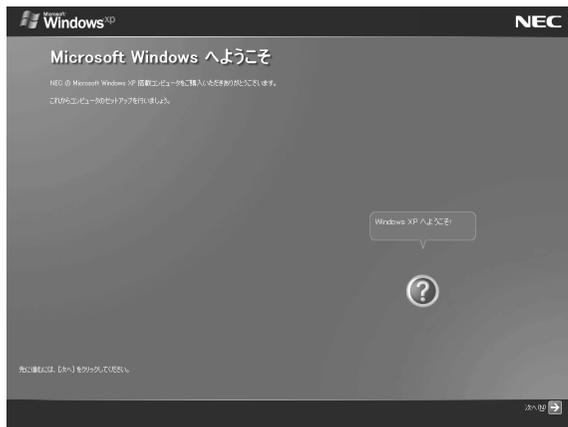
セットアップ手順がすべて終わるまでに、約30分かかります。36ページまでの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源ケーブルをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ手順が完了しないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源ケーブルをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差し直してから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ手順を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC121コンタクトセンターにお問い合わせください。

では、始めましょう

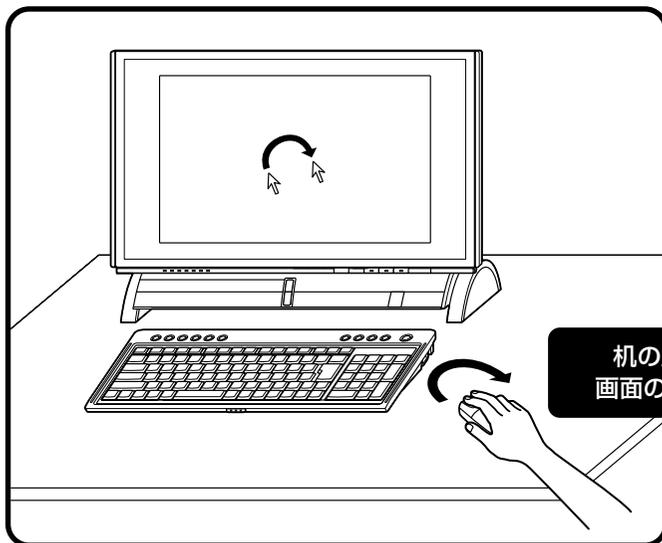
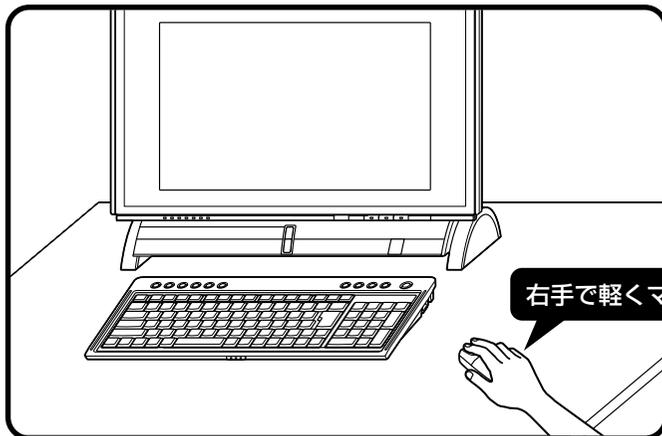
ポイント
- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

1 セットアップの最初の画面を確かめる

「Microsoft Windows へようこそ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

⌛は、「何もしないで待ってて」の合図

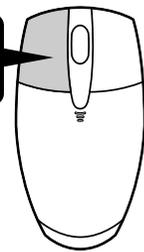
パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面に⌛のマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、マウスのボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

2　マウスを動かす

マウスを動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。マウスを動かすときは、マウスの前後左右に10cm程度のスペースをあけるとよいでしょう。肩の力を抜き、手首だけで動かすことがコツです。

まだ、マウスのボタンを押さないでください。

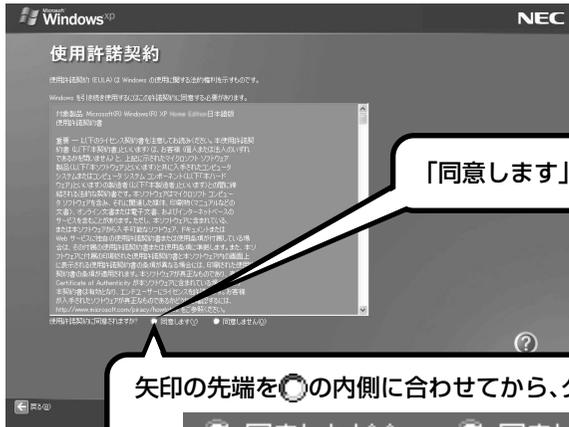
3 画面内の右下を見る

「次へ」の[→]に、マウスの矢印[↖]を合わせてマウスの左ボタンを押すと、画面の表示が切り替わって「使用許諾契約」と書かれた画面になります。

クリック

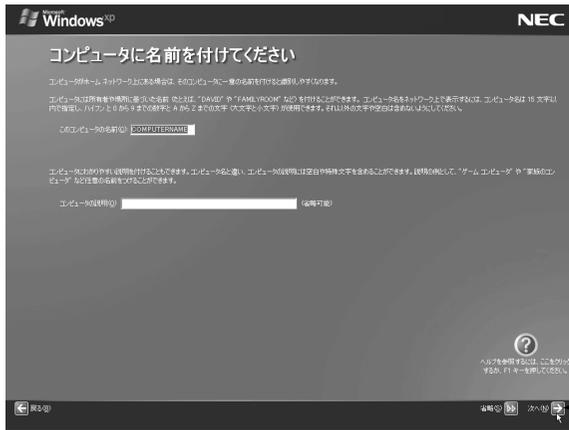
このような操作で、手順を次に進めたり、次のページを表示したりすることができます。これを「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

画面を見ながら手順を進める

ポイント
- 画面に書かれたことを読みながら
- 指示にしたがってクリック

1 使用許諾契約に同意する

これで、使用許諾契約に同意することを選んだことになります。「同意します」の左が◯から◉に変わらないときは、マウスの矢印がうまく合っていなかったので、何度かやり直してください。

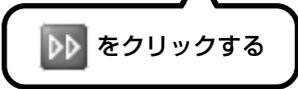
「使用許諾契約」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。この契約に同意していただけないときは、パソコンを使うことができません。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にある▼をクリックします。

2 次の画面に進む

・キーボードの操作に慣れていないかたは、名前を付けずにこのまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を入力してください。適当な名前を思いつかなければ、「VALUESTAR」とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

・コンピュータの名前はセットアップが終わってから変更することもできます。

3　インターネットの接続方法を省略する

インターネットへの接続は、セットアップ作業が終わってから別に設定します。ここでは、そのまま▷▷をクリックしてください。

「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたときも、▷▷をクリックしてください。

上の画面がどちらも表示されずに次ページの画面が表示されることもあります。その場合、次ページの説明に従って進めてください。

4 ユーザー登録せずに次へ進む

「いいえ、今回はユーザー登録しません」の左にある◯をクリックして◉に変えてから、

・「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」と表示されたときは、そのまま次ページの説明に従って進めてください。

・「いいえ、…」を選択しないで手順を進めるとセットアップが途中で止まってしまいます。必ず、「いいえ、…」の左にある◯をクリックして◉に変えてください。

・Microsoftにユーザー登録するのは、セットアップ作業が終わってから行います。

5 インターネット接続せずに次へ進む

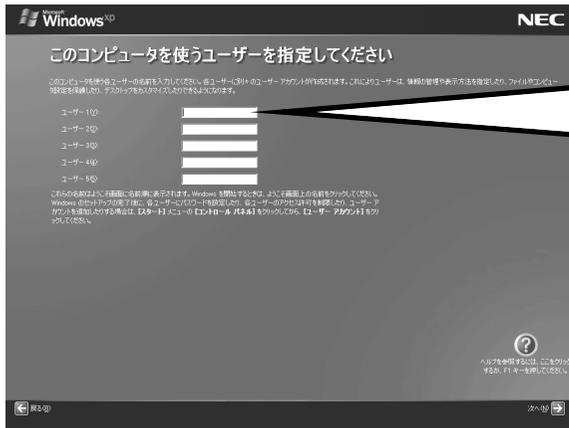
・「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたときは、そのまま次ページの説明に従って進めてください。

・「いいえ、…」を選択しないで手順を進めるとセットアップが途中で止まってしまいます。必ず、「いいえ、…」の左にある◯をクリックして◉に変えてください。

・インターネットへの接続は、セットアップ作業が終わってから別に設定します。

キーボードを使って自分の名前を入れる

● ローマ字（アルファベット）で名前を入れる

1 「ユーザー1」欄に自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒（｜）が点滅しているのを見てから、【半角/全角】キーを1回押して、キーボードから自分の名前をローマ字で押す

【例】「mita」と入力する場合なら

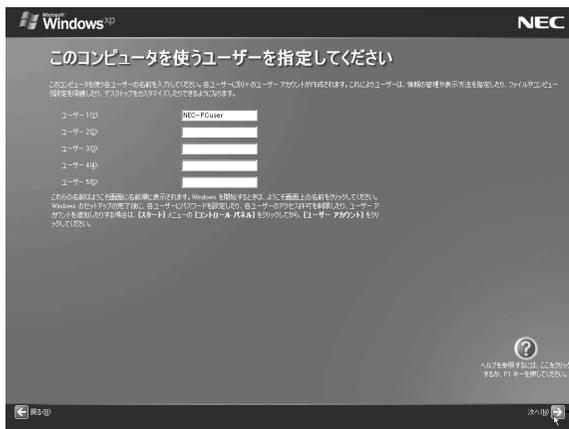
点滅していないときは、「ユーザー1」欄をクリックしてください。

ここでは「ユーザー1」欄だけ入力してください。ユーザー名の追加や変更は、セットアップが終わったあとでできます。

入力を間違えたら

キーボードの【BackSpace】キーを押してください。

ひらがなが表示されるときは

キーボードの【BackSpace】キーを押して、表示された文字をすべて消してください。
次に、キーボードの【半角/全角】キーを押すと、アルファベットが表示されるようになります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名：

パソコンの再セットアップ作業を行うとき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

をクリックする

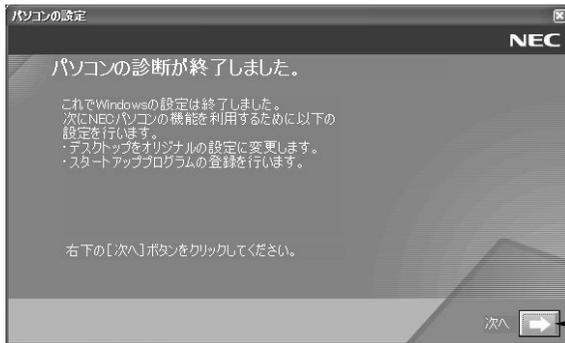
2 さらにセットアップ作業を進める

をクリックする

をクリックすると、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（これを「再起動」といいます）。
次の画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

パソコンが再起動しても、
まだセットアップ作業が残っています。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

3 残りのセットアップ作業に進む

をクリックする

画面には「パソコンの診断が終了しました」と表示されますが、あと少しセットアップを進める必要があります。

121ポップリンクを設定する

● NECから新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 をクリックする

「利用する」の左が
◉になっていることを
確かめてから、

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いの機種に適したお知らせや、必要なNECサポートプログラム情報（ドライバ・修正モジュールなど）をNECからインターネット経由でお届けするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるつど自動的に届くようになります。

121ポップリンクの設定は、あとから利用しないように変更することもできます。

このパソコンのサポートサービスを紹介する映像が表示されます。映像が終了したら、「完了」をクリックしてください。パソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（再起動）。

次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

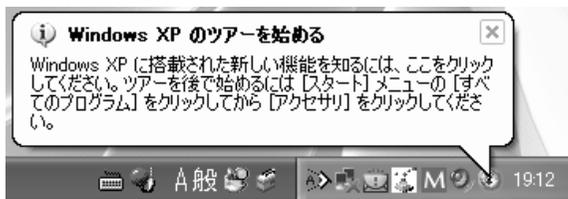
ここで一段落

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

再起動後、「システムの復元ポイントの設定」画面が表示されます。しばらくすると、もう一度再起動します。
ここまでの操作で、パソコンに自分の名前などを登録する、最初のセットアップ手順は一段落です。次回から、パソコンの電源を入れると、1～2分後には、いつもこの画面が表示されるようになります。

複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

パソコンの操作に慣れていないかたへ

まだ画面をクリックしたりしないでください。

画面右下に「Windows XPのツアーを始める」と表示されることがあります。
Windows XPの新機能を紹介するものですが、パソコンの操作に慣れてから見ることをおすすめします。

お客様登録のお願い

お客様登録はこれからパソコンをあんしん・快適にお使いいただく上で非常に重要です。NECパーソナル商品総合情報サイトでは、登録されたお客様に充実したサービス＆サポートを提供しております。この機会に是非ご登録ください。

登録料・会費無料

ご提供するサービス・サポート

特典１　電話サポート

商品についての電話相談窓口「121コンタクトセンター」をご利用いただけます。
詳しくは『121wareガイドブック』をご覧ください。

特典２　メールサービス

ご利用製品のサポート情報やキャンペーンのご案内などをメールマガジンにてお届けいたします。
詳しくは『121wareガイドブック』をご覧ください。

特典３　インターネットサービス＆サポート

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」で「ログインID」を取得していただきますと、さまざまなサービス＆サポートをご利用いただけます。詳しくは『121wareガイドブック』をご覧ください。
ログインIDは、「121ware.com」(http://121ware.com/)およびNECショッピングサイト「NEC Direct」(http://www.necdirect.jp/)で共通にご利用いただけるIDです。取得方法については『お客様登録ガイド』をご覧ください。

NEC121コンタクトセンターに技術的なお問い合わせをする際は、「121wareお客様登録番号」が必要になります。「121wareお客様登録番号」はインターネットで登録された場合、121ware.comのマイアカウントに表示されます。「NECオンラインお客様登録」または「FAX」で登録された場合は、Eメールまたは郵送でお知らせします。

お客様登録の方法

お客様登録をして、電話問い合わせの時に必要な「121wareお客様登録番号」と、Webサービスをご利用になる時に必要な「ログインID」を取得してください。
ご登録いただくことでお客様にあったサービス＆サポートをご提供させていただきます。

インターネットによる登録をおすすめします。
「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにWebサービスが受けられます。
まだ、インターネットをお使いになられないお客様にはオンライン登録／FAX登録をご用意しております。ただし、オンライン／FAXからでは「121wareお客様登録番号」のみの取得となり、Webでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログインID」の取得をおすすめします。

インターネットで登録する

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、この本の第5章または第6章をご覧ください。

インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイアカウント（http://121ware.com/my/）から登録します。詳しくは、『お客様登録ガイド』をご覧ください。

「NECオンラインお客様登録」で登録する

ISDN、ADSL、CATV・光ファイバー等の回線および携帯電話・PHSの接続では、オンライン登録できません。他の方法でご登録ください。

専用のソフトウェア「NECオンラインお客様登録」を使って登録する方法です。登録はパソコン本体に内蔵されたモデムと電話回線を使ってフリーコール（電話料金が無料）で行われるため、まだインターネット接続を設定していないかたでもご利用できます。詳しくは、『お客様登録ガイド』をご覧ください。

「FAX」で登録する

お手持ちのFAXから「03-3763-4821」に電話します。
アナウンスに従って、BOX番号「7612#」を押し、お客様登録申込用紙を取り出してください。
必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。

パソコンを安全に使うための設定を行う

ポイント

- インターネットを利用するときには不可欠
- Windows を最新の状態に
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

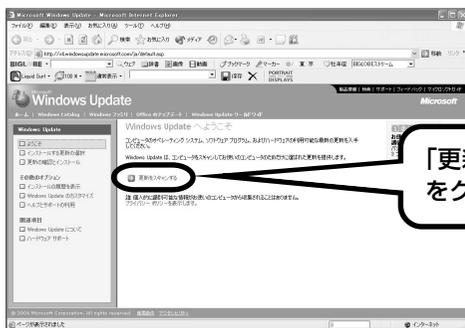
パソコンの操作に慣れていないかたへ

パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、コンピュータウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因となって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的に次の対策を行ってください。

Windowsを最新の状態にする

「Windows Update」を使用すると、インターネット経由で Windows を最新の状態に保つことができます。定期的に（月に 1 回程度）実行するようにしてください。
また、Office 2003 モデルをお使いの場合は、Office のアップデートも行ってください。

**この設定を行う前に、パソコンをインターネット回線に接続して、インターネットの設定をすませてください。
インターネットの設定方法については、第５章または第６章をご覧ください。**

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Update」をクリック

インターネットに接続して、「Windows Update」の画面が表示されます。

通信速度などにより、この画面が表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。

このあとの操作は、画面に表示される指示をよく読んで進めてください。

Windows 最新モジュールのインストール（パソコンへの組み込み）が終了し、パソコンを再起動するようメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。パソコンが再起動すると、Windows が最新の状態に更新されています。
Officeのアップデートをする場合は、上記の画面で「Officeのアップデート」をクリックし、画面の説明を見ながら操作してください。

ウイルス対策ソフトを最新の状態にする

ウイルスとは、インターネットや他人から受け取ったディスクなどからパソコンに侵入して、パソコンを誤作動させたり、内部のデータを破壊する不正プログラムです。パソコンをウイルスから守るために、ウイルス対策ソフト「マカフィー・ウイルススキャン」のアップデート機能で最新の状態にしておく必要があります。

このパソコンに搭載している「マカフィー・ウイルススキャン」では、はじめてアップデート機能を利用した日から 90 日間、無料でセキュリティサービスのアップデートを受けられます。

「マカフィー・ウイルススキャン」を使ったウイルスチェックについては、121 ページをご覧ください。

また、「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」を使って、外部からの不正アクセスを防止することもできます。詳しくは「サポートナビゲーター」をご覧ください。

その他のウイルス対策ソフトを使う

「ソフトチョイスサービス」を利用すると「マカフィー・ウイルススキャン」以外のウイルス対策ソフトを使うことができます。

「マカフィー・ウイルススキャン」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「マカフィー・ウイルススキャン」をアンインストールしてください。

大切なデータはバックアップする

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換して再セットアップすることでパソコンを購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、自分が作った大切なデータの控えを残しておきましょう。データの控えを残しておくことを「バックアップ」と呼びます。

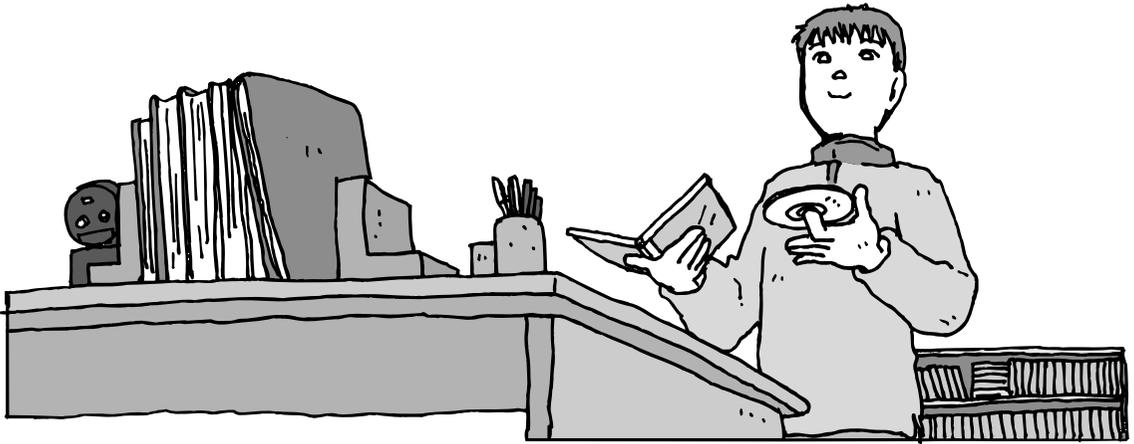
DVD-R や CD-R などにもバックアップしておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ-NX」というソフトを使ってＤドライブにバックアップを残しておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データを元に戻すことができません。このため、このパソコンに搭載されている別のソフト「RecordNow DX」を使って、別売のDVD-R や CD-R などにもバックアップしておくことをおすすめします。

再セットアップ用 CD/DVD-ROM を作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときに行う「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使って行います。けれども、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップ用 CD/DVD-ROM を作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。再セットアップ用CD/DVD-ROMを作成する方法については、139ページをご覧ください。

第4章

基本中の基本の操作

電源の入れ方／切り方、CD-ROM や DVD のディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

電源の切り方

パソコンの電源を切るときは、マウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。いきなり電源ケーブルを抜いたりするのは、絶対ダメです。

1 画面を見ながら、マウスを操作して電源を切る

❶ スタート をクリックして

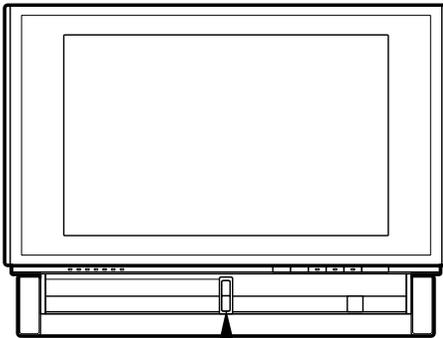
❷「終了オプション」をクリック

この画面が表示されたら、❸「電源を切る」をクリック

コンピュータの電源を切る

スタンバイ(S)　電源を切る(U)　再起動(R)

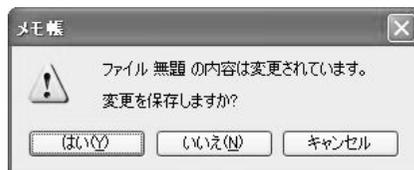
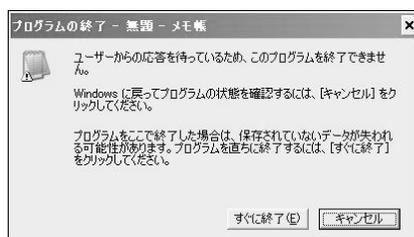
キャンセル

2 電源が切れたことを確認する

数秒後に、ディスプレイの画面が暗くなり、自動的にパソコン本体の電源が切れます。

電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「電源を切る」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

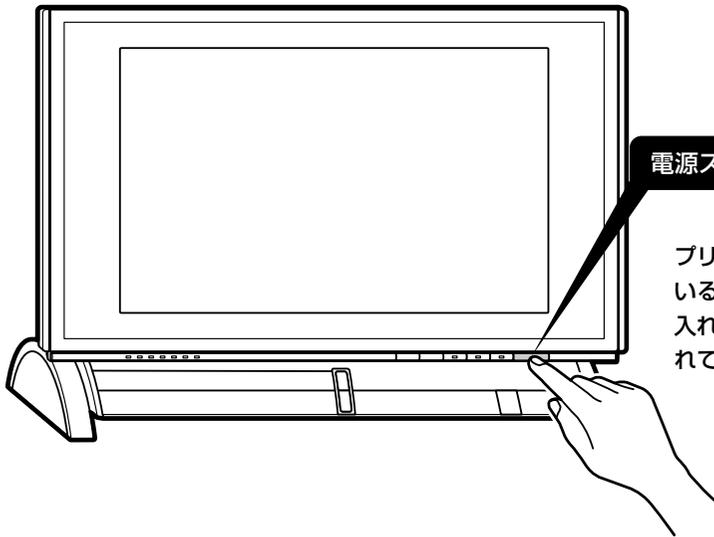
保存していない文書があるとき

ワープロなどのソフトを使っていて作成中の文書がある場合、文書を保存してから終了するか、画面にメッセージが表示されることがあります。

そのままにしていると、数秒後、さらにメッセージが表示されます。
「プログラムの終了」と左上に書かれた画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックすることをおすすめします。使用中のソフトを終了してから電源を切るようにしましょう。

マウスの操作で電源が切れないとき

画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でマウスやキーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを４秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから５秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れ直してください。パソコンの電源が入ったら、改めてマウスの操作で電源を切ってください。

パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。

電源の入れ方

電源スイッチを押して電源を入れます。省電力機能が働いて画面に何も表示されていないときは、電源スイッチを押すと画面が暗くなる前の状態に戻ります。

1 電源スイッチを押す

プリンタなどの周辺機器を接続しているときは、パソコン本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を先に入れてください。

１～２分後に、パソコンを使い始めるときの画面が出てきます。

複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

スタンバイ機能について

パソコンを使っているとき短時間だけ作業を中断したい場合、そのつど電源を切っていると、作業の再開に時間がかかってしまいます。「スタンバイ機能」を利用すると、パソコンの消費電力を抑えながら、すぐに作業を再開することができます。

20分以上使わないと自動的に画面が消える(購入時)

マウスやキーボードを操作していない時間が20分以上たつと、画面の表示が消えて暗くなり、パソコン本体の電源ランプが青色に点滅します。この状態を「スタンバイ状態」と呼びます。購入時には、自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。
スタンバイ状態では、消費電力を抑えるため、パソコン本体に内蔵されているハードディスクの電源も自動的に切れます。

元に戻すには、電源スイッチを押す(押し続けないこと)

パソコン本体の電源スイッチを押すとスタンバイ状態になる前の画面が表示されます。

電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

自動的にスタンバイ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスタンバイ状態にならないように設定を変えることができます。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 「パフォーマンスとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリック

3 「電源設定」で「システムスタンバイ」を「なし」に変更

これで、設定の変更は終わりです。

省電力機能の詳しい説明は、「サポートナビゲーター」で

スタンバイ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。パソコンの使用状態や利用するソフト、周辺機器によっては、省電力機能を使わないほうがよいことがあります。詳しくは、パソコンの画面で利用するマニュアル「サポートナビゲーター」に説明があります。サポートナビゲーターを利用する方法については、別冊の『活用ブック』をご覧ください。

各部の名称と役割

ここでは、基本的なボタンなどに限って説明します。パソコン本体側面の端子類の説明など、詳しい情報を知りたいときは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」の「パソコン各部の説明」をご覧ください。

パソコン本体

CDアクセスランプ

CDやDVDを読み書きしているときに点滅・点灯します。
点滅・点灯中は、電源スイッチを押さないでください。

電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。

⓵ランプ

このランプが点灯しているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー)で数字を入力できます。

電源ランプ

電源が入っているときは、水色に点灯します。
スタンバイ状態のときは、青色に点滅します。
電源が切れているときは、消灯しています。

CD/DVDドライブ

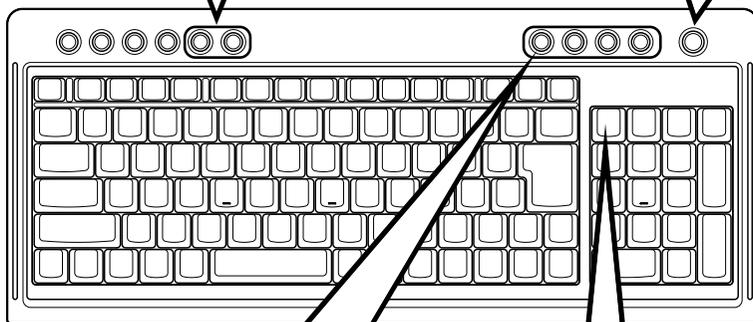
CD-ROMやDVD-ROM、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。

キーボード

ボリュームボタン

を押すと大きくなり、を押すと小さくなります。

電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるときや、省電力状態から復帰するときに押します。パソコン本体の電源スイッチと同じように働きます。

ワンタッチスタートボタン

(メール)
メールを利用するためのソフトが始まります。

(インターネット)
ホームページを見るためのソフトが始まります。

SUPPORT
パソコンの画面で説明を見るマニュアル「サポートナビゲーター」が始まります。

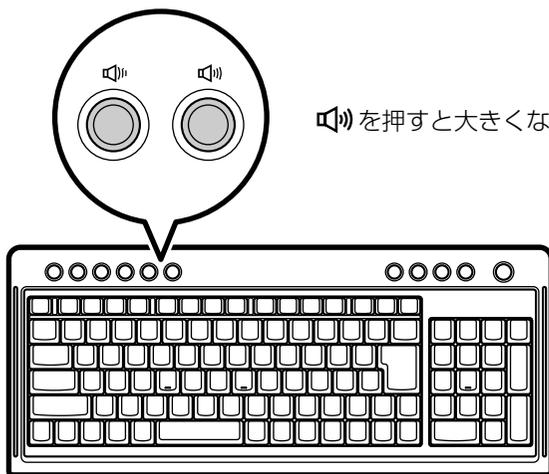
SOFT
このパソコンに入っているいろいろなソフトを利用するための「ソフトナビゲーター」が始まります。

【NumLock】キー

このキーを押すと、ディスプレイ左下にあるランプの点灯／消灯が切り替わります。

音量を調節する

パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。

キーボードから音量を調節する

🔊 を押すと大きくなり、🔉 を押すと小さくなります。

CD-ROMやDVDの扱い方

CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

・ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。

・Windows 95/98/Me対応のCD-ROMは、このパソコン（Windows XP）で使えないものがあるため、ご購入前に確かめてください。

・Macintosh専用と表示されたCD-ROMは使えません。

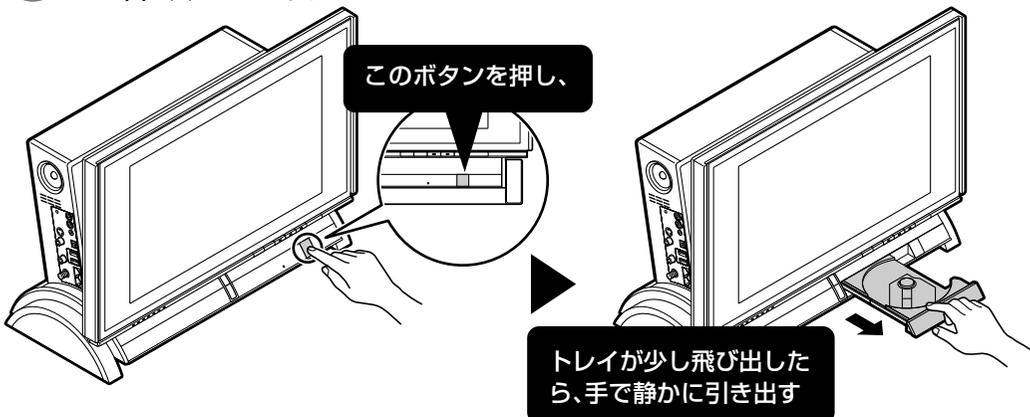
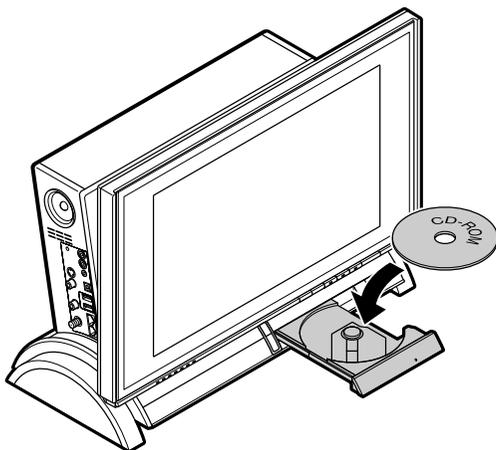
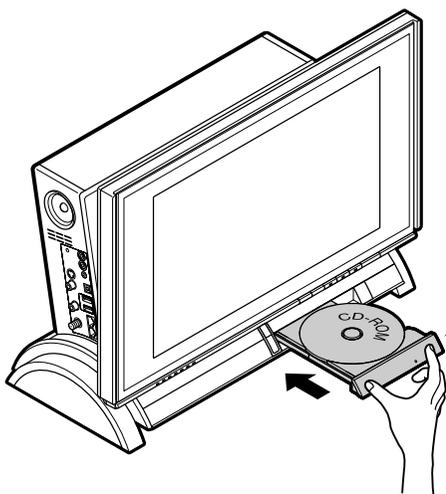
・このパソコンで使えるディスクについて、詳しくは「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「CD/DVDドライブ」をご覧ください。

ディスクを取り扱うときの注意

以下の注意事項を守ってください。

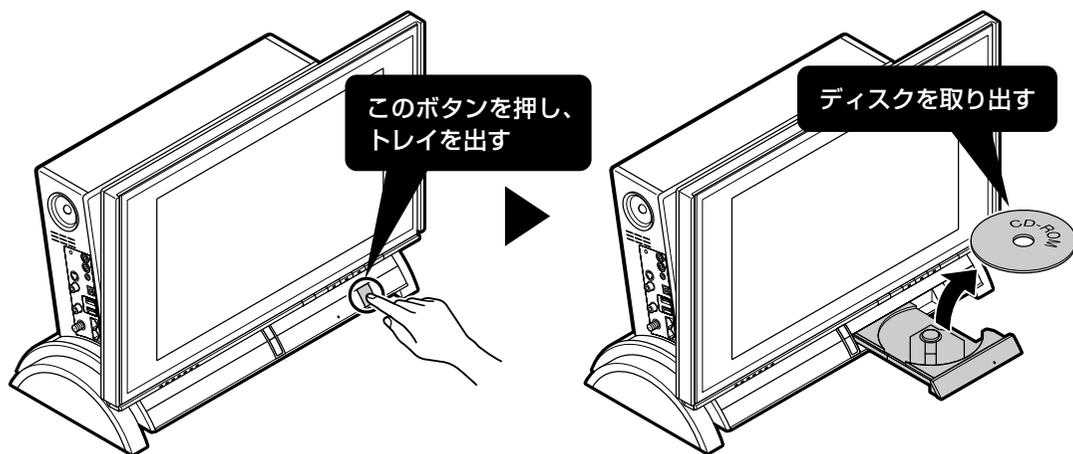
・信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないように。
・ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
・ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先の柔らかいものを使う。
・ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
・汚れたときは、柔らかい布で内側から外側に向けて拭く。
・汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
・ベンジン、シンナーなどは使わない。
・ゴミやホコリの多い場所で使わない。
・直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。

1 イジェクトボタンを押してトレイを出す

トレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出し入れできます。

2 ディスクを入れる

トレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込んでください。

CDシングル（直径8cm）の大きさのディスクは使えません。市販のCDシングル用アダプタは使わないでください。故障の原因になります。

こんな画面が出てきたら

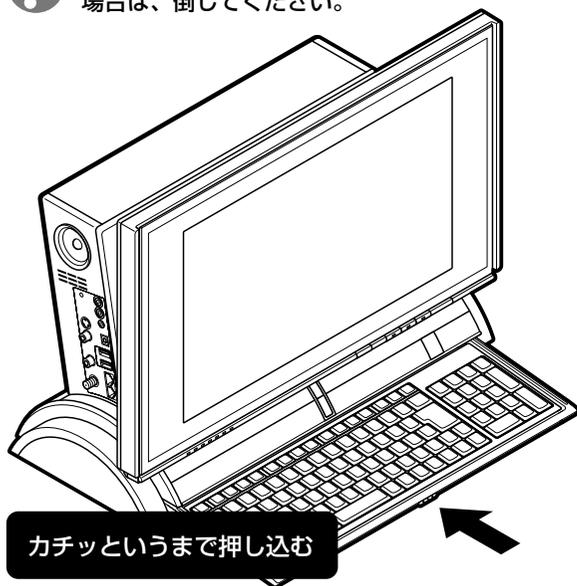
音楽CD（オーディオCD）などを入れてからしばらくすると右のような画面が表示されることがあります。「再生」や「ファイルの表示」など、やりたいことをクリックして選び、「OK」をクリックしてください。

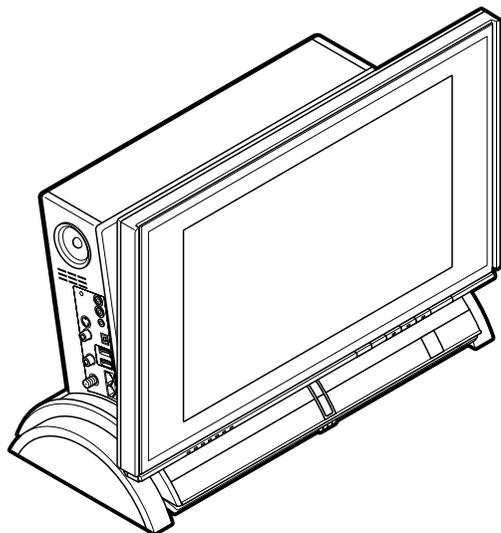
3 ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、トレイを押して、収納してください。

キーボードを収納する

キーボードを使用しないときは、パソコン本体の下に収納することができます。

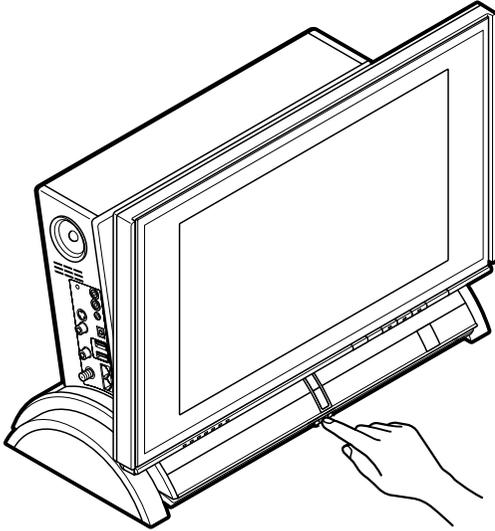
1 キーボードをパソコン本体の下に入れる

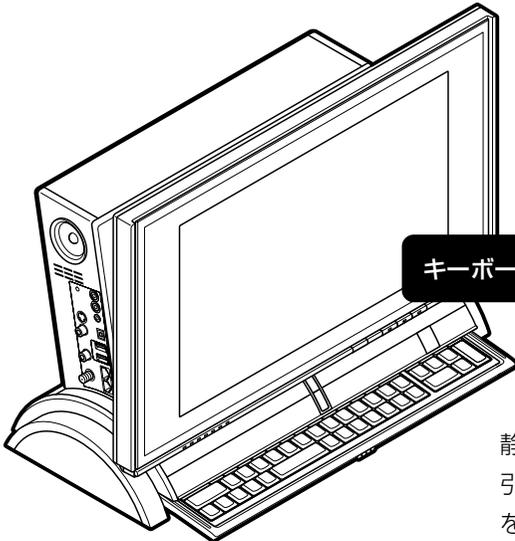
キーボード裏面の足を立てている場合は、倒してください。

キーボードを本体の下に入れて、そのまま奥にスライドさせます。

キーボードを斜めにしないように、水平に入れてください。

パソコンの電源が入っている場合、キーボードを奥まで押し込むと、「MediaGarage」というソフトが起動します。
すでに「MediaGarage」が起動していると、「MediaGarage はすでに起動されています…」というダイアログが表示されます。その場合は「OK」をクリックしてください。

キーボードを収納したときに、パソコンの電源を切ったり、他のソフトを起動するように設定を変更することもできます。「ソフトナビゲーター」から「キーボードシンクロナイザー」を起動し、表示される画面で設定してください。

2 キーボードを取り出す

キーボード前面の中央部分を少し押します。

キーボードを取り出したときに、パソコンの電源を入れたり、休止状態から復帰するように設定することができます。「ソフトナビゲーター」から「キーボードシンクロナイザー」を起動し、表示される画面で設定してください。

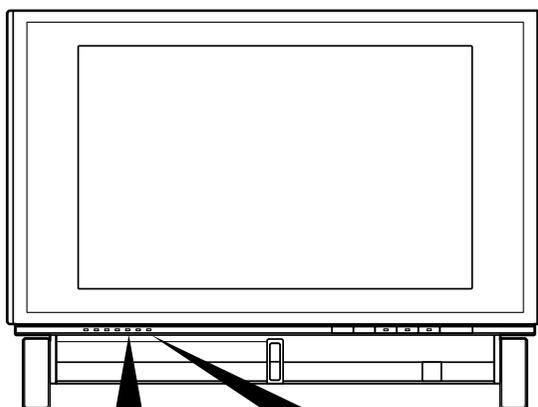
▼

静かに引き出してください。
引き出したら、必要に応じてキーボード裏面の足を立ててください。

パソコンがはじめてのかたへ

パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろはⅡ」が入っています。

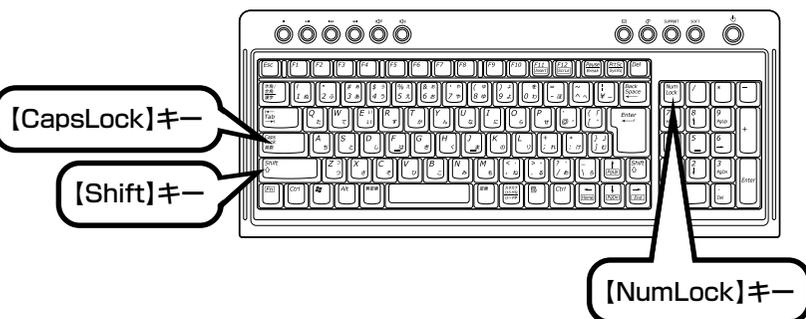
他のソフトが起動している場合、そのソフトを終了してください。

ここに何も表示されていないときは、他のソフトは起動していません。

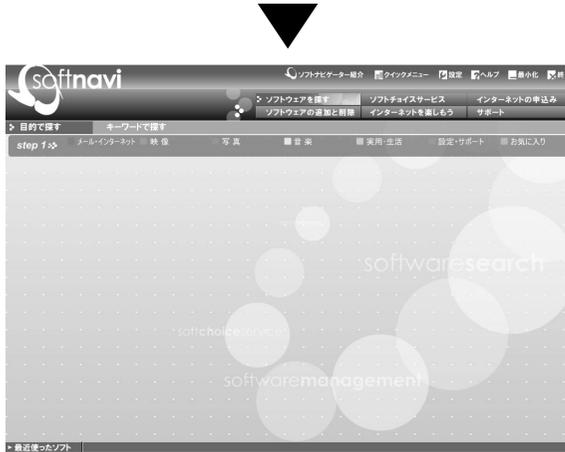
1 ディスプレイ左下のランプを確認する

ランプが消えていること

このランプが点灯していると、アルファベットが大文字で入力されてしまいます。【Shift】キーを押したまま【CapsLock】キーを押すと、ランプの点灯／消灯が切り替わります。

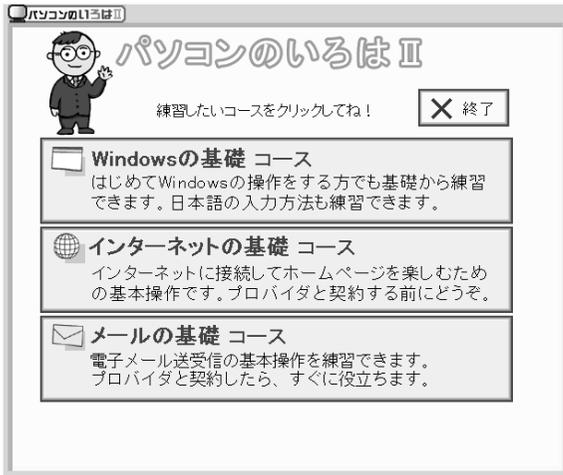
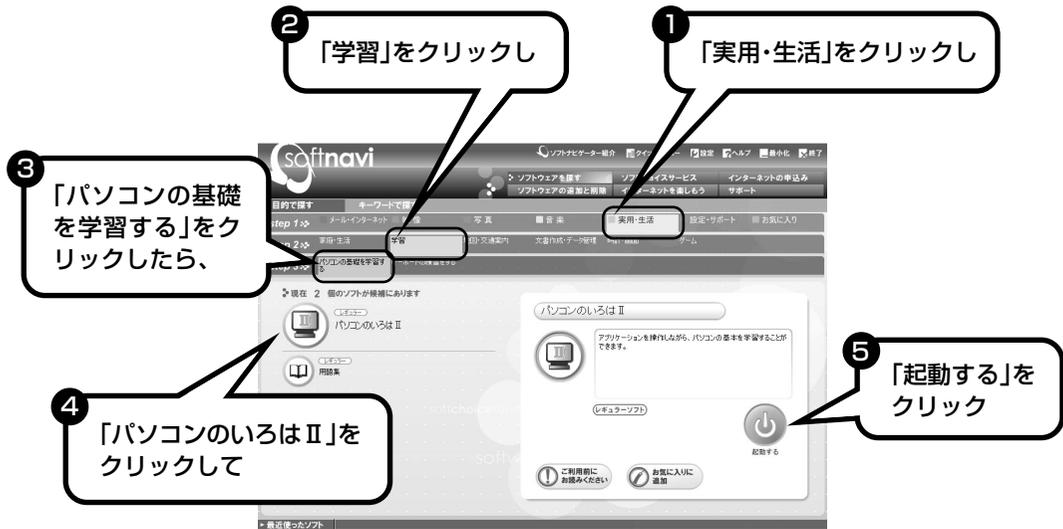
ランプが点灯していること

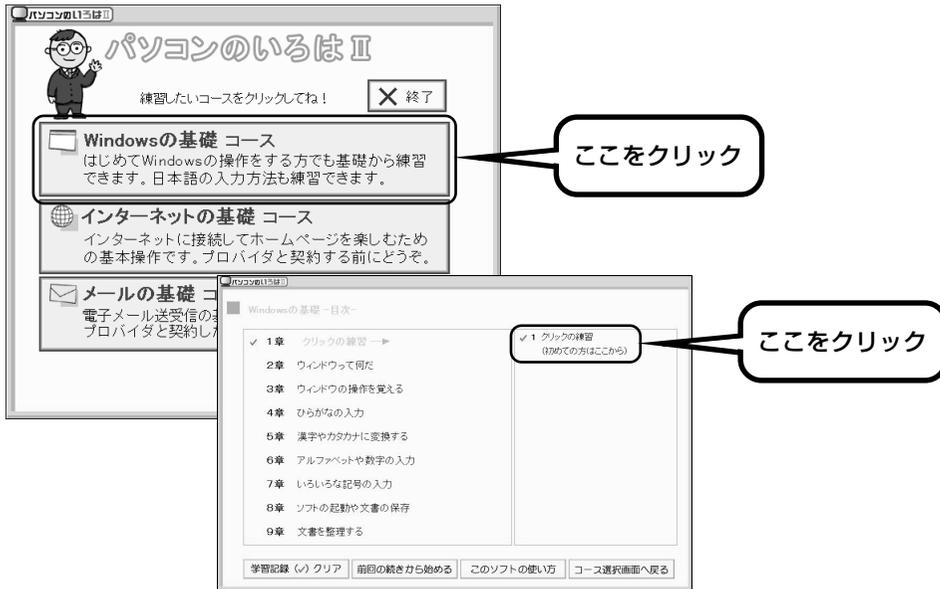
このランプが消えていると、キーボード右側にある電卓のように数字が並んだキー（テンキー）から数字が入力できません。【NumLock】キーを押すと、ランプの点灯／消灯が切り替わります。

2 ソフトナビゲーターを起動する

マウスの矢印を合わせてクリック

▼

ソフトナビゲーターとは

このパソコンに入っているソフトを見つけたり、使い始めるときに利用します。ソフトナビゲーターについて詳しくは、別冊の『活用ブック』をご覧ください。

3 「パソコンのいろはⅡ」を始める

「パソコンのいろはⅡ」の最初の画面が表示されます。

4 「Windowsの基礎コース」へ進む

パソコンを使うのがはじめてのかたは、「クリックの練習」から始めてください。1～2時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろはⅡ」を終わることもできます。その場合、画面右上に表示されている［× 終了］をクリックしてください。画面中央に「パソコンのいろはⅡを終了します」と表示されるので、「OK」をクリックします。

「終了」をクリックしても「パソコンのいろはⅡを終了します」と表示されないときは、キーボードの【Esc】キーを押してから、再度「終了」をクリックしてください。

「メールの基礎コース」は、インターネットの設定が終わってから

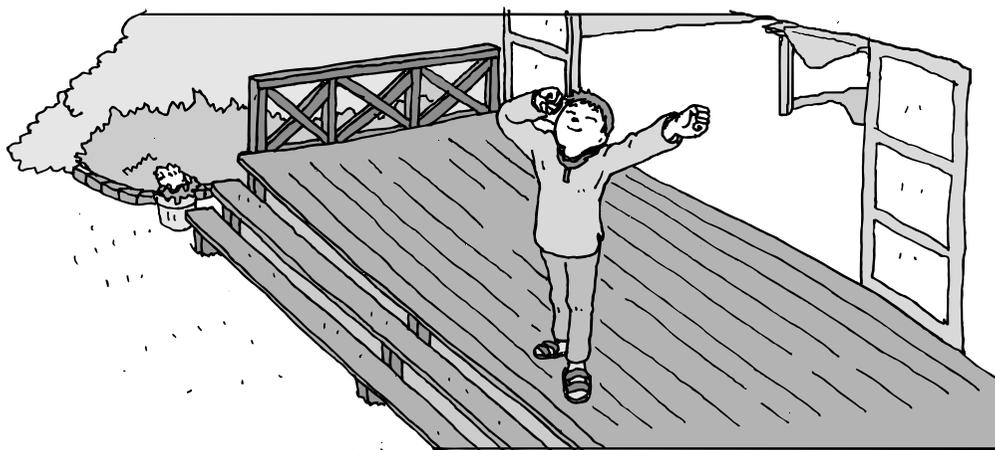
「パソコンのいろはⅡ」には、次の３つのコースがあります。

・Windowsの基礎コース
・インターネットの基礎コース
・メールの基礎コース

パソコンがはじめてのかたは、「Windowsの基礎コース」から順番に進めることをおすすめします。「メールの基礎コース」は、メールソフト「Outlook Express」の設定が済んでいないと練習することができません。Outlook Expressを使うには、まずプロバイダに加入して、インターネット接続の設定をする必要があります。加入がまだのかたは、プロバイダに加入して、インターネット接続ができるようにしてください。

プロバイダへの加入、インターネットの設定については、第５章をご覧ください。
Outlook Expressの設定については、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「Outlook Express」をご覧ください。

第 5 章

これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者（プロバイダ）に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第６章　パソコンを買い換えたかたへ」（91 ページ）へ進んでください。

インターネットの魅力

インターネットは、わずかの間にものすごい勢いで普及が進んで、私たちの生活に身近なものになりました。

ホームページ

インターネットは情報の宝庫です。役所などの公共機関や大きな企業だけでなく、近所の商店や小さな工場まで、本当にいろいろな人たちが、自分のホームページを持つようになりました。いろいろな調べものに便利なことはもちろんですが、電車の乗り継ぎや発車時刻をホームページで調べたり、バーゲンセールの目玉商品をホームページで確かめたりするなど、インターネットがあれば、生活のちょっとしたことが便利になります。

メール

インターネットを利用したメール（「電子メール」とか「eメール」ともいいます）を使うと、家族や友人、仕事や趣味の仲間たちと手軽に連絡することができます。日本全国どこでも、世界中のどこにいる人とでも、料金を気にせず用件を伝えられること。デジカメで取った写真などをメールと一緒に送信できること。相手が都合のよいときにメールを見ればよいので、時間帯を気にしなくてよいこと。このような便利さのために、いまでは、たくさんの人たちにとって、メールが欠かせない通信手段になっています。

まだまだある、インターネットの魅力

インターネットの通信回線を使って、格安の料金で市外電話や国際電話を利用することができる「IP電話」というサービスを利用することもできます。ホームページを経由して、買い物をしたり（「オンラインショッピング」といいます）、ソフトやデータを自分のパソコンに取り入れたり（「ダウンロード」といいます）、使う人それぞれにインターネットはさまざまに活用されています。

いろいろある接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがあります。はじめに、ダイヤルアップ接続か、ブロードバンド接続かを決めましょう。

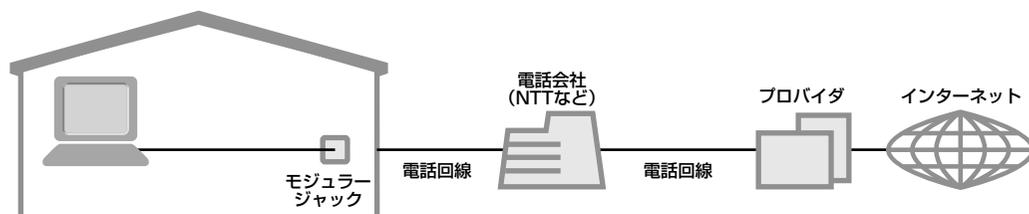
ダイヤルアップ接続

家庭にある一般の電話回線にパソコンを接続して、インターネットを利用します。このパソコンには、モデム（データを電話回線経由でやりとりできるように変換する装置）が内蔵されているため、付属のモジュラーケーブルを使って、いますぐにインターネットを始めることができます。別に新しい機器を購入する必要はありません。また、接続した時間分だけ料金を支払うことができるため、利用頻度や利用時間が少ない場合には、いちばん安い料金でインターネットを利用することができます。

ダイヤルアップ接続の短所も知っておこう

けれども、このあとに説明する「ブロードバンド接続」と比べると、この接続方法には次のような短所もあります。このため、ホームページの利用頻度が少なく、メールを中心にインターネットを利用したいかたに向いています。

・通信速度が遅いため、ホームページがなかなか表示されないことや、動画などを再生できないことがある。

・パソコンでインターネットを利用しているときは、電話が使えない（電話をかけてきた相手には、話し中になります）。

ブロードバンド接続

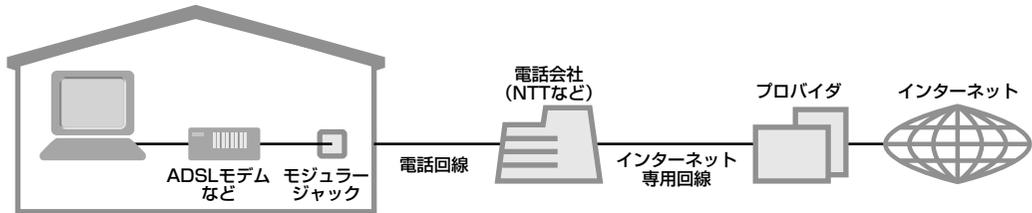
大量のデータを高速に受け取ることができる通信方式を使って、快適にインターネットを利用できるようにする接続方法です。次ページで説明するように、ブロードバンド接続にもいろいろな種類がありますが、おおよそ次のような特徴があります。

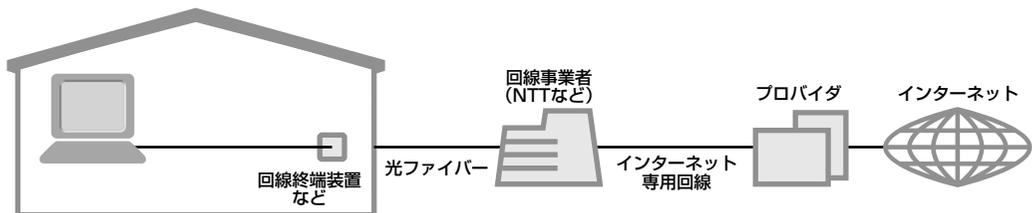
・いくらインターネットを利用しても、月額料金が変わらない（定額料金）。
・パソコンでインターネットを利用しているときも、電話が使える。
・接続するには、別の機器（ADSL モデムなど）が必要になる。
・回線の申し込みや工事が必要になることがある。
・住んでいる地域によっては、利用できないことがある。

ブロードバンドにもいろいろある

インターネットを高速、快適に利用できるブロードバンド接続には、次のような種類があります。

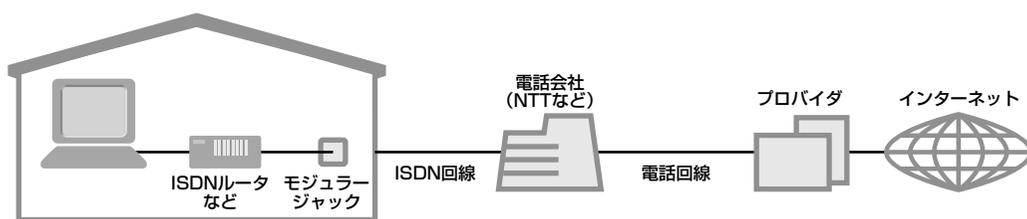
ADSL(エーディーエスエル)

家庭にある一般の電話回線とパソコンの間に、ADSLモデムなどの接続機器を入れることによって、高速な通信ができます。

FTTH(エフティーティーエイチ)

光ファイバーを使った回線を利用するもので、他のブロードバンド方式よりも高速に接続できます。サービスが提供されていない地域があり、利用料金も他のブロードバンド方式よりは高めに設定されています。

CATV(ケーブルテレビ)

ケーブルテレビの回線を使ってインターネットに接続します。ケーブルテレビのサービスが提供されていない地域では利用できません。

ISDN回線でインターネットも利用できる

NTTのデジタル回線、ISDNに契約している場合、この回線を使ってインターネットを利用することもできます。通信速度は、アナログ回線を使ったダイヤルアップ接続より少し高速になる程度で、ブロードバンド接続ほどの速さを期待することはできませんが、電話とインターネットを同時に利用できます。また、料金も従量制（使った時間に応じて料金が変化）だけでなく、定額制（いくら使っても同じ金額）を選ぶこともできます。

ブロードバンド接続の流れ

ADSLの場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。ダイヤルアップ接続するかたは、68ページの「アナログ回線に接続する」へ進んでください。

1 プロバイダや申し込みたいコース(料金プラン)を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。とくに会社を決めていない場合、NECのBIGLOBE に加入することをおすすめします。

2 プロバイダに申し込む

このパソコンから直接申し込むことができます。まず、パソコンをアナログ回線に接続してから、69 ページの手順に沿って操作を進めます。

3 ADSL回線の開通を待つ

ADSL は、回線を NTT 東日本および西日本が提供するもの（フレッツ・ADSL）と、別の回線事業者（イー・アクセスやアッカなどという会社があります）が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース（料金プラン）が分かれています。ADSLを利用できるか適合チェックを行ってから、必要に応じてADSL対応モデムの準備や電話回線の工事などを行います。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります（BIGLOBE などのプロバイダは、申し込んでから ADSL 回線が開通するまでの間、ダイヤルアップ接続でインターネットを利用できるようにしています）。

4 回線装置を接続して、パソコンの設定を変更する

ADSL モデムなどの回線装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。

申し込みたいコース(料金プラン)を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線提供業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース（料金プラン）を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット（BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など）を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダに問い合わせてください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

ADSL以外の接続の場合

FTTH

NTT東日本および西日本が提供する「Bフレッツ」のコースを選んだ場合、光ファイバーの利用が可能か、NTTの担当者がコンサルティングを行います。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。

CATV

ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。

ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「フレッツISDN」が該当します。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り替え工事を行い、TA（ターミナルアダプタ）などのISDN接続機器を設置する必要があります。

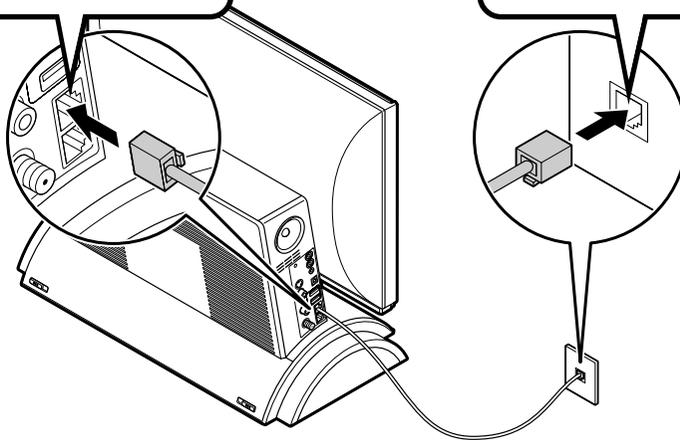
アナログ回線に接続する

このパソコンからプロバイダに入会を申し込む前に、パソコンと電話線を接続する必要があります。

1 図のように接続する

❶ 電話機を壁などの電話接続用コンセント(モジュラーコンセント)から取り外す

❷ 付属のモジュラーケーブルを接続する(パソコン側)

❸ 付属のモジュラーケーブルを接続する(壁側)

パソコンと電話回線をつなぐモジュラーケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

インターネット無料体験について

画面に表示されている(インターネット無料体験)をダブルクリックすると、専用ソフトが起動して14日間無料でインターネットを体験できます(電話料金は別途かかります)。プロバイダに入会を申し込む前に、インターネットのホームページを体験することができます。

有効期限は2006年3月31日までです

プロバイダに加入する

BIGLOBEに加入する場合を例に、プロバイダ（インターネット接続業者）に加入する手順を説明します。

・ここでは、このパソコンから直接加入する手順を説明します。キーボードから自分の名前や住所などを入力する必要があります。

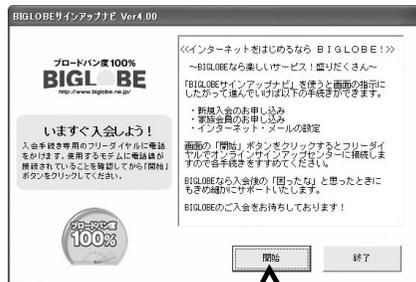
・プロバイダの加入申込書に記入して、FAXや郵送で申し込むこともできます。BIGLOBEの加入申込書は、別冊の『インターネット活用ブック』に入っています。

プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに24時間つながっているコンピュータ（「サーバー」といいます）を管理しています。このサーバーがあるおかげで、自分のパソコンの電源を切っているときでも、自分宛のメールを受け取ったりすることができるのです。プロバイダに加入すると、サーバーを中継役としてインターネットにつなげることができます。プロバイダは、「ISP（インターネット・サービス・プロバイダの略）」と呼ばれることもあります。

1 BIGLOBEへの加入手順を始める

画面の（BIGLOBEでインターネット）をダブルクリックする。

この画面が表示されます。

このあとの手順は、画面に表示される指示に従って進めてください。

その他のプロバイダに加入するには

画面の (インターネットを始めよう) をダブルクリックすると、さまざまなプロバイダに加入することができます。

クリックしたプロバイダのサービス内容などが、同じ画面の右側に表示されます。その中から「入会する」などの表示をクリックすると、各プロバイダへの加入手続きが始まります。

この方法で加入できるのは、次のプロバイダです。

BIGLOBE、AOL、NTT東日本、DION、OCN、ODN、POINT、So-net、@nifty、かるがるネット、Yahoo! BB

ケーブルテレビなど、上記以外のプロバイダに加入したい場合、各プロバイダまでお問い合わせください。

ダイヤルアップ接続の設定

ダイヤルアップ接続を選んでプロバイダに入会したかたは、ここでパソコンの設定を行ってください。ブロードバンド接続を選んだかたで、回線が開通するまでの間ダイヤルアップ接続を行うかたも、同じように設定してください。

1 「インターネットのプロパティ」で設定する

2 インターネットに接続する

BIGLOBEなど、このパソコンから直接プロバイダに加入した場合、「ユーザー名」と「パスワード」の欄には加入時の情報が入力されています。これらの欄が空欄になっているときは、申し込んだプロバイダまで設定方法をお問い合わせください。

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、加入時に決まるものです（一般には、メールアドレスと違って自分で好きなものを選ぶことはできません）。プロバイダによっては、「ユーザID」、「ログイン ID」、「アカウント名」などと呼ばれることがあります。

パスワードとは

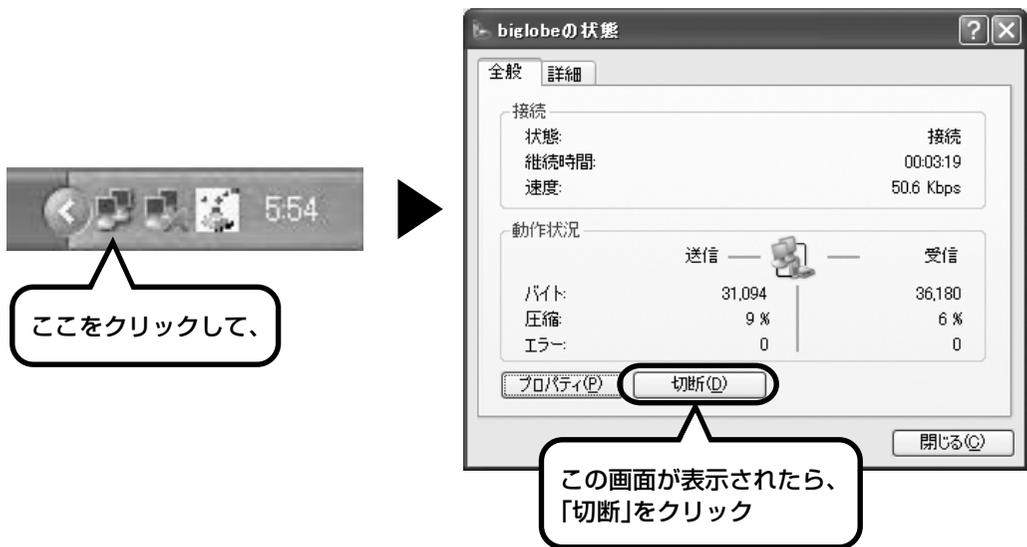
本人であることを証明するための暗証番号です。他人に悪用されることがないよう「＊＊＊」で表示されます。プロバイダによっては「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

しばらくすると、インターネットに接続され、画面右下に「接続しました」と表示されます。このときに表示されるマークを、「接続アイコン」と呼びます。このマークが出ているときは、インターネットに接続中で、パソコンが電話回線を使用している（＝電話料金がかかっている）ことを表します。

正式なIDとパスワードが発行されたときは

プロバイダによっては、最初に加入申し込みを受け付けるときに仮のIDとパスワードを決め、あとから郵送される会員証などで正式のIDとパスワードを知らせてくることがあります。その場合、会員証を受け取ったら、「ユーザー名」と「パスワード」の欄に、正式なものを入力しなおしてください。

3 インターネットへの接続を切る

インターネットへの接続を切る（電話を切る）ときは、画面右下に表示されている（接続アイコン）をクリックします。

インターネットへの接続が切れると、（接続アイコン）の表示が消えます。

メールの設定は、84ページで

メールを使えるようにするには、このパソコンに入っているメールソフトOutlook 2003の設定を行う必要があります。

ブロードバンド回線に接続する

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続します。

必要なもの

LAN ケーブル

ADSL モデムなどに添付されていなければ、LAN ケーブルをお買い求めください。LAN ケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の 2 種類があります。パソコンと ADSL モデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

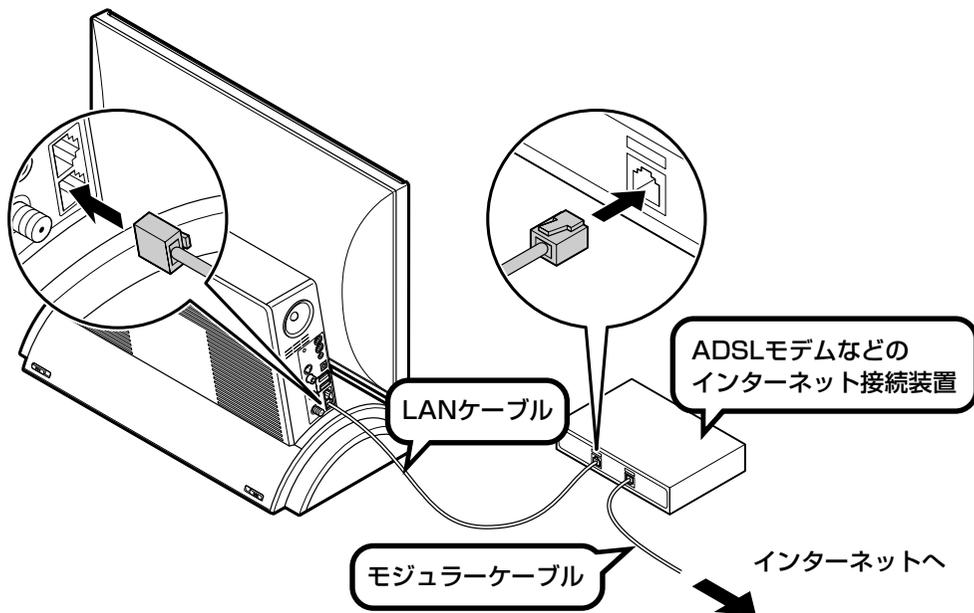
ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、加入申し込みの時点で、プロバイダにご確認ください。

・ADSL：ADSL モデム

・FTTH ：回線終端装置（回線工事で設置）

・CATV：ケーブルモデム（CATV 開通工事で設置）

・ISDN ：TA（ターミナルアダプタ）

1 図のように接続する

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ブロードバンド接続の設定

パソコンを通信回線に接続したら、次のように設定してください。

・ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。
・ADSL の場合、モデムのタイプによって手順が異なります。該当する説明をご覧ください。

ブリッジタイプのADSLモデムを設定する

ルータタイプのADSLモデムをお使いの場合および、FTTHの回線終端装置をお使いの場合は、このあとの「ルータタイプの ADSL モデムを設定する」へ進んでください。

1 ウィザードを表示する

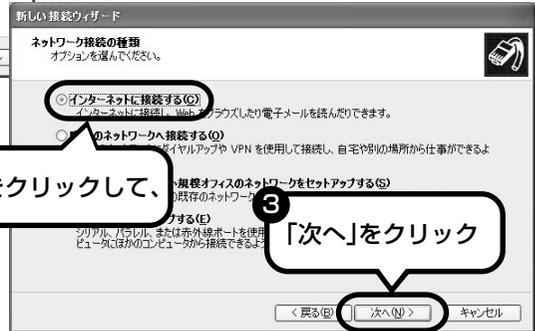
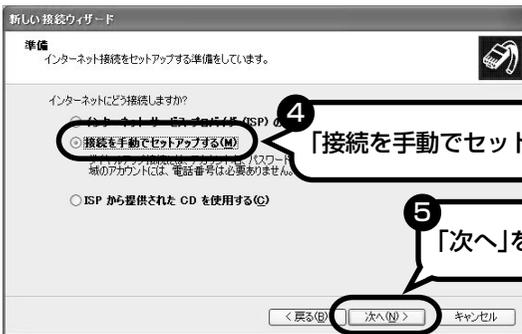
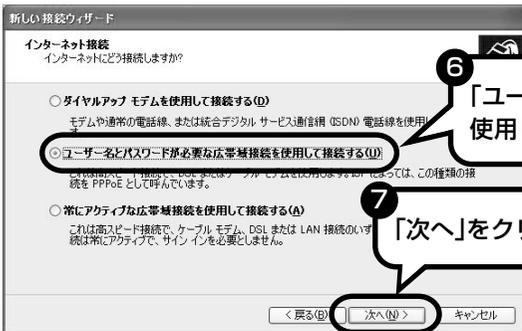
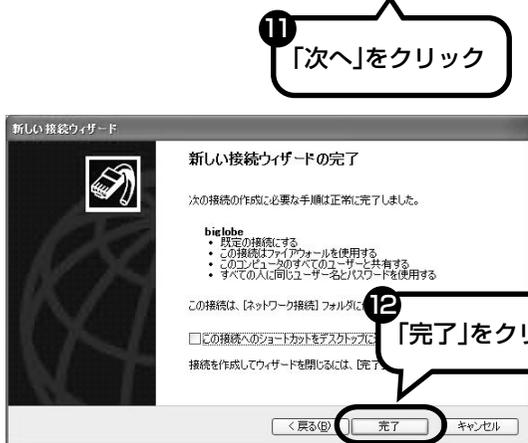
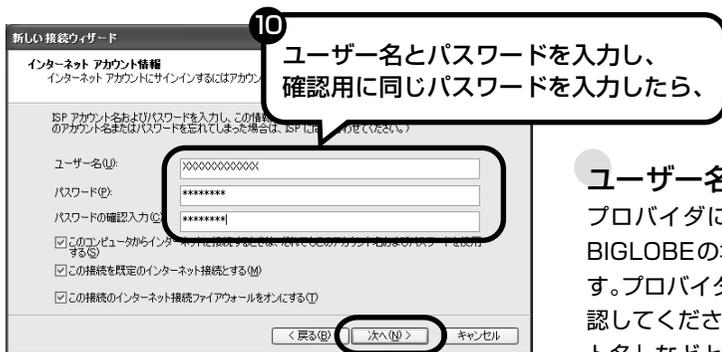
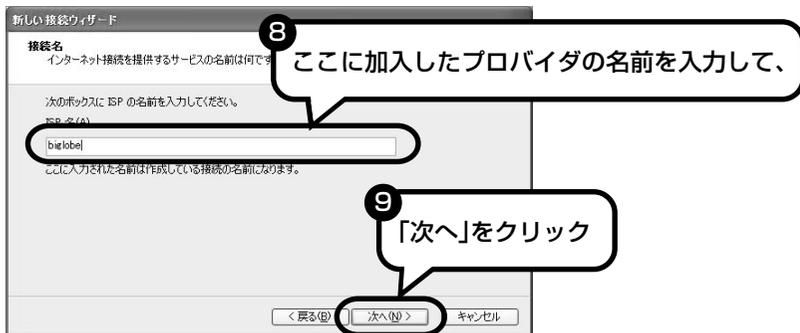
❶ スタート をクリックして、

❷「コントロールパネル」をクリック

❸「ネットワークとインターネット接続」をクリック

❹「ネットワーク接続」をクリック

❺「新しい接続を作成する」をクリック

2 ウィザードに従って操作する

「完了」をクリックすると、新しい接続ウィザードの画面が閉じ、プロバイダに接続するための画面が開きます。

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、BIGLOBEの場合は「ユーザID」と呼ばれます。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

3 「インターネットのプロパティ」で「LANの設定」をする

☑ になっている項目があるときは、クリックして □ に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

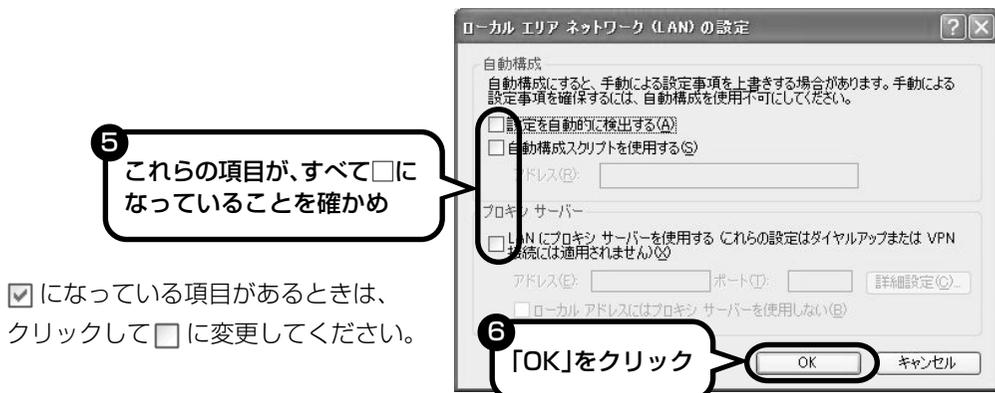
これで、ブリッジタイプの ADSL モデムの設定は完了です。
83 ページへ進んでインターネットへの接続を試してください。

ルータタイプのADSLモデムを設定する

FTTHを利用するかたも、同じように設定してください。

1 インターネットのプロパティを表示する

2 「ダイヤルしない」に設定する

接続先が何も表示されていない場合は、そのままでかまいません。

☑ になっている項目があるときは、クリックして □ に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

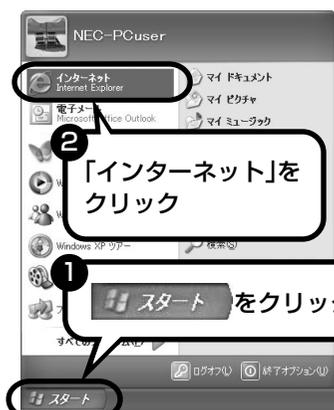
3 パソコンを再起動する

しばらくすると、パソコンの電源が切れ、自動的にもう一度電源が入ります（再起動)。

これで、ルータタイプの ADSL モデムの設定は完了です。
次ページへ進んでインターネットへの接続を試してください。

インターネットに接続する

インターネットに接続できるか確かめましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ブリッジタイプをお使いの場合

以下の接続用画面が表示されます。
「接続」をクリックすると、Internet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。USB接続するADSLモデムをお使いの場合も同じです。

ルータタイプをお使いの場合

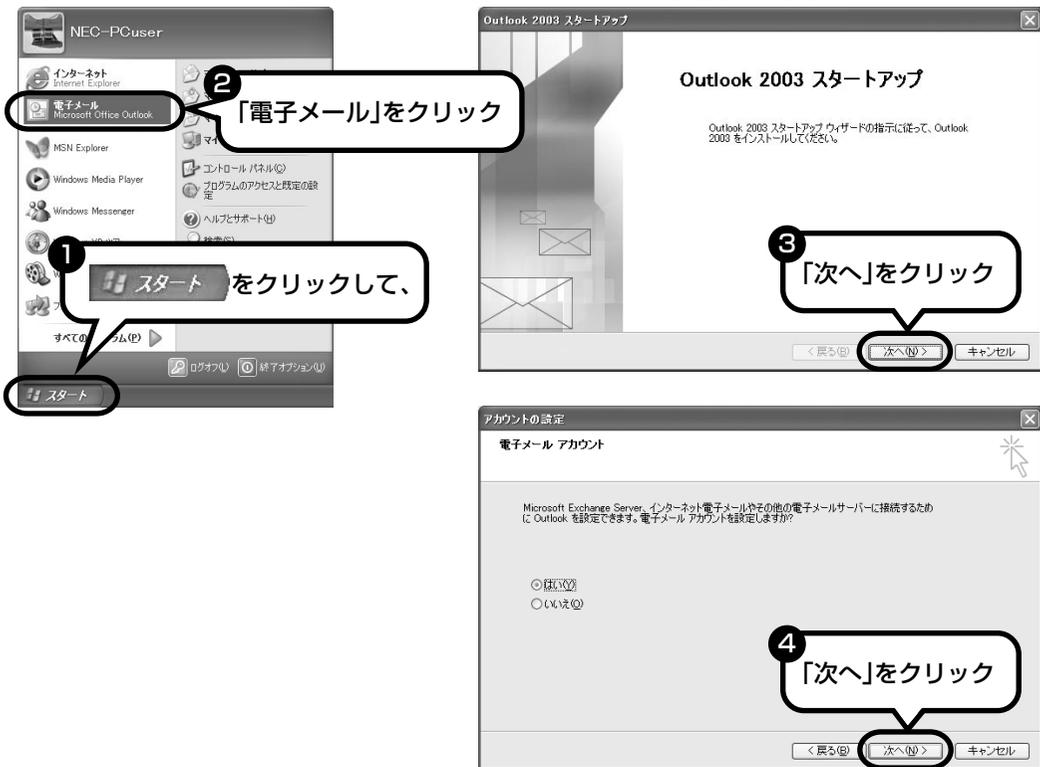
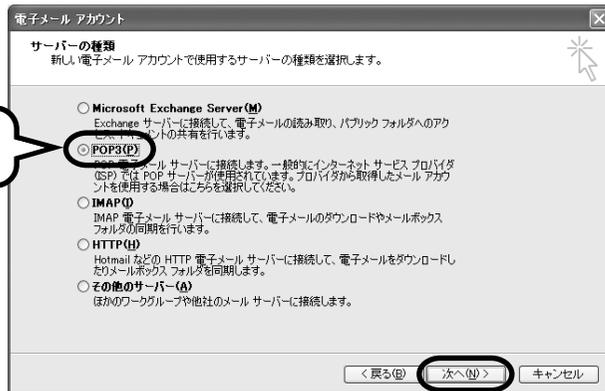
ルータタイプのADSLモデムを使っている場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、ルータタイプでは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けてメールの設定に進んでください。

メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook(アウトルック)というソフトが用意されています。

ADSL や FTTH で接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらも合わせてご覧になり、設定することをおすすめします。

1 Outlookを起動する

2 サーバーの種類を選ぶ

ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は、「IMAP」を選びます。その場合、詳しくはプロバイダまで確認してください。

3 名前などを入力する

■ この画面では、次の項目に入力してください。

名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
受信メールサーバー(POP3)	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。
送信メールサーバー(SMTP)	会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。
アカウント名	会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POPアカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。

4 「詳細設定」で接続方法を設定する

このあとの手順は、接続方法によって異なります。

ダイヤルアップの場合

「電話回線を使用する」をクリックして、○を◉にします。次に「モデム」欄で、使用するダイヤルアップネットワーク接続の名前を選びます。設定内容を確認したら、「OK」をクリックしてください。
「電子メールアカウント」の画面に戻ったら、「次へ」をクリックします。

ブリッジタイプのADSLモデムの場合

「電話回線を使用する」をクリックして、○を◉にします。次に「モデム」欄で、使用するダイヤルアップネットワーク接続の名前を選びます。続けて、「送信サーバー」タブをクリックして、サーバーを設定してください。

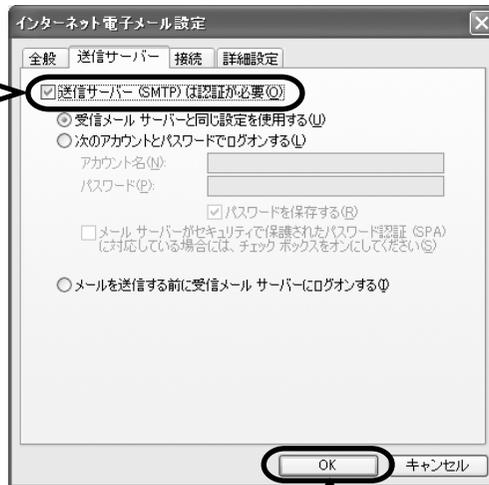
ルータタイプの ADSL モデムの場合

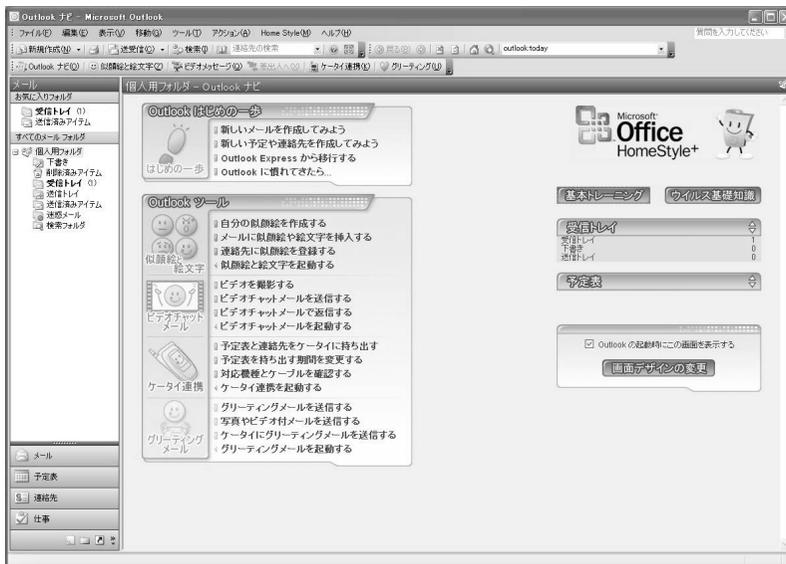
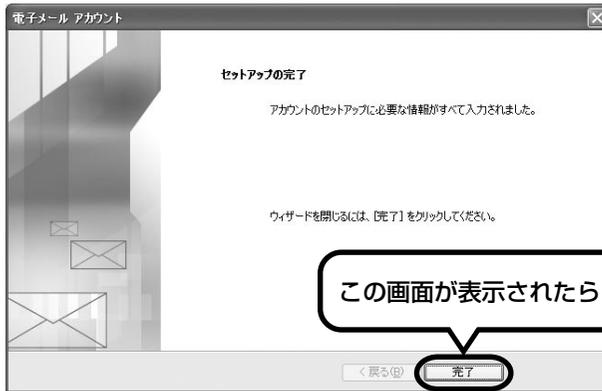
「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使用する」をクリックして、○を◉にします。続けて、「送信サーバー」タブをクリックして、サーバーを設定してください。

次ページへ続く

送信サーバーの設定：
ブリッジタイプ、ルータタイプ共通

「送信サーバー（SMTP）は認証が必要」をクリックして☑にしてください。次に、「受信メールサーバーと同じ設定を使用する」が◉になっていることを確かめます。ほとんどのプロバイダでは、「受信メールサーバーと同じ設定を使用する」ようになっています。

設定内容を確認したら、「OK」をクリックしてください。「電子メールアカウント」の画面に戻ったら、「次へ」をクリックします。

送信用メールサーバーのアカウント名やパスワードが違う場合だけ、「次のアカウントとパスワードでログオンする」をクリックして、アカウント名とパスワードを入力してください。

5 メールの設定を完了する

これで、メールが使えるようになりました。
メールを送ったり受け取ったりする方法については、
別冊の『活用ブック』をご覧ください。

このあとの進め方

いよいよインターネットやメールが使えるようになりました。
ここで紹介するマニュアルには、インターネットやメールを活用する方法や、安全に使うための対策が書いてあります。本格的にインターネット・メールを使い始める前に、ぜひご覧ください。

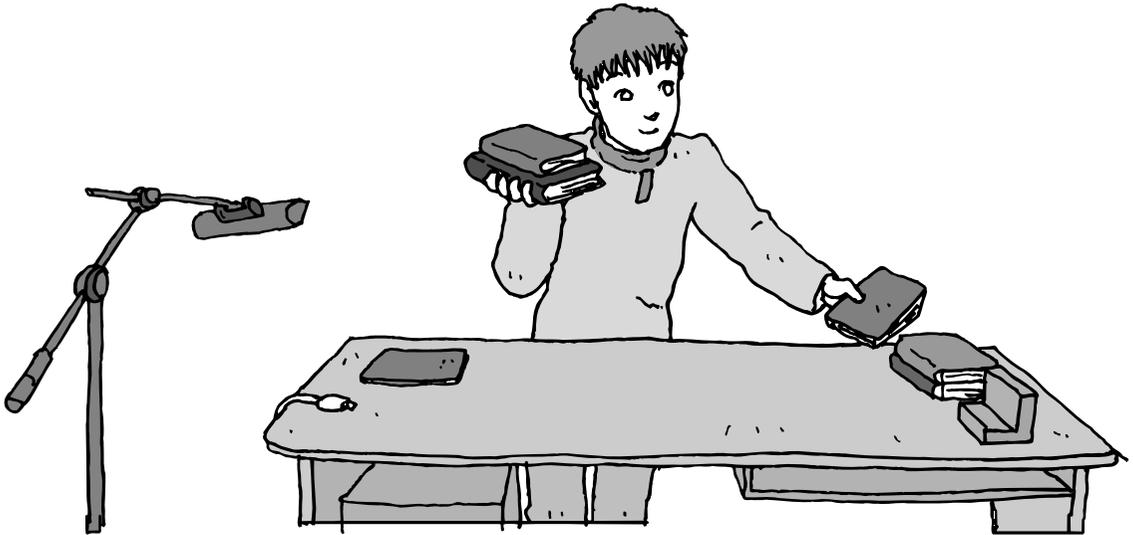
インターネット・メールの楽しみ方を知るには『活用ブック』

インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか、活用方法を『活用ブック』で紹介しています。
お気軽に読み進めてください。

インターネットのセキュリティ対策については「サポートナビゲーター」

インターネットやメールを使い始めると、とても楽しく便利な反面、危険も多くあります。コンピュータウイルスや外部からの不正アクセスなどの被害にあわないように、前もって対策が必要です。「サポートナビゲーター」では、インターネットがつながった後のセキュリティ対策について、詳しく説明しています。デスクトップにある（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリックしてご覧ください。

第6章

パソコンを買い換えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

インターネットを使えるようにする ダイヤルアップ編

これまでのパソコンでダイヤルアップ接続を利用していたかたは、以下の手順でインターネットの接続と設定を行ってください。

ブロードバンドのかたは、102 ページへ

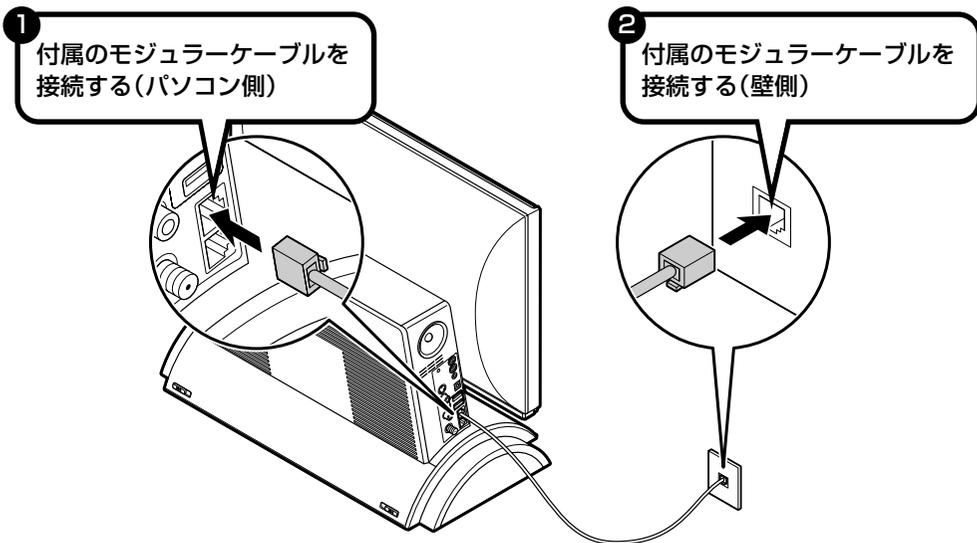
ADSLなど、前のパソコンでブロードバンド接続を利用していたかたは、102ページへ進んでください。パソコンを買い換えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り替えたいかたは、まず、以下の説明を読んでダイヤルアップ接続を行い、そのあとでプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

ダイヤルアップとは

インターネットを利用するたびに、パソコンから電話をかける接続方法です。前のパソコンにモデムが内蔵されている場合は、パソコンと電話回線をモジュラーケーブルで接続していたはずです。前のパソコンを電話回線から取り外し、代わりにこのパソコンを接続してください。

前のパソコンにモデムが内蔵されていない場合、外付けのモデムを利用していたと考えられます。このパソコンにはモデムが内蔵されているため、従来お使いの外付けモデムを利用する必要はありません。

1 パソコンを電話回線に接続する

図のように接続する

パソコンと電話回線をつなぐモジュラーケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

パソコンの設定を行う：BIGLOBEの場合

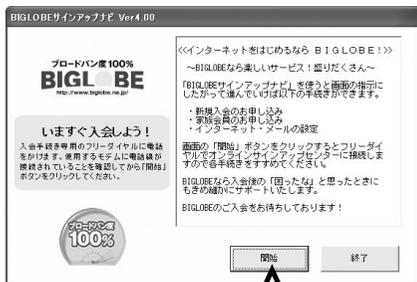
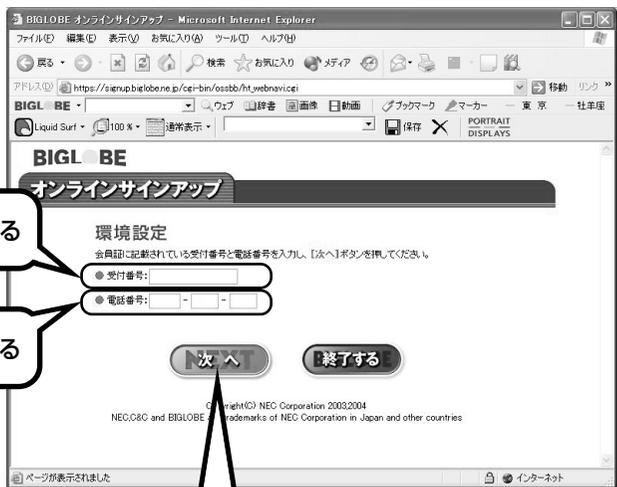
BIGLOBEに入会していたかたと、その他のプロバイダに入会していたかたで設定方法が違います。その他のプロバイダに入会していたかたは、95ページの「パソコンの設定を行う：その他のプロバイダの場合」へ進んでください。

操作を始める前に、BIGLOBEの会員証をお手元に用意してください。

1 BIGLOBEでインターネットを設定する

画面の（BIGLOBEでインターネット）をダブルクリックする。

この画面が表示されます。

❶「インターネット・メールの設定」をクリック

次ページへ続く

このあとの手順は、画面に表示される指示に従って進めてください。
最後まで指示に従って操作を進めると、インターネット接続の設定が自動的に完了します。

続けて、「メールソフトを設定する」（84ページ）をご覧ください。
メールソフトの設定が終わったら、104ページへ進み、データや周辺機器、アプリケーションソフトの移行作業を行ってください。

パソコンの設定を行う:その他のプロバイダの場合

操作を始める前に、これまでのパソコンで利用していたアクセスポイントの電話番号を調べておいてください。アクセスポイントとは、プロバイダに接続するための電話番号です。わからないときは、プロバイダにお問い合わせください。

1 「電話とモデムのオプション」を表示する

❶ スタート をクリックして、

❷ 「コントロールパネル」をクリック

❸ 「プリンタとその他のハードウェア」をクリック

❹ 「電話とモデムのオプション」をクリック

❺ 「ダイヤル情報」をクリックして、

❻ 「新規」をクリック

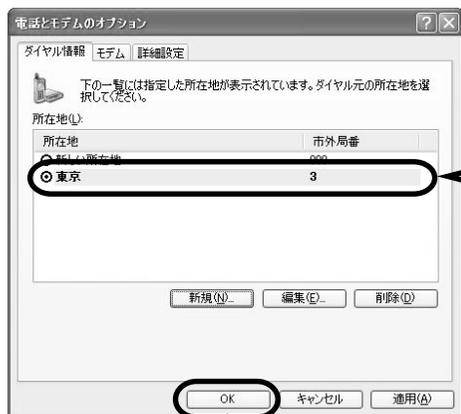
次ページへ続く

❼「所在地」を入力し、

❽0(ゼロ)を除いた市外局番を入力し、

❾電話回線の種類を選んでから

❿「OK」をクリック

所在地	この説明では、例として「東京」と入力していますが、自宅の所在地（市外局番が該当する都市名など）を入力してください。
市外局番	先頭の「0（ゼロ)」は入れないでください。
ダイヤル方法	ご利用の電話回線が「トーン」（プッシュ回線契約）か「パルス」かを選びます。回線の種類がわからない場合は、NTTの「116」番に問い合わせてください。

⓫入力した所在地、市外局番が追加されていることを確かめて、

⓬「OK」をクリック

2 「新しい接続ウィザード」を表示する

3 ウィザードに従って操作する

❶「次へ」をクリック

❷「インターネットに接続する」をクリックして、

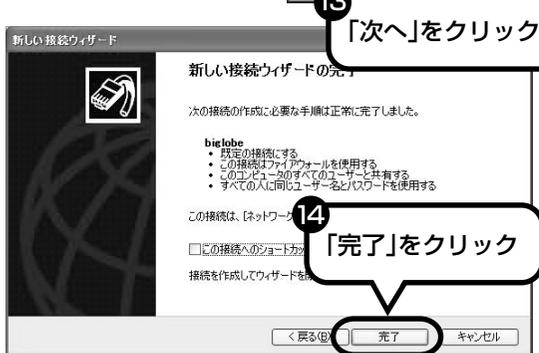
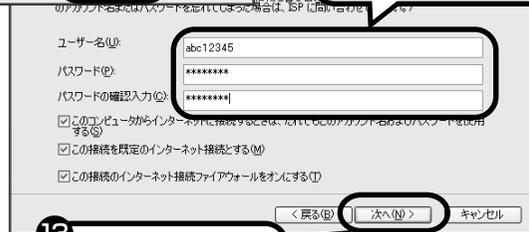
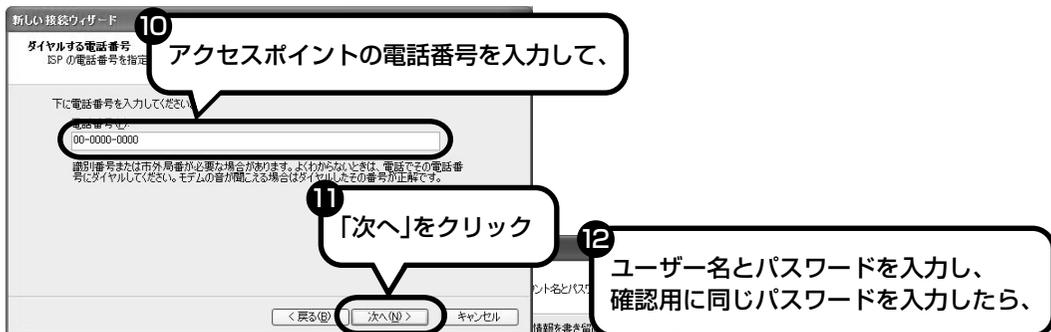
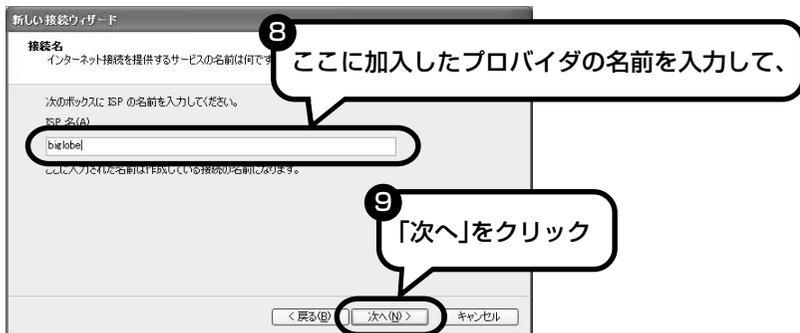
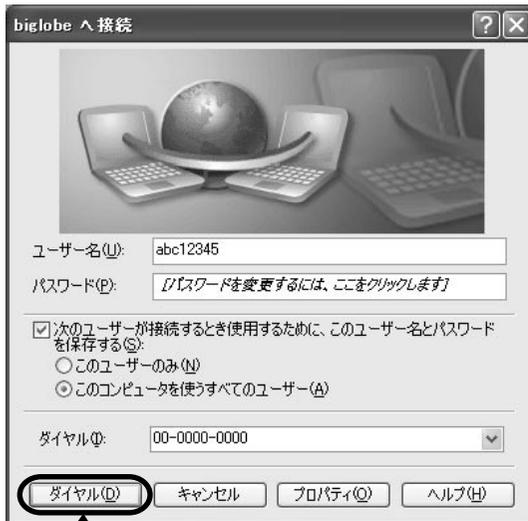
❸「次へ」をクリック

❹「接続を手動でセットアップする」をクリックして、

❺「次へ」をクリック

❻「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」をクリックして、

❼「次へ」をクリック

「完了」をクリックすると、新しい接続ウィザードの画面が閉じ、インターネットに接続するための画面が開きます。

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号です。「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

4 インターネットに接続する

しばらくすると、インターネットに接続され、画面右下に「接続しました」と表示されます。このときに表示されるマークを、「接続アイコン」と呼びます。
このマークが出ているときは、インターネットに接続中で、パソコンが電話回線を使用している（＝電話料金がかかっている）ことを表します。

この状態で、「スタート」をクリックし、続けて「インターネット」をクリックすると、ホームページを見ることができます。

5 インターネットへの接続を切る

インターネットへの接続を切る（電話を切る）ときは、画面右下に表示されている（接続アイコン）をクリックします。

インターネットへの接続が切れると、（接続アイコン）の表示が消えます。
2 回目以降のインターネットへの接続方法については、71 ページをご覧ください。

続けて、「メールソフトを設定する」（84 ページ）をご覧ください。メールソフトの設定が終わったら、104ページへ進み、データや周辺機器、アプリケーションソフトの移行作業を行ってください。

インターネットを使えるようにする ブロードバンド編

これまでのパソコンで、ADSLなどのブロードバンド接続を利用していたかたは、以下の手順でインターネットの接続と設定を行ってください。

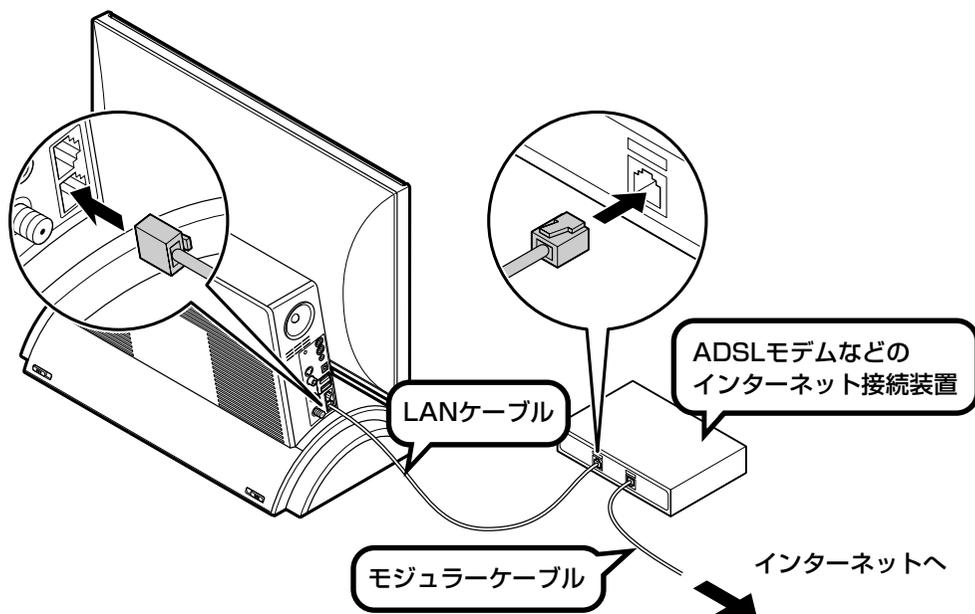
ダイヤルアップのかたは、92 ページへ

前のパソコンを家庭の電話回線に直接接続して、ダイヤルアップ接続を利用していたかたは、92 ページへ進んでください。パソコンを買い換えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り替えたいかたも、まず、ダイヤルアップ接続を行い、そのあとでプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

CATV のかたは、ケーブルテレビ局に確認を

前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い換えたときの設定方法についてお問い合わせください。

1 パソコンを通信回線に接続する

前のパソコンと同じように接続してください。

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

このあとの設定について

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、モデムの設定とメールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、該当するページをご覧ください。

ブリッジタイプのADSLモデムを設定する

75ページをご覧ください。
USB 接続する ADSL モデムをお使いの場合も同じです。

ルータタイプのADSLモデムを設定する

80ページをご覧ください。
FTTH を利用している場合も同じです。

インターネットに接続する

83ページをご覧ください。
どのタイプのモデムをご利用の場合も、モデムの設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

メールソフトを設定する

84ページをご覧ください。
インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定を行ってください。

上記の設定を済ませてから、次ページへ進み、データや周辺機器、アプリケーションソフトの移行作業を行ってください。

古いパソコンから データを移す

これまでお使いのパソコンからデータを移すためのソフト「データトラベリング」を利用すると、データを移行することができます。

データトラベリングで移行できるデータ

●次のようなデータを移行することができます。

・Internet Explorerの「お気に入り」
・Outlookの予定表や連絡先、メールのアカウントや受信データなど
・Outlook Expressのアカウント、アドレス帳や送受信データ
・年賀状作成ソフト「筆王」の住所録
・マイドキュメントに保存されているデータ
・デスクトップに置かれているデータ
・指定のフォルダに入っているデータ
・ダイヤルアップ接続の設定

移行される内容について詳しくは、データトラベリングを起動後、最初に表示される画面で「機能紹介と移行内容」をクリックしてご確認ください。

古いパソコンが次の条件にあてはまること

使用していたOSが次のいずれかであること

・Windows 98 Second Edition
・Windows Me(Millennium Edition)
・Windows 2000 Professional
・Windows XP Home Edition
・Windows XP Professional

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、データトラベリングは利用できません。マイドキュメントのウィンドウで、[ヘルプ] - [バージョン情報] をクリックすると、Windowsのバージョンを調べることができます(マイコンピュータ、コントロールパネルなどのウィンドウでも同様です)。

LANコネクタがあること

データトラベリングを利用するには、古いパソコンとこのパソコンをLANケーブルで接続する必要があります。これまでお使いのパソコンにLANコネクタがない場合、利用できません。

1 データトラベリングを使う準備をする

未使用の CD-R または CD-RW を 1 枚用意する。

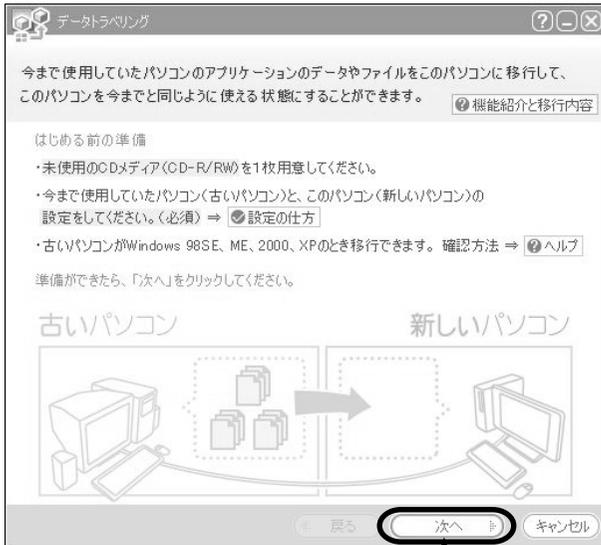
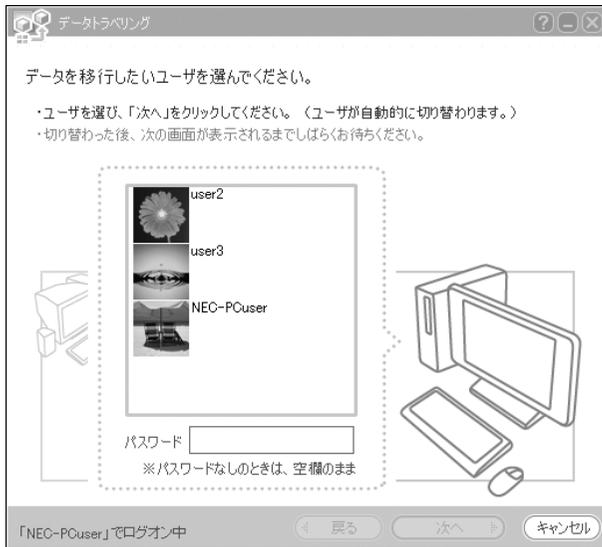
DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-RAM は使用できません。

古いパソコンと、このパソコンを LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行ってください。詳しくは、データトラベリングを起動後、最初に表示される画面で「設定の仕方」をクリックして、説明に従ってください。

- **ハブを使って接続するときは、2台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください。(こちらの接続方法をおすすめします)**
- **2 台のパソコンを直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。**

2 データトラベリングを起動する

デスクトップ画面の右側に表示された softnavi (ソフトが見つかるソフトナビゲーター) をクリックする。

3 このパソコンで「ツールCD」を作成する

この画面が表示されたら、未使用のCD-R または CD-RW をセットします。自動的に「ツールCD」の作成が始まります。

ユーザーを複数選択している場合は、移行するユーザーを選択して「次へ」をクリックしてください。

「ツール CD」の作成が完了したら、ディスクを取り出してください。

4 古いパソコンで、移行するデータを指定する

これまでお使いのパソコンに「ツールCD」をセットします。しばらくすると、次の画面が表示されます。

お使いの環境によっては、左の画面が表示されずに、下の画面が表示される場合もあります。

移行するデータを選択して「次へ」をクリックしてください。

選択したデータによっては、さらに詳細な移行内容を設定する必要があります。その場合、画面に指示が表示されますので、それに従ってください。

この画面が表示されたら「完了」をクリックして、「ツールCD」を取り出してください。

5 このパソコンで、残りの移行作業を行う

古いパソコンで「完了」をクリックすると、この画面が新しいパソコンに表示されます。自動的に残りの移行処理が行われるため、しばらくお待ちください。

この画面が表示されたら、データの移行は完了です。

移行したデータによっては、このあとで詳細な設定作業が必要になることがあります。その場合、画面に指示が表示されますので、それに従ってください。

周辺機器を使えるようにする

古いパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとは限りません。

周辺機器を移行する前に確認が必要

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に付属のマニュアルで、その機器がWindows XPに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカーのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカーのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確かめてください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows XPに対応した最新のドライバ（周辺機器を利用できるようにするためのソフト）がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

古いパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に付属のマニュアルや、古いパソコンに付属のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確かめてください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確かめてください。

周辺機器の動作確認を行う

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認のうえ、周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

アプリケーションソフトを移す

古いパソコンで利用していたアプリケーションソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

アプリケーションソフトを移行する前に

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なアプリケーションソフトが入っています。これまで利用していたアプリケーションソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

アプリケーションソフトのマニュアルをチェック

アプリケーションソフトに付属のマニュアルで、Windows XPに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

アプリケーションソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確かめてください。Windows XPに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

アプリケーションソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンス番号などが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカーが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件に従わずにソフトを使用した場合は不正使用となり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認のうえ、不正使用にならないようにアンインストールやインストールを行ってください。

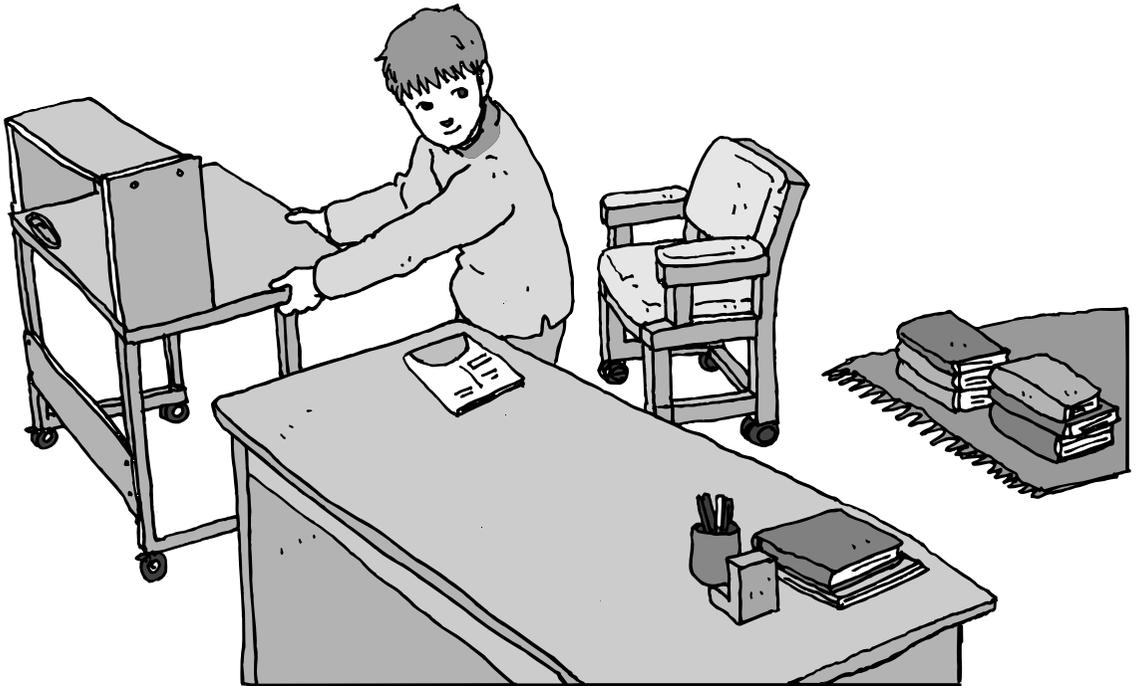
古いパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに付属のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定を行う

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業を行ってください。

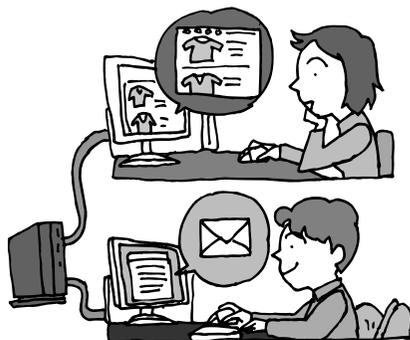
第7章

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

このパソコンには、パソコンを接続してホームネットワークを作るためのソフト「ホームネットワークアシスタント」が入っています。
家庭でネットワークを作ることの利点や、「ホームネットワークアシスタント」の使い方を紹介します。

ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

ADSLでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでの通り使えます。

プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ換えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジカメの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

他のパソコンのデータをこのパソコンでバックアップする

家庭内の他のパソコンに「バックアップ-NX」がインストールされていれば、他のパソコンのデータをこのパソコンでバックアップできます。住所録などの大切なデータを間違って削除してしまったときなども、このパソコンにバックアップしておいたデータを使って、ホームネットワーク経由で元に戻すことができます。

ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンがつないであるようなかたは、「LAN（ラン）」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません。「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

複数のパソコンをホームネットワークでつなぐ

「ホームネットワークアシスタント」が利用できる条件や、設定の進め方について説明します。

「ホームネットワークアシスタント」の利用条件

「ホームネットワークアシスタント」を使用するには、次の条件が必要です。

ご利用のOSが次のいずれかに該当すること

- Windows 98 Second Edition
- Windows Me(Millennium Edition)
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Home Edition
- Windows XP Professional
- Windows XP Media Center Edition

接続したいパソコンのOSが上記以外の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

ご利用の回線が次のいずれかに該当すること

- ADSLの場合：アッカ・ネットワークス、イー・アクセス、NTT東日本、NTT西日本、Yahoo! BB
- FTTHの場合：BIGLOBE　Bフレッツ、@nifty　Bフレッツ

ISDN、CATVやBIGLOBE　Bフレッツ、@nifty　Bフレッツ以外のFTTH回線など、上記以外をご利用の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

ご利用のプロバイダが以下のいずれかであること

- @nifty
- BIGLOBE
- OCN
- So-net
- Yahoo! BB

上記以外のプロバイダをご利用の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

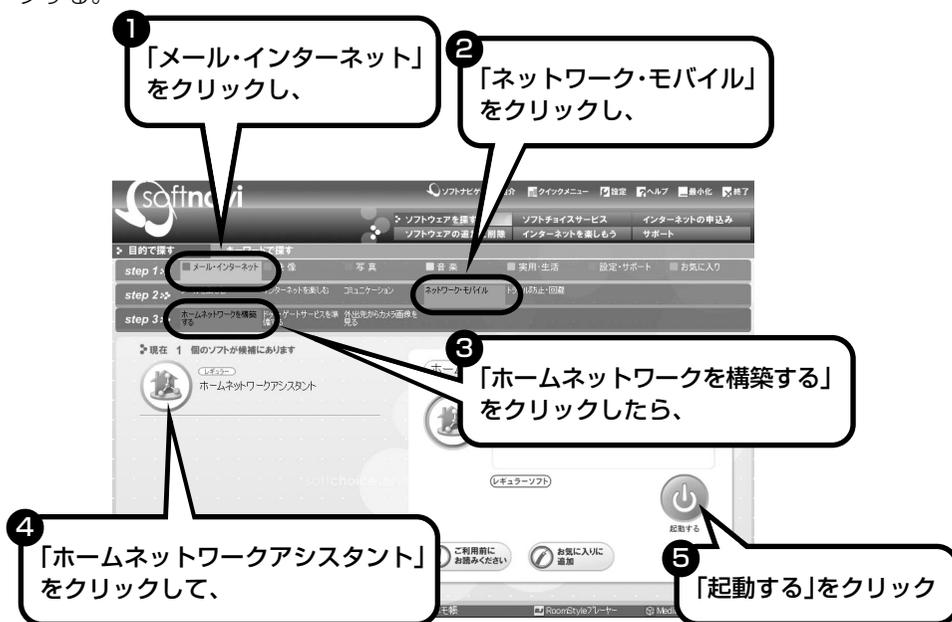
@niftyでイー・アクセスの回線をご利用の場合は、「ホームネットワークアシスタント」でルーターを自動設定することができません（手動設定になります）。

「ホームネットワークアシスタント」が利用できないとき

パソコンのOSや通信回線、プロバイダなどが上記の条件に該当しないときは、手動でネットワークの設定を行う必要があります。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

「ホームネットワークアシスタント」を開始する

「ホームネットワークアシスタント」を起動する

デスクトップ画面の右側に表示された (ソフトが見つかるソフトナビゲーター) をクリックする。

「ホームネットワークアシスタント」のメインメニューが表示されます。

「ホームネットワークアシスタント」の利用方法

全体の流れをつかむには

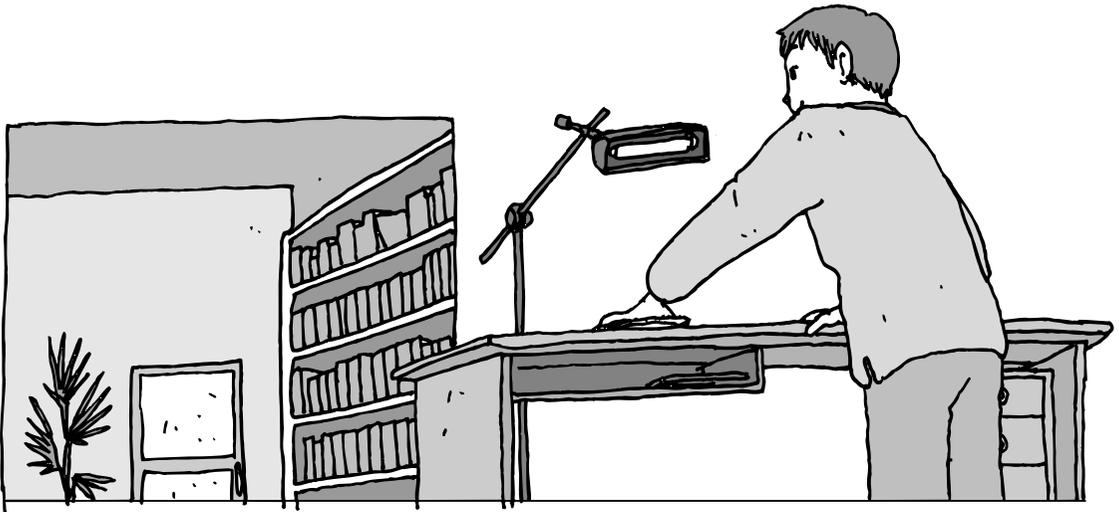
「ホームネットワークのはなし」をクリックして、ホームネットワークの特徴や、作成例、主な疑問への回答（Q&A）などをご覧ください。

設定を行うには

「設定スタート！」をクリックして、画面の説明を読みながら、設定を進めてください。

トラブルが起きたら

「トラブルシューティング」をクリックして、ホームネットワークの診断を行ってください。

第8章

再セットアップする

パソコンを起動できなくなったときなどの「最後の手段」が再セットアップです。再セットアップを行うと、パソコンに保存されている大切なデータや設定の内容などが失われてしまうことがあります。作業を始める前に、この章の説明をよくお読みください。

再セットアップを始める前に

再セットアップの意味を理解したうえで、いくつかのトラブル解決手段を試してみましょう。

パソコンを購入時の状態に戻す、再セットアップ

再セットアップとは、パソコンを買ってきた直後に行うセットアップ（準備作業）をもう一度行って、パソコンの中を購入時の状態に戻すことです。エラーメッセージが何度も表示されたり、フリーズ（画面の表示が動かなくなること）が多くなったりしたときは、意識しないうちにパソコンの設定が変更されてしまった可能性があります。どうしても元に戻すことができなくなったときの最後の手段が再セットアップです。再セットアップを行うと、自分で作って保存しておいた文書や電子メールのアドレス帳などがすべて失われます。このあとの説明を読み、再セットアップの前にデータのバックアップ（データの控えを残しておくこと）を行ってください。

再セットアップの前に試すこと

再セットアップを始める前に、次のチェックを試してみてください。問題が解決することがあります。

ウイルスチェックを行う

▼

セーフモードでパソコンを起動してみる

▼

データのバックアップを行う

▼

システムの修復を試みる

ウイルスチェックを行う

インターネットやメールを利用している場合や他人からもらったディスクを使用した場合など、パソコンがウイルスに感染してしまうことがあります。保存したはずの文書が全部消えていたり、見たことのない文字や絵が突然画面に表示されたりしたときは、次のようにしてウイルスをチェックしてください。

「マカフィー・ウイルススキャン」でチェックする

1 デスクトップ画面の右側に表示された softnavi（ソフトが見つかるソフトナビゲーター）をクリックする

2 この画面が表示されたら、「スキャン」をクリック

ウイルスのチェックが完了するまでにしばらく時間がかかります。ウイルスが見つかったときは、画面に表示される指示に従って操作してください。

ウイルスチェックは、常に最新のウイルス情報をもとに行う必要があります。「マカフィー・ウイルススキャン」は、はじめてアップデート機能を利用した日から90日間、無料で最新のウイルススキャンやウイルス定義ファイルへのアップデートを行うことができます。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「マカフィー・ウイルススキャン」をご覧ください。

セーフモードでパソコンを起動してみる

電源を入れてもパソコンが正常に起動しないときなどは、次のようにしてパソコンをセーフモード（最小限のシステム）で起動してください。

セーフモードは、Windowsの機能を限定して、必要最小限のシステム環境でパソコンを起動する、Windows の起動モードのひとつです。通常の操作ではパソコンが起動しない場合でも、セーフモードなら起動できることがあります。

セーフモードでは、Windows の最小限の機能しか使えません。

1 パソコン本体の電源を切る

通常の操作で電源を切ることができないときは、電源スイッチを４秒以上押したままにして電源を切ってください。

2 パソコン本体の電源を入れる

3 「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F8】を何度か押す

4 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、【↑】【↓】を使って「セーフモード」を選び、【Enter】を押す

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順２からやり直してください。

5 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、そのまま【Enter】を押す

6 ユーザー選択の画面が表示されたときは、自分のユーザー名を選んでクリック

7 「Windowsはセーフモードで実行されています…」と表示されたら、「はい」をクリック

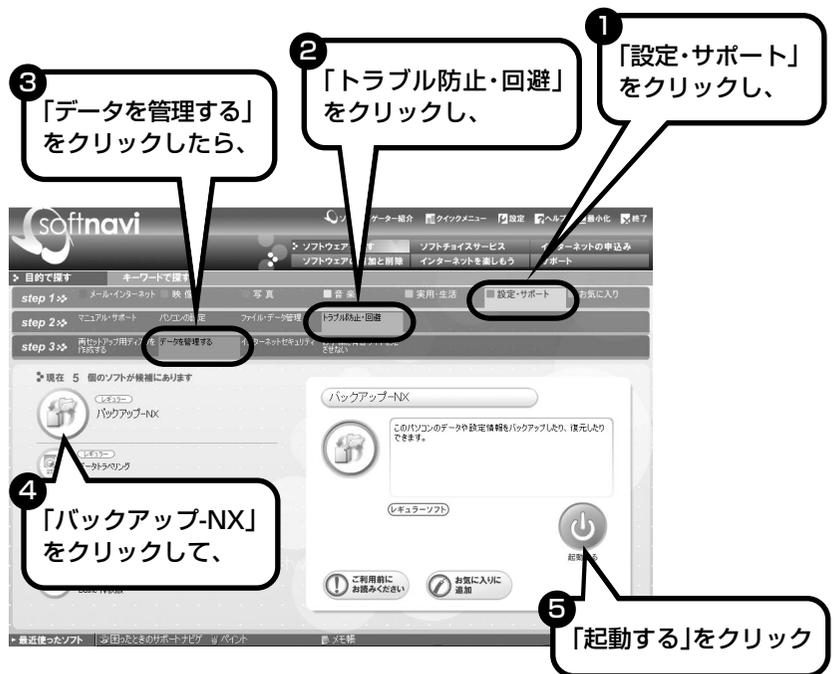
これで、パソコンをセーフモードで起動することができました。

この後、「スタート」-「終了オプション」-「再起動」をクリックし、再起動して問題がなければ、正常な状態に戻ります。

セーフモードについて、詳しくは「スタート」-「ヘルプとサポート」-「問題を解決する」-「問題のトラブルシューティング」-「Windows をセーフモードで起動する」をご覧ください。

データのバックアップを行う

システムの修復や再セットアップを行う前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

1 デスクトップ画面の右側に表示された softnavi（ソフトが見つかるソフトナビゲーター）をクリックする

2 この画面が表示されたら、

3 **「バックアップするアプリケーション」、「バックアップするインターネット設定」のいずれも「すべて選択」に☑が付いていることを確かめて、「開始」をクリック**

バックアップが始まります。完了までにしばらく時間がかかります。

ここでは、パソコンのハードディスク内にあるDドライブという場所にデータの控えが作成されます。再セットアップ用CD/DVD-ROMを使って、ハードディスクを購入時の状態に戻して再セットアップを行う場合は、Dドライブのデータも消えてしまいます。このため、CD-R/RWディスクなどへデータをバックアップするようにしてください。

4 **「バックアップは正常終了しました」と表示されたら、「閉じる」をクリックし、画面右上の☒をクリック**

家族など、複数のユーザーでこのパソコンを共有している場合、ユーザーの人数分だけバックアップが必要です。「スタート」-「ログオフ」-「ユーザーの切り替え」の順にクリックして、ユーザーごとにバックアップの手順を繰り返してください。

- 「バックアップ-NX」では、別売のアプリケーションソフトで作成したデータのバックアップを取ることもできます。ただし、ソフトによっては、バックアップできないものもあります。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップ-NX」をご覧ください。
- 「バックアップ-NX」でバックアップしたデータは、パソコンを再セットアップしたら、すぐに復元してください。復元が遅れると、再セットアップ以降に作成されたデータが失われることがあります。

システムの修復を試みる

システムの修復によって、トラブルが発生する前の「復元ポイント」を指定して、Windowsを構成する基本的なファイルや設定だけを元に戻すことが可能です。この方法を使うと、「マイドキュメント」などに保存しておいたデータの多くをそのまま残しておくことができます。

- **システムの修復を行う前にデータのバックアップを行ってください。システムを修復することで大切なデータが失われることがあります。**
- **システムの修復を行うときは、前もって起動中のソフトを終了させておいてください。**

122ページの「セーフモードでパソコンを起動してみる」で説明した手順1～7に従って、パソコンをセーフモードで起動してください。その後、次の手順で操作します。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システムの復元」の順にクリック**

2 **「システムの復元」画面が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」が◉になっていることを確かめ、「次へ」をクリック**

3 **カレンダーから復元したい日付をクリック**
太字で表示された日付から、トラブルが起きるようになる前の日付を選んでください。

4 **選択した日付の「復元ポイント」が複数表示されているときは、どれかをクリックして選択し、「次へ」をクリック**

5 **「復元ポイントの選択の確認」が表示されたら、内容を確認して「次へ」をクリック**
しばらくすると、自動的にパソコンが再起動します。選択した「復元ポイント」の時点にさかのぼって、パソコンのシステムが復元されます。

6 **「復元は完了しました」と表示されたら、「OK」をクリック**
これで、システムの修復は完了です。

「前回正常起動時の構成」でシステムを修復する

セーフモードでもパソコンを起動できず、「システムの復元」も実行できない場合、次の手順を試してください。

1 **パソコン本体の電源を入れる**

2 **「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F8】を何度か押す**

3 **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、【↑】【↓】を使って「前回正常起動時の構成」を選び、【Enter】を押す**

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順1からやり直してください。

4 **「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、そのまま【Enter】を押す**

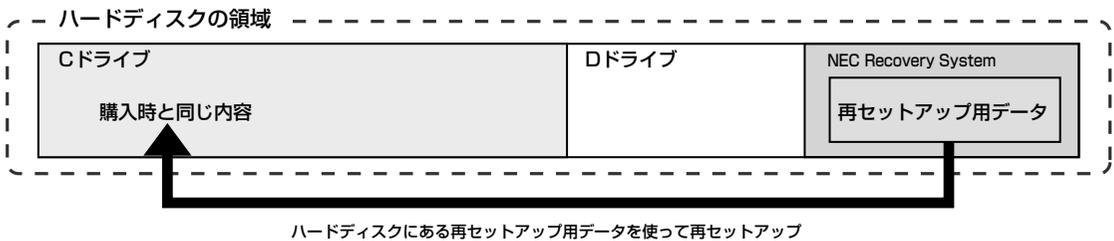
これで、前回正常起動時の構成を使用してパソコンが起動します。

再セットアップする（Cドライブのみ）

このパソコンのハードディスクにあるCドライブの内容を購入時の状態に戻します。

このパソコンのハードディスクには、あらかじめCドライブとDドライブという2つの領域が作られています。Cドライブには、Windowsやアプリケーションソフト、マイドキュメントなどに保存したファイルなどが入っています。Dドライブには、ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップ用データが入っています。アプリケーションソフトで作成したデータやバックアップデータの保存先にDドライブを指定した場合は、それらのファイルも入っています。

「再セットアップする（Cドライブのみ）」で説明する手順では、Dドライブの内容を残したまま、Cドライブだけを購入時の状態に戻します。

ハードディスクに格納されている再セットアップ領域のデータを、Cドライブに書き込んで再セットアップします。ハードディスクの領域の変更はしません。

再セットアップの流れ

再セットアップは次の13項目の作業を連続して行います。項目によっては（　）内におよその作業時間を示していますが、実際にかかる時間はモデルやパソコンの使用状況で異なります。

1　必要なものを準備する
2　バックアップしたデータを確認する
3　インターネットやLANの設定を控える
4　ユーザー名を控える
5　BIOSの設定を初期値に戻す：初期値を変更している場合のみ
6　別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す
7　システムを再セットアップする（約1時間）
8　Windowsの設定をする（約30分）
9　Office Personal 2003を再セットアップする(約10分)：Office 2003モデルのみ
10 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定しなおす
11 購入時に行ったインターネットの設定などをやり直す
12 別売のアプリケーションソフトをインストールしなおす
13 バックアップしたデータを復元する

バックアップは終わっていますね

再セットアップを行うと、Cドライブに保存したデータはすべて失われます。バックアップが終わっていない場合、124ページをご覧ください。

再セットアップを始めたら、途中でやめない！

再セットアップは、すべての作業項目を最後まで続けて作業することが大切です。途中でやめてしまうと、再セットアップを終わってもデータが元通りに復元されなかったり、一部のデータが失われたりすることがあります。

1 必要なものを準備する

このパソコンの添付品から、次のものを準備してください。

- 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROM（Office 2003モデルのみ）
- 「Microsoft® Office Home Style＋」CD-ROM（Office 2003 モデルのみ）
- 『準備と設定』（本書）

その他、このパソコンの購入後に自分でインストールしたソフトがある場合、そのマニュアルをご覧になり、インストールに必要なCD-ROMなどを準備してください。

2 バックアップしたデータを確認する

124ページの「データのバックアップを行う」でDドライブにバックアップしたデータの内容を、もう一度確認してください。万一、バックアップに失敗しているものがあったり、バックアップし忘れていたデータが見つかったときは、バックアップを取りなおしてください。

3 インターネットやLANの設定を控える

再セットアップを行っても、インターネット接続の設定は自動的に復元しません。インターネットを利用している場合、プロバイダの会員証などを見て、次の項目をメモしてください。

- ユーザー ID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリ DNS
- セカンダリ DNS
- メールサーバ
- ニュースサーバ
- アクセスポイントの電話番号（ダイヤルアップ接続の場合）

4 ユーザー名を控える

このパソコンを購入後、最初にセットアップを行ったとき設定したユーザー名を確認し、次の「ユーザー 1」の欄に控えておきます。32 ページをご覧ください。「8.Windowsの設定をする」の作業を行うときに、このユーザー名が一致しないとデータが復元できなくなってしまいます。

	ユーザー名
ユーザー１（1人目）	
ユーザー２（2人目）	
ユーザー３（3人目）	
ユーザー４（4人目）	

- **家族など、このパソコンを複数のユーザーで共有している場合、それらのユーザー名も一緒に控えておくことをおすすめします。**
- **ユーザー名を控えるときは、「大文字と小文字の区別」、「半角と全角の区別」に注意してください。**

5 BIOSの設定を初期値に戻す：初期値を変更している場合のみ

BIOSの設定を変更している場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して、変更した内容をメモしてから、設定を初期値に戻してください。この作業は、BIOS の設定を変更していない場合は必要ありません。BIOS セットアップユーティリティについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「BIOS セットアップユーティリティ」をご覧ください。

6 別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す

別売の周辺機器をすべて取り外してください。また、インターネットの通信回線との接続に使っているモジュラーケーブルやLAN ケーブルも取り外してください。

外付けのハードディスクドライブなどを接続したまま再セットアップを行うと、ハードディスク内のデータが削除される場合があります。

7 システムを再セットアップする

次の手順で操作してください。

1 パソコン本体の電源を切る

通常の操作で電源を切ることができないときは、電源スイッチを４秒以上押したままにして電源を切ってください。

2 パソコン本体の電源を入れる

3 「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F11】を何度か押す

4 「再セットアップとは」の画面が表示されたら、【Enter】を押す

「再セットアップとは」の画面が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順２からやり直してください。

5 「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、【↓】、【↑】を使って＜次へ＞を選び、【Enter】を押す

6 「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜次へ＞を選び、【Enter】を押す

7 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜Ｃドライブのみ再セットアップ＞を選び、【Enter】を押す

8 「Ｃドライブのみ再セットアップ」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜再セットアップを開始する＞を選び、【Enter】を押す

再セットアップが始まります。再セットアップが始まったら、画面に指示が表示されるまで、キーボードやパソコン本体の電源スイッチに触れないでください。再セットアップの進行中に数回「ピー」と音がすることがありますが、これは再セットアップ処理が正しく進んでいることを示すもので、故障ではありません。

9 次の画面が表示されたら、【Enter】を押す

この画面が表示されなかったときは再セットアップが正常に行われていません。「7.システムを再セットアップする」の最初に戻り、操作をやり直してください。

【Enter】を押して、パソコンが再起動されたら、次の「8.Windows の設定をする」へ進んでください。

8 Windowsの設定をする

次の手順で操作してください。

1 「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されていることを確かめる

2 「次へ」をクリック

3 **「使用許諾契約」が表示されたら、「同意します」をクリックして○を◉にしてから、「次へ」をクリック**

4 **「コンピュータに名前を付けてください」が表示されたら、「VALUESTAR」など好みの名前を入力してから、「次へ」をクリック**

名前を付けずに「次へ」をクリックしてもかまいません。また、再セットアップする前に付けていた名前と異なるものを入力してもかまいません。

5 **「インターネットに接続する方法を指定してください」または、「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたら、そのまま「省略」をクリック**

6 **「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ」をクリックして○を◉にしてから、「次へ」をクリック**

7 **「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックして○を◉にしてから、「次へ」をクリック**

8 **「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、あらかじめ控えておいたユーザー名を正確に入力してから、「次へ」をクリック**

9 **「設定が完了しました」と表示されたら、「完了」をクリック**

しばらくすると、「パソコンの診断が終了しました」と表示されます。

10 **➡をクリック**

11 **「121ポップリンクの設定」が表示されたら、「利用する」が◉になっていることを確かめて、「次へ」をクリック**

121ポップリンクは、お使いの機種に適した最新情報をNECからインターネット経由でお届けするサービスです。

12「設定が完了しました」と表示されたら、[→]をクリック

このパソコンのサポートサービスを紹介する映像が表示されます。映像終了後、「完了」をクリックすると、パソコンが再起動されます。これでWindowsの設定は終了です。

Office 2003モデルの場合は、続けて「9.Office Personal 2003を再セットアップする」に進んでください。

その他のモデルの場合は、「10.別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り付けて設定しなおす」に進んでください。

9 Office Personal 2003を再セットアップする

このパソコンに入っている「Office Personal 2003」は、機能を厳選してインストールされています。ここでは、購入時と同じ状態でセットアップを行う手順を説明します。

必要のない機能を削除する方法や、あとから機能を追加する方法については、添付の「Office Personal 2003」のマニュアルをご覧ください。

1「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROMをセットする

2「Microsoft Office 2003セットアップ」の画面が表示されたら、プロダクトキーを入力してから、「次へ」をクリック

「プロダクトキー」は、CD-ROMケースの裏面に貼ってあるシールに記載されています。

3「ユーザー情報」が表示されたら、ユーザー名などを入力して「次へ」をクリック

ユーザー名などの欄には、何も入力しなくてもかまいません。

4「インストールの種類」と表示されたら、「カスタムインストール」をクリックして○を◉にしてから、「次へ」をクリック

5「カスタムセットアップ」と表示されたら、「アプリケーションごとにオプションを指定してインストール」をクリックして☐を☑にしてから、「次へ」をクリック

6 「詳細なカスタマイズ」と表示されたら、「Microsoft Office」の左側にある をクリックして、「マイコンピュータからすべて実行」をクリック

このとき表示される一覧の中に、灰色で表示されているフォルダがないことを確認してください。あったときは、もう一度この手順をやり直してください。

7 「Microsoft Office Excel」の左側にある をクリックし、「読み上げ」の左側にある をクリックしてから、「インストールしない」をクリック

「読み上げ」の左にあるアイコンが に変わります。

8 同じようにして「Office 共有機能」の 、「入力システムの拡張」の をクリックし、「音声」の左側にある をクリックしてから、「インストールしない」をクリック

9 「Microsoft Office Excel」の「読み上げ」、「Office 共有機能」の「音声」、どちらも に変わったことを確かめ、「次へ」をクリック

10 「ファイルの概要」と表示されたら、「完了」をクリック

インストールが始まります。

11 再起動するようにメッセージが表示されたら、「はい」をクリック

- 「Microsoft Office 2003セットアップが正常に完了しました」と表示されることもあります。その場合、「完了」をクリックしてください。
- 「Webサイトで更新および追加ダウンロードをチェックする」の を にしないでください。

12 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROM を取り出す

続けて「Home Style⁺」をインストールします。

13 「Microsoft® Office Home Style⁺」CD-ROM をセットする

14 「Microsoft Office Home Style⁺セットアップへようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

15 「使用許諾契約書」が表示されたら、内容を確認してから、「同意します」をクリックして○を◉にしてから、「次へ」をクリック

16「セットアップ先のフォルダ」と表示されたら、「次へ」をクリック

17「インストールタイプの選択」と表示されたら、「標準」が◉になっていることを確かめて、「次へ」をクリック

18「インストールの開始」と表示されたら、「次へ」をクリック

インストールが始まります。

19「セットアップは正常に完了しました」と表示されたら、「OK」をクリック

「Microsoft .NET Framework 1.1 パッケージをインストールしますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックしてください。

20「Microsoft® Office Home Style+」CD-ROM を取り出す

これで Office Personal 2003 を使う準備ができました。

再セットアップ後、Office Personal 2003を最初に使用するとき

Outlook 2003 または Word 2003 や Excel 2003 など、Office Personal 2003 のソフトを最初に使用するときは、「Microsoft Office 2003 ライセンス認証ウィザード」が表示されます。添付の『Microsoft® Office Personal Edition 2003スタートガイド』をご覧になり、ライセンス認証を行ってください。このライセンス認証手続きは、必ず、再セットアップの作業がすべて完了してから行ってください。

10 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定しなおす

ご利用の周辺機器に添付のマニュアルを準備してから作業してください。

1 パソコンの電源を切る

2 取り外した周辺機器を取り付け、それぞれのセットアップや設定を行う

セットアップや設定の手順、パソコンの電源を入れるタイミングなどについては、各周辺機器に添付のマニュアルに従ってください。

11 購入時に行ったインターネットの設定などをやり直す

再セットアップを行うと、インターネットの設定もやり直す必要があります。プロバイダに接続するためのユーザー名やパスワードなどは、入会時に決まったものがそのまま使用できます。サインアップ（入会申し込み）をやり直す必要はありません。
「バックアップ-NX」を使ってインターネットの設定をバックアップした場合は、簡単に復元することができます。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップ-NX」をご覧ください。
「バックアップ-NX」でインターネットの設定をバックアップしていない場合、本書の「第６章　パソコンを買い換えたかたへ」を参考にインターネットの設定を行ってください。

12 別売のアプリケーションソフトをインストールしなおす

パソコン購入後にインストールしたアプリケーションソフトがあるときは、それぞれに添付のマニュアルに従ってインストールを行ってください。

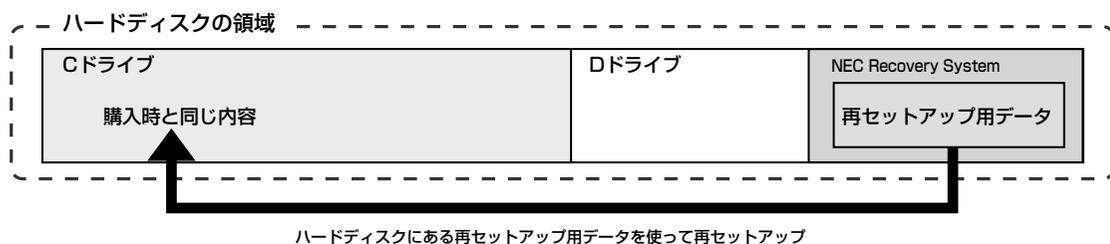
13 バックアップしたデータを復元する

「バックアップ-NX」でバックアップしておいたデータを復元してください。詳しい手順については、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップ-NX」をご覧ください。

これで再セットアップの作業は完了です。

再セットアップ用CD/DVD-ROMを作成する

ここでは、再セットアップ用CD/DVD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMの作成手順を説明します。

このパソコンは、次のように、ハードディスク内の「再セットアップ領域」(NEC Recovery System)に保存されている再セットアップ用データを使って、再セットアップを行うしくみになっています。

通常は、「再セットアップする(Cドライブのみ)」(128ページ)をご覧になり、上記の方法で再セットアップしてください。
その他に、ここで作成する「再セットアップ用CD/DVD-ROM」を使った再セットアップ方法が利用できます。

NEC Recovery Systemにある再セットアップ用データをもとに、再セットアップ用CD/DVD-ROMが作成されます。また、Dドライブにあるソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルをもとに、ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMが作成されます。

未使用のCD-Rディスクまたは未使用のDVD-Rディスクを準備する

必要な枚数は、ご利用のモデルによって異なります。142ページの手順4で画面に表示される枚数を確認してください。再セットアップ用CD/DVD-ROMとソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMの両方を作成するために必要な枚数を用意してください。作成には、CD1枚につき最大約30分、DVD1枚につき最大約100分かかります。

- **必ず、次の容量のディスクを用意してください。**
  CD-Rディスクの場合：700Mバイトまたは650Mバイトのもの
  DVD-Rディスクの場合：4.7Gバイトのもの
- **次のディスクは使用できません。**
  CD-RW、DVD-RW、DVD+R/RW、DVD-RAM
- **作成済みの再セットアップ用CD/DVD-ROMも販売しています。お買い求めの際は、PC98-NXシリーズメディアオーダーセンターのホームページをご覧ください。**
  URL： http://nx-media.ssnet.co.jp

RecordNow DXがインストールされていることを確認する

CD-RまたはDVD-Rへのデータ書き込みには「RecordNow DX」というソフトが必要です。このパソコンにあらかじめインストールされていますが、削除してしまっているときは、追加しておいてください。ソフトを追加する方法については、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフトの追加と削除」をご覧ください。

作成の手順を始める前に

他のアプリケーションソフトが起動していると、CD-RまたはDVD-Rへの書き込み中にエラーが発生することがあります。作成の手順を始める前に次の操作を行ってください。

- **スクリーンセーバーが起動しないようにする**
- **自動的にスタンバイ状態／休止状態にならないように設定する**
- **起動中のアプリケーションをすべて終了する**
- **常駐プログラム（ウイルスチェックソフトなど）をすべて終了する**
- **Cドライブの空き容量を、CD-Rの場合800Mバイト以上、DVD-Rの場合4.5Gバイト以上確保しておく**

1 用意したCD-RまたはDVD-Rディスクをセットする

「Windowsが実行する操作を選んでください」と表示されたときは、「何もしない」をクリックし、「常に選択した動作を行う」の をクリックして にしてから、「OK」をクリックしてください。

2 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アプリケーション」-「再セットアップディスク作成ツール」をクリック

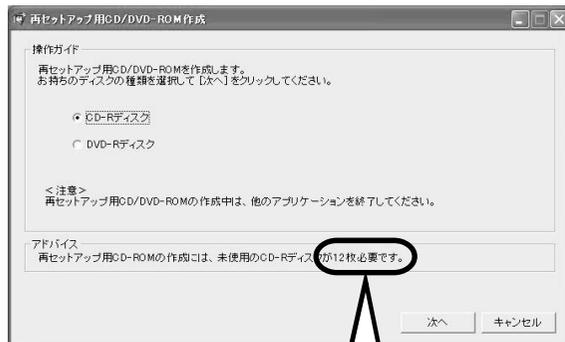
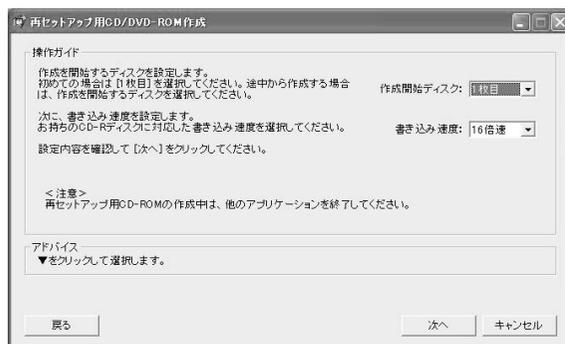
次の画面が表示されます。

- ソフトチョイス用アプリケーションがないモデルをご利用の場合、「ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMを作成する」は表示されません。ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除している場合も同様です。
- ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMを作成したあとで、「再セットアップディスク作成ツール」を起動した場合、「ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除する」という表示が追加されます。

3 作成するCD/DVD-ROMの種類を選び、「次へ」をクリック

はじめて作成するときは、「再セットアップ用CD/DVD-ROM」、「ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROM」の順番で作成してください。

4 次の画面が表示されたら、セットしたディスクの種類を選び、必要なディスクの枚数を確認してから、「次へ」をクリック

必要な枚数は、お使いのモデルによって異なります。

5 次の画面が表示されたら、書き込み速度を選び、「次へ」をクリック

一部のディスクの書き込みに失敗した場合などは、この画面で、作成開始ディスク: 1枚目 の ▼ をクリックすると、途中から作成するように指定することもできます。

用意したCD-RまたはDVD-Rディスクに対応した書き込み速度を選んでください。また、書き込みに失敗した場合は、書き込み速度を落としてから再度作成してください。

6 「作成開始」をクリック

1枚目のディスクへの書き込みが始まります。書き込みにはしばらく時間がかかります。そのままお待ちください。

書き込みが完了すると、自動的にディスクが排出され、1枚目のディスクが作成されたことを知らせるメッセージが表示されます。

7 「OK」をクリック

ディスクを取り出し、ディスクの種類と何枚目のディスクかわかるようにラベル面に記入します。続けて、次のディスクをセットしてください。最後のディスクへの書き込みが終わるまで、同じ操作を繰り返します。

再セットアップ用CD/DVD-ROMの作成が終わったら、同じようにしてソフトチョイス用アプリケーション CD/DVD-ROM も作成してください。

作成した再セットアップ用CD/DVD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMを紛失・破損しないよう、保管にはじゅうぶんご注意ください。

ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除するには

D ドライブからソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルのみを削除して、D ドライブの空き容量を増やすことができます。その場合、ソフトチョイス用アプリケーション CD/DVD-ROM を作成した後で、「再セットアップディスク作成ツール」を起動し、「ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除する」を選んで、「次へ」をクリックしてください。あとは画面のメッセージに従って操作を進めてください。

Dドライブからソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除した場合、ソフトナビゲーターからソフトチョイス対応アプリケーションをインストールするように操作したときは、ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMをセットするように表示されます。画面の指示に従って操作してください。

再セットアップ用CD/DVD-ROMを使って再セットアップする

再セットアップ用 CD/DVD-ROM を使ってできることを説明します。

再セットアップ用CD/DVD-ROMで可能なこと

目的に応じて、次の再セットアップを行うことができます。

C ドライブのみ再セットアップ

C ドライブの領域のみ再セットアップを行い、D ドライブの内容は再セットアップを行う前の状態のまま残します。128 ページの「再セットアップする（C ドライブのみ）」で説明している内容と同じです。

ハードディスクの状態を購入時から変更した場合(ダイナミックディスクなど)、この方法での再セットアップはできません。この場合、「ハードディスクを購入時の状態に戻して再セットアップ」を行ってください。

ハードディスクを購入時の状態に戻して再セットアップ

C ドライブを購入時の状態に復元して再セットアップを行います。再セットアップ用 CD/DVD-ROM の内容を NEC Recovery System にコピーしなおすために、この方法での再セットアップには約 2 時間かかります。パソコンを購入時の状態に戻したいときに利用します。

- **この方法で再セットアップを行うと、それまでのハードディスクの内容は C ドライブ D ドライブ（ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを含む）ともにすべて失われます。**
- **D ドライブのソフトチョイス用アプリケーションは復元されていません。今後、ソフトチョイス用アプリケーションをインストールする場合は再セットアップディスク作成ツールで作成したソフトチョイス用アプリケーション CD/DVD-ROM を使用してください。**

ハードディスクのデータ消去

このパソコンのハードディスクのデータ消去を行います。ハードディスクに一度記録されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしても復元できる場合があります。このメニューを選択すると、Windows XP標準のハードディスクのフォーマット機能では消去できないハードディスク上のデータを消去し、復元ツールで復元されにくくします。このパソコンを譲渡や廃棄する場合にご利用ください。

消去にかかる時間は、ご利用のモデルによって異なります。

この方法でハードディスクの消去を行っても、データの復元が完全にできなくなることを保証するものではありません。データの復元が完全にできないことの証明が必要な場合は、NECフィールディング株式会社に有償のデータ消去を依頼してください。

NECフィールディングホームページURL： http://www.fielding.co.jp

再セットアップ用CD/DVD-ROMを使った再セットアップ手順

再セットアップを始めたら、途中でやめたりせず、手順どおり最後まで操作してください。やむをえず中断したときは、最初から操作をやり直してください。

1 作成した再セットアップ用CD/DVD-ROMを用意する

この他、Office 2003モデルでは、「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROMと「Microsoft® Office Home Style＋」CD-ROMも用意してください。

2 128ページの「再セットアップする（Cドライブのみ）」を読み、「2.バックアップしたデータを確認する」から「6.別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す」までの作業を行う

3 パソコンの電源スイッチを押し、電源を入れる

4 電源ランプが点灯したら、すぐに再セットアップ用CD/DVD-ROM（1枚目）をセットする

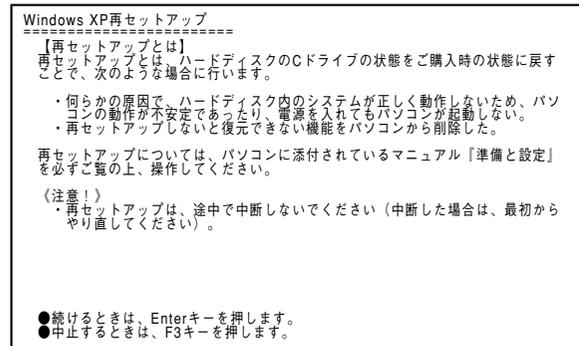
しばらくすると、次の画面が表示されます。

```
Windows XP再セットアップ
========================
 【再セットアップとは】
  再セットアップとは、ハードディスクのCドライブの状態をご購入時の状態に戻す
  ことで、次のような場合に行います。

    ・何らかの原因で、ハードディスク内のシステムが正しく動作しないため、パソ
      コンの動作が不安定であったり、電源を入れてもパソコンが起動しない。
    ・再セットアップしないと復元できない機能をパソコンから削除した。

  再セットアップについては、パソコンに添付されているマニュアル『準備と設定』
  を必ずご覧の上、操作してください。

 《注意！》
    ・再セットアップは、途中で中断しないでください（中断した場合は、最初から
      やり直してください）。

  ●続けるときは、Enterキーを押します。
  ●中止するときは、F3キーを押します。
```

この画面が表示されずに、通常のWindowsデスクトップが表示されてしまったときは、再セットアップ用CD/DVD-ROMをセットしたまま、パソコンを再起動（「スタート」-「電源オプション」-「再起動」の順にクリック）してください。

5 画面の説明を読み、【Enter】を押す

6 「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、【↓】、【↑】を使って<次へ>を選び、【Enter】を押す

7 「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って<次へ>を選び、【Enter】を押す

8 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って再セットアップの種類を選び、【Enter】を押す

9 以降は、画面の指示に従って操作する

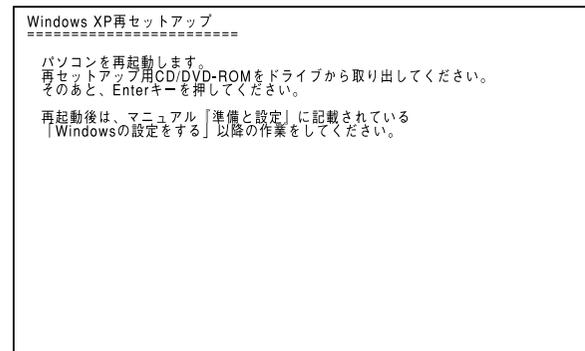
再セットアップが始まったら、画面に指示が表示されるまで、キーボードやパソコン本体の電源スイッチに触れないでください。再セットアップの進行中に数回「ピー」と音がすることがありますが、これは再セットアップ処理が正しく進んでいることを示すもので、故障ではありません。
ディスクを交換するように指示が表示されたら、再セットアップ用CD/DVD-ROMを順番にセットしてください。

ハードディスクのフォーマットまたは再セットアップが行われている間は、画面に指示が表示されない限り、ディスクを取り出したり、電源スイッチに触れたりしないでください。

再セットアップが終わると次の画面が表示されます。

```
Windows XP再セットアップ
========================

  パソコンを再起動します。
  再セットアップ用CD/DVD-ROMをドライブから取り出してください。
  そのあと、Enterキーを押してください。

  再起動後は、マニュアル『準備と設定』に記載されている
  「Windowsの設定をする」以降の作業をしてください。
```

この画面が表示されたら、再セットアップ用CD/DVD-ROMを取り出し、【Enter】を押してください。パソコンが自動的に再起動して「Windowsへようこそ」画面が表示されます。

この画面が表示されなかったときは、再セットアップが正常に行われていません。最初からやり直してください。

10 133ページの「8.Windowsの設定をする」以降の説明を参考に、Windowsの設定、周辺機器の再設定、インターネットの再設定などをする

138ページの「13.バックアップしたデータを復元する」の操作まで終わったら、再セットアップの作業は完了です。

第9章

パソコン内部に取り付ける

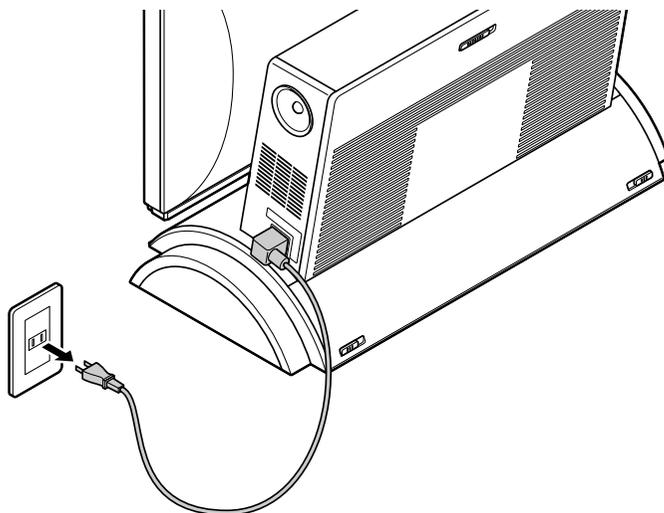
パソコンのカバーを開けて、内部にメモリ（別売）を取り付けることができます。パソコン内部の他の部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

本体の開け方と閉め方

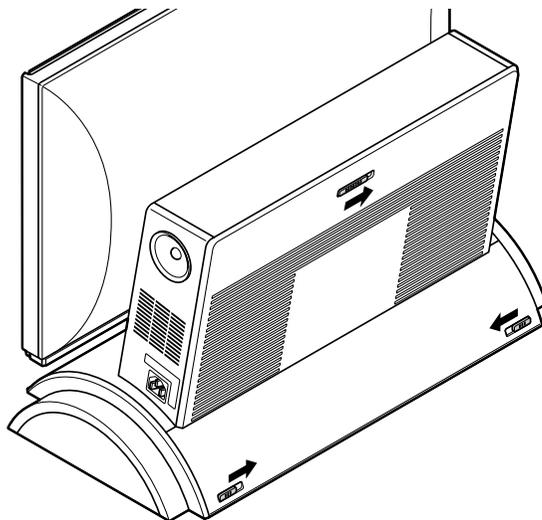
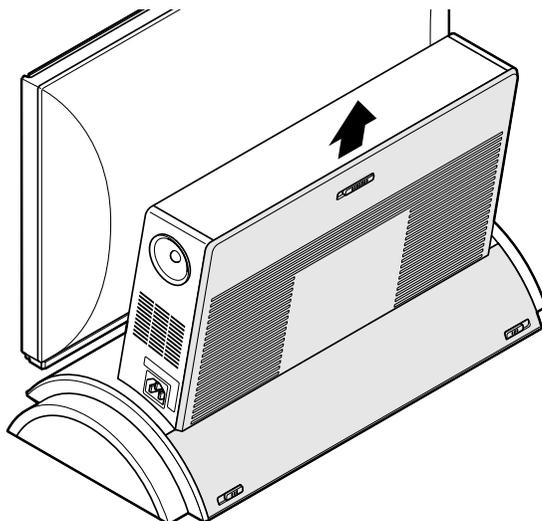
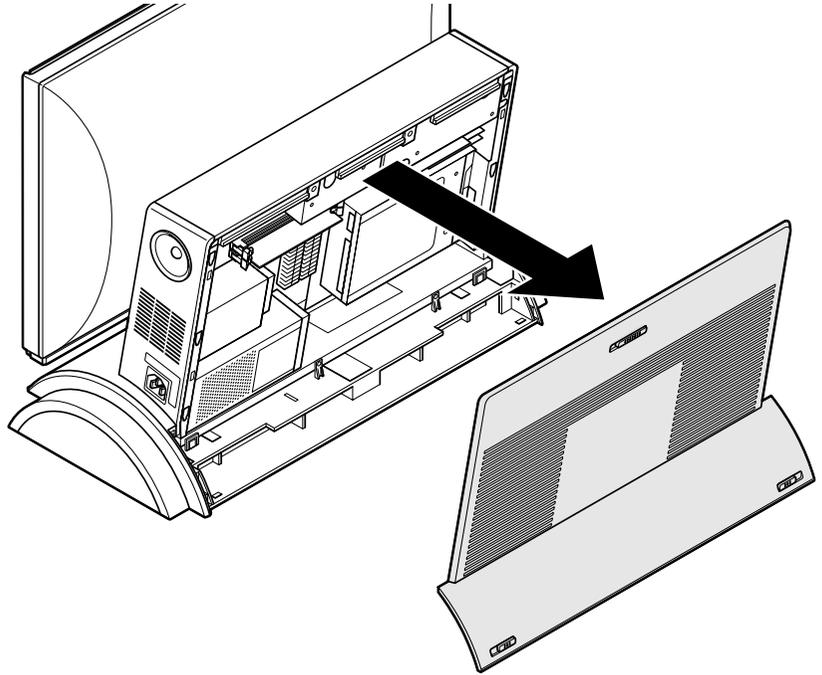
メモリを増設するときには、本体背面のカバーを外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。

カバーの外し方

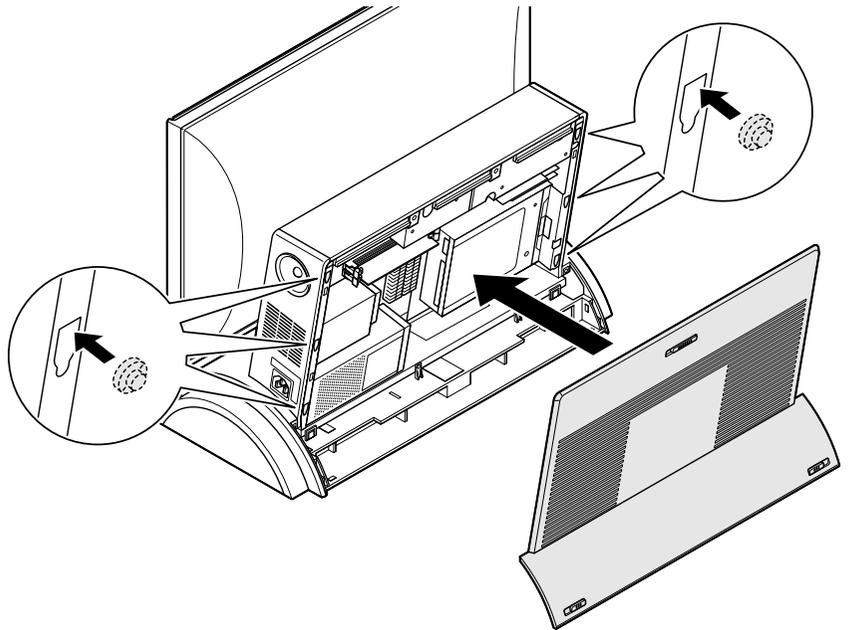
1 本体と、プリンタなど周辺機器の電源を切る

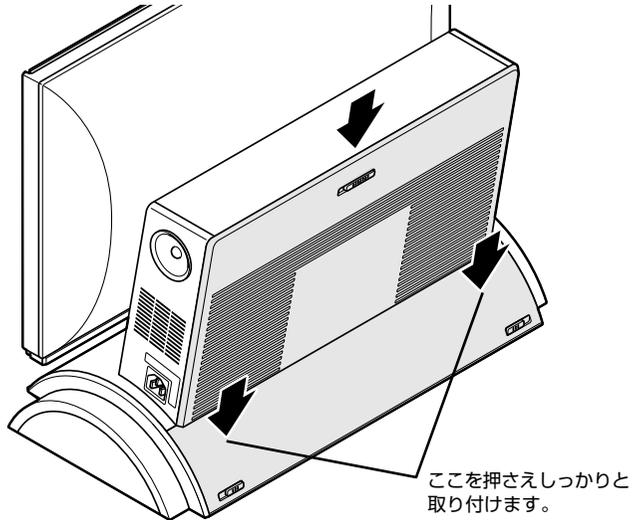
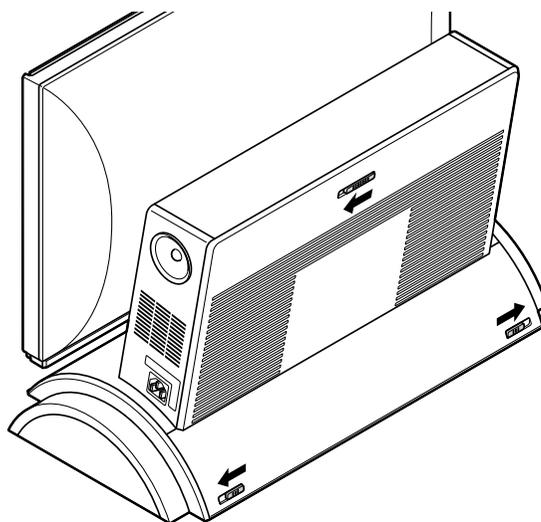
2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く

3 本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

ここで取り外したケーブルは、メモリの増設が終わり、カバーを取り付けたあとで、もとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

4 本体背面の３ヶ所のレバーを下の図の矢印の方向にずらす

5 カバーを下の図のように少し上にずらして

6 そのまま取り外す

カバーの取り付け方

機器の取り付けが終わって、カバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1 カバー内側の6ヶ所のフックを下の図の位置に合わせるようにして取り付ける

このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。

2 カバーを本体底面側にスライドさせる

3 本体背面の３ヶ所のレバーを下の図の矢印の方向にずらして固定する

4 「カバーの外し方」の手順３で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

ケーブルの接続については、「第２章 電源を入れる前に接続しよう」をご覧ください。

メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAM(ラム)サブボードをメモリスロットに取り付けます。

メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める

このパソコンでは、最大1,024Mバイトまで増やせます。

必要なものを準備する

必要な増設RAMサブボード等を準備します。

増設RAMサブボードを取り付ける

本体のカバーを取り外し、用意した増設RAMサブボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらカバーを元に戻します。

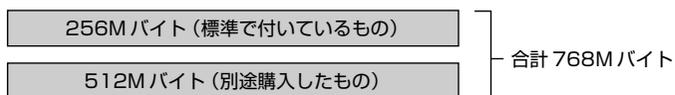
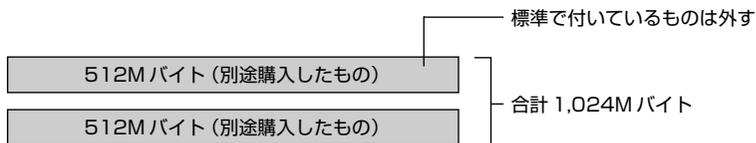
メモリが増えたかどうか確認する

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設RAMサブボード（DIMM：ディム）を差し込むスロット(コネクタ)が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのスロットに256Mバイトの RAM サブボードが付いています。
ここでは、標準で256MバイトのRAMサブボードが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で256Mバイトが取り付けられているモデルでは、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。メモリは、最大で1,024Mバイト（512Mバイトの増設RAMサブボード×2枚）まで増やすことができます。

●例1：768Mバイトにする場合
512Mバイトの増設RAMサブボードを1枚追加します。

●例2：1,024Mバイト（最大）にする場合
標準で付いているRAMサブボードを取り外し、512Mバイトの増設RAMサブボードを2枚追加します。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。

このパソコンで使える増設RAMサブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMサブボード」というボードを使います。
このパソコンでは、「DDR SDRAM/DIMM、PC2700対応」と呼ばれるタイプの次のような増設RAMサブボードを使うことをおすすめします。

型名	メモリ容量
PK-UG-ME005	256Mバイト
PK-UG-ME006	512Mバイト

増設RAMサブボードを取り扱うときの注意

・増設RAMサブボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
・増設RAMサブボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

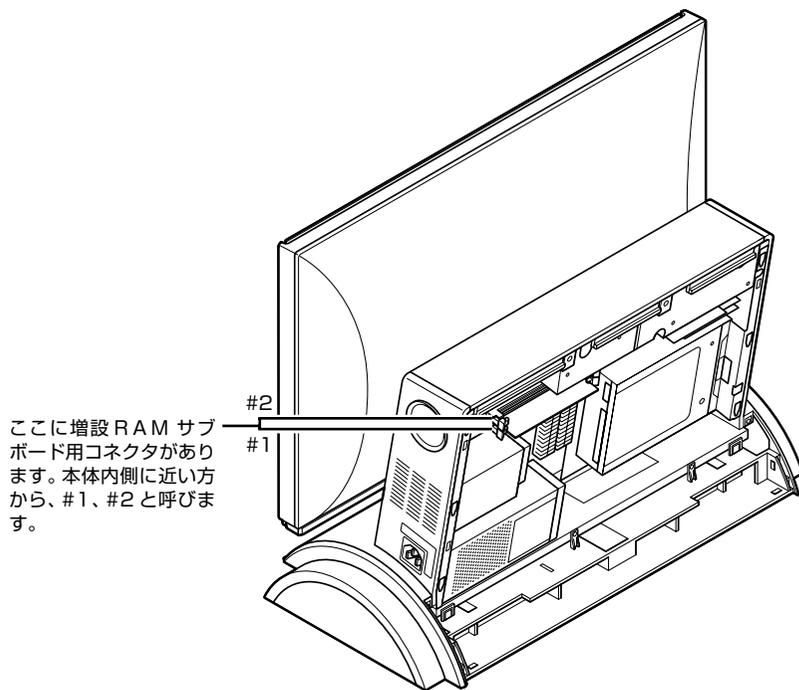
増設RAMサブボードの取り付けと取り外し

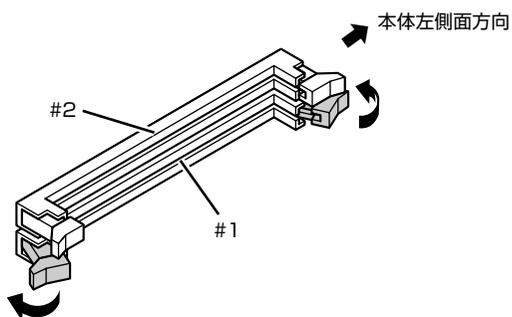
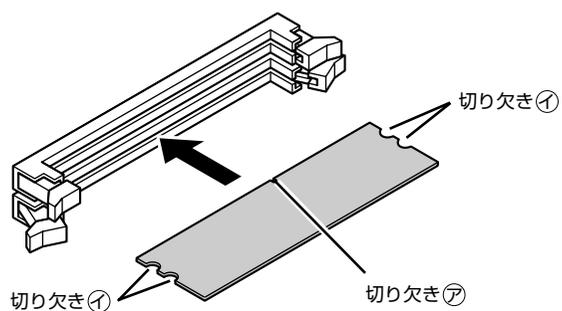
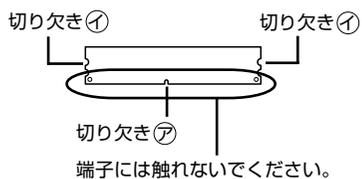
増設 RAM サブボードを取り付ける

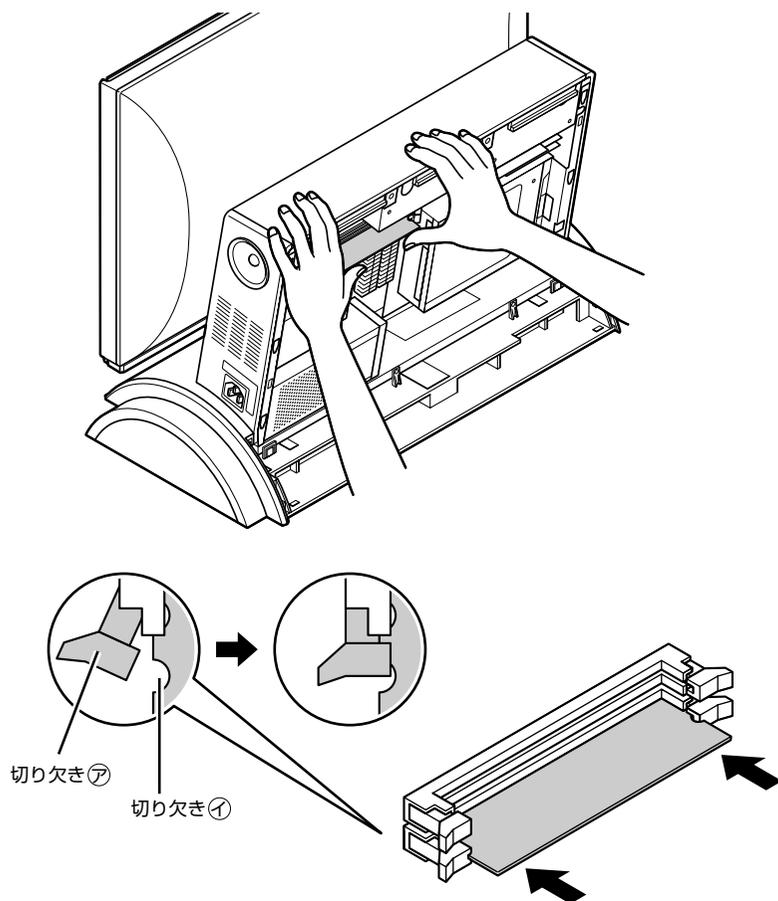
・以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。
・電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

1 正しい手順で本体のカバーを外す

カバーの外し方については、150ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。

2 ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く

図にはありませんが、実際には２つあるコネクタのうち、#1（本体内側に近い方）のコネクタには、標準で RAM サブボードが差し込まれています。

3 切り欠き㋐の方向とコネクタの溝の位置が合うように、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む

増設 RAM サブボードは、両手で持ってください。

コネクタの溝とボードの切り欠き㋐の位置を確認してから差し込んでください。

4 **下の図のように本体の天面を支えたまま、コネクタ両側のフックが切り欠き㋑に引っかかるまで、親指で増設RAMサブボードを強く押し込む**

増設RAMサブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順3で差し込んだときに切り欠き㋐をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、その際に、指をぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

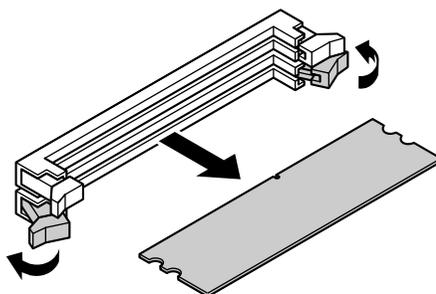
5 **正しい手順で本体のカバーを取り付ける**

カバーの取り付け方については、150ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

RAMサブボードを取り外す

1 **正しい手順で本体のカバーを外す**

カバーの外し方については、150ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

2 **取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりと、ボードを垂直に引き抜く**

- 電源ケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- 図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#1（本体内側に近い方）のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。#1のRAMサブボードも同じ方法で取り外せます。
- フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、大切に保管してください。

3 **正しい手順で本体のカバーを取り付ける**

カバーの取り付け方については、150ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

増やしたメモリを確認する

パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

1 デスクトップの「困ったときのサポートナビゲーター」アイコンをダブルクリックし、「サポートナビゲーター」を起動する

「サポートナビゲーター」の画面が表示されます。

2 パソコンの情報 をクリック

3 メモリ容量を確認する

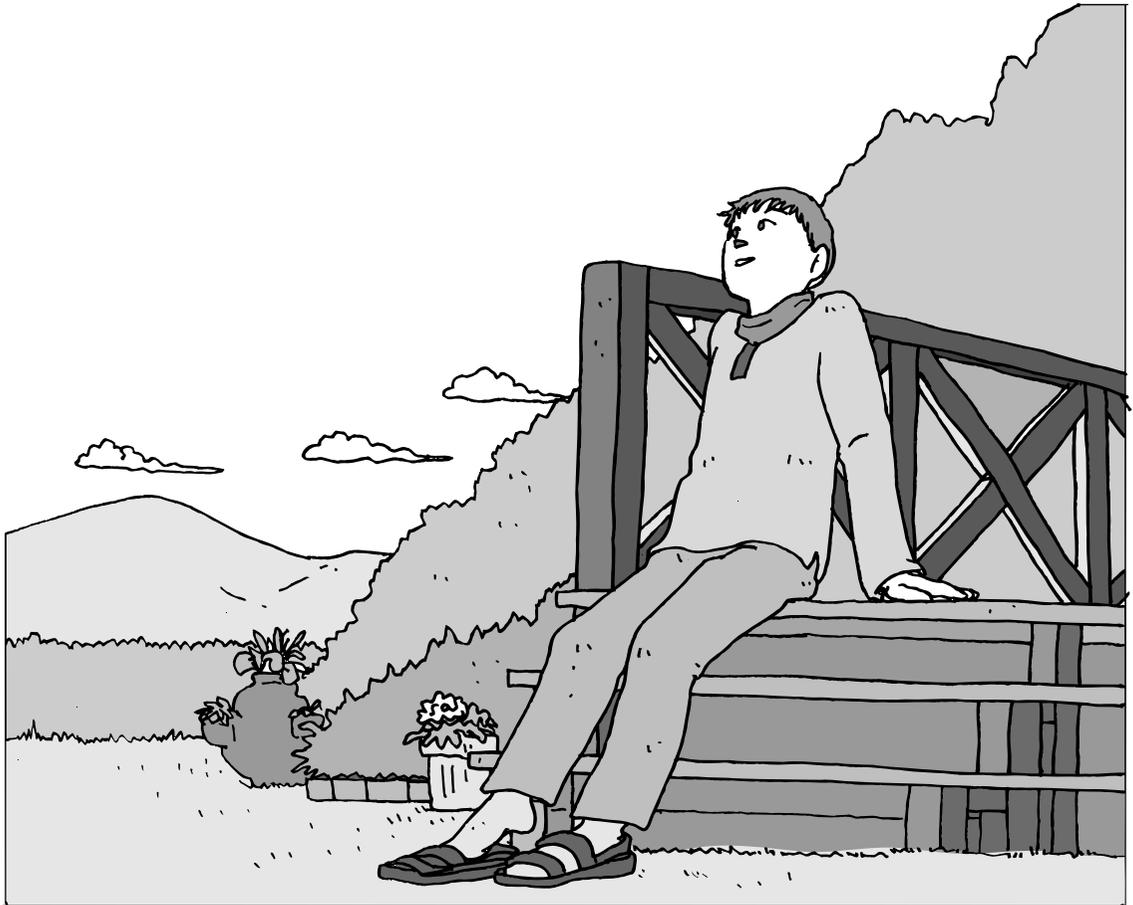
増やした後の全メモリ容量（標準で入っている容量＋増設した容量）が表示されているのを確認してください。

- **ここでは、増やした後の全メモリ容量より数Mバイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。**
- **メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。**

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- **メモリが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設RAMサブボードを取り付けているか？**

付　録

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

こんなものもあると便利

・OA用クリーニングキット

OA用クリーニングキットについては、NEC121コンタクトセンターにお問い合わせください。

・中性洗剤

・掃除機など

パソコンの電源を切って、電源ケーブルを抜いてから

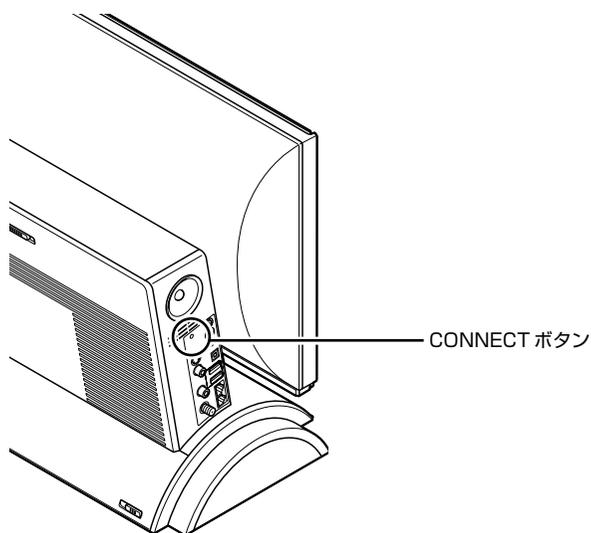
お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

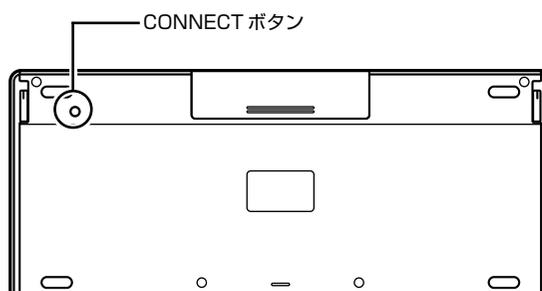
キーボードとマウスを登録しなおす

キーボード、マウスが動かなくなったときの登録のしかたを説明します。

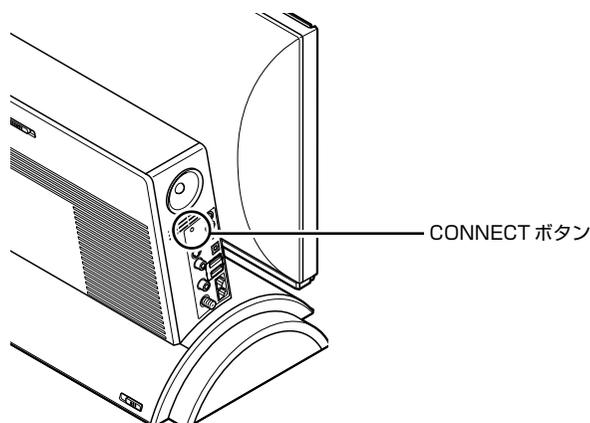
このパソコンのキーボードとマウスは無線でパソコンに信号を送ります。購入時には、キーボードとマウスからパソコン本体に信号を送るための登録がされていますが、何らかの原因でキーボードやマウスからの操作ができなくなることがあります。
その場合は、以下の手順でキーボードとマウスを登録しなおしてください。
また、パソコンを修理・交換した場合も、登録しなおす必要があります。

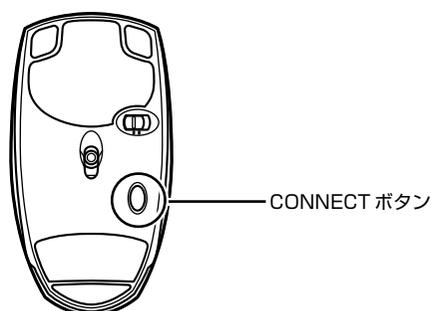
キーボードを登録しなおす

1　シャープペンシルの先などで、パソコン本体の左側面にある「CONNECT」ボタンを押す

登録モードになり、ディスプレイ左下のランプが点滅します。

2　パソコン本体の「CONNECT」ボタンを押してから 30 秒以内に、キーボード裏面にある「CONNECT」ボタンを押す

マウスを登録しなおす

1 マウス底面にある ON/OFF スイッチを「ON」にする

2 シャープペンシルの先などで、パソコン本体の左側面にある「CONNECT」ボタンを押す

登録モードになり、ディスプレイ左下のランプが点滅します。

3 パソコン本体の「CONNECT」ボタンを押してから 30 秒以内に、マウス底面にある「CONNECT」ボタンを押す

このパソコンを複数隣接して使用したときなど、ひとつのキーボード、マウスで２台反応した場合は、パソコンを置く位置を変更するか、または、以下の操作を行ってください。

1 どちらか 1 台のパソコンの電源を切り、電源ケーブルを抜く

2 もう 1 台で、キーボードとマウスを登録しなおす

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・消耗部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC121 コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121ware ガイドブック』をご覧ください。

このパソコンに起動用パスワードが設定されている場合、NEC121コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼される際に、パスワードを解除しておいてください。

消耗品と消耗部品について

このパソコンには、消耗品と消耗部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長時間連続して使用する場合には、安全等の観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身で購入し、交換していただくものです。保証期間内であっても有償となります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、SDメモリーカード、メモリースティック、バッテリ、乾電池等
消耗部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償となる場合があります。詳しくはNEC121コンタクトセンターの故障診断・修理受付窓口にご相談ください。	ディスプレイ、ハードディスクドライブ、CD/DVDドライブ、フロッピーディスクドライブ、キーボード、マウス、ファン

- 記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは「仕様一覧」をご覧ください。
- 消耗部品の交換時期の目安は、１日８時間のご使用で約５年です（ご使用になる頻度により差が生じます。また、上記の目安時期前に交換が必要となることがあります）。
- 本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後６年です。

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、捨てるときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造は行わないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、144ページ「再セットアップ用CD/DVD-ROMを使って再セットアップする」をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡（売却）する場合は、以下の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）。

※ 第三者に譲渡（売却）する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイアカウント（http://121ware.com/my/）の保有商品情報で削除いただくか、または121ware（ワントゥワンウェア）登録センター（TEL:0120-469-121）までご連絡のうえ、必ず登録削除の手続きをお願いします。

譲渡を受けたお客様へ

NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。http://121ware.com/my/にアクセスし、「新規登録」でログインIDを取得した後に、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録することができます。

インターネットに接続できない方は、お客様登録に必要な以下の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号
   （本体背面／側面または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）
2. 氏名、住所、電話番号、eメールアドレス、中古購入された場合はその購入先、購入日

宛先

〒183-8501　東京都府中市日新町1-10（NEC府中事業場）
121ware登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PCリサイクルマークが銘板（パソコン本体の左側面または背面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収・再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NECのパーソナル商品総合情報サイト
「121ware.com」（URL：http://121ware.com/support/recyclesel/）
をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121コンタクトセンター
廃棄のお問い合わせ　受付時間：9:00～17:00（祝日は除く）
フリーコール 0120-977-121

電話番号はよくお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。
携帯電話、PHSなどフリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。

03-3768-2237（東京）（通話料金はお客様負担となります）

当該製品が事業者から排出される場合（産業廃棄物として廃棄される場合）、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL：http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/shigen_menu.html

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

また、使用済の乾電池は、地方自治体の条例または規則に従って処分してください。

ハードディスク、メモリカード上のデータ消去に関するご注意

パソコンのハードディスクやメモリカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化（フォーマット）」、「メモリカードの初期化（フォーマット）」、「パソコンの再セットアップ」などの操作を行うと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。

「パソコンの再セットアップ」でデータが消去されるのは、このパソコンに内蔵されたハードディスクのみです。

このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスクおよびメモリカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊（メモリカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ）して、読めなくすることを推奨します。有償のデータ消去サービスは、NECフィールディング株式会社にご依頼ください。

NECフィールディングホームページURL：
http://www.fielding.co.jp

また、ハードディスクやメモリカード上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。じゅうぶんな確認を行ってください。

パソコンの改造は行わない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外となることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

VS700/9D、VS500/9D

型名		VS700/9D	VS500/9D
型番		PC-VS7009D	PC-VS5009D
インストールOS・サポートOS		Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack1＊1	
CPU		インテル® Celeron® M プロセッサ 1.20GHz	
クロック周波数		1.20GHz	
キャッシュメモリ	1次	インストラクション用32KB / データ用32KB(CPU内蔵)	
	2次	512KB(CPU内蔵)	
バスクロック	システムバス	400MHz	
	メモリバス	333MHz	
チップセット		ATI社製 MOBILITY™ RADEON™ 9000 IGP / IXP150	
メモリ(メインRAM)＊2	標準容量	256MB＊3(DDR SDRAM/DIMM、PC2700対応)	
	スロット数	2スロット(DIMMスロット)[空きスロット1]	
	最大容量	1GB＊4	
表示機能	ビデオRAM	標準32MB(BIOS Setup Menuにて64MB/128MB選択可)＊3	
	グラフィックアクセラレータ	ATI社製 MOBILITY™ RADEON™ 9000 IGP に内蔵[AGP対応]	
	表示モード	最大約1,619万色＊6 (1,280×768, 1,024×768, 800×600)	最大約1,677万色＊5＊6 (1,024×768, 800×600)
メール着信表示機能		メール着信ランプ搭載	
インスタント機能＊7		TV視聴／CD再生＊8／DVD再生＊9	
サウンド機能	音源／サラウンド機能	PCM録音再生機能(ステレオ/モノラル、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI[XG、XG-Lite、GM、GS演奏モード対応、DLS2対応＊10])、マイクノイズ除去機能、3Dポジショナルサウンド	
	スピーカ	内蔵(SoundVu(3W+3W)、サブウーファ(5W))	内蔵(ステレオ(2W+2W)、サブウーファ(5W))
	サウンドチップ	ADI社製 AD1981B搭載	
通信機能	FAXモデム＊11	データ通信：最大56Kbps＊12(V.90対応)/FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応＊28	
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T対応	
入力装置	キーボード	ワイヤレスキーボード＊13＊14(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き)	
	マウス	光センサーワイヤレスマウス＊15＊14(スクロール機能付き)	
	リモコン	赤外線リモコン＊16	
フロッピーディスクドライブ		−【別売、専用オプション(PC-VP-WU14)＊17】	
ハードディスクドライブ＊18		約160GB＊19(Ultra ATA-100、高速7,200回転/分)	
CD/DVDドライブ		DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き)	
	速度	DVD-RAM読出し：最大2倍速＊20、DVD-RAM書換え：最大2倍速＊20＊21、DVD+R書込み：最大2.4倍速、DVD+RW書換え：最大2.4倍速、DVD-R書込み：最大4倍速＊22、DVD-RW書換え：最大2倍速＊23、DVD読出し：最大8倍速、CD読出し：最大24倍速、CD-R書込み：最大16倍速、CD-RW書換え：最大8倍速＊24	
映像関連機能(地上アナログ放送)	MPEGボード	ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダボード	
	TVチューナ	音声多重対応、受信チャンネル＊25：VHF(1〜12ch)、UHF(13〜62ch)	
	データ放送受信	地上アナログデータ放送(ADAMS)、字幕放送	
	映像合成表示機能	DirectShow® により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能) SmartVision使用時：240×180ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能	
	高画質機能	デジタルノイズリダクション、タイムベースコレクタ	
	TV録画機能	SmartVisionでMPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間録画モード：352×480ドット(2Mbps VBR))、MPEG1(ユーザ設定モード：352×240ドット(1.152Mbps CBR))の録画可能	
	最長録画時間(高画質モード)	約36時間00分	約35時間50分
	最長録画時間(標準画質モード)	約70時間20分	約69時間50分
	最長録画時間(長時間録画モード)	約133時間50分	約132時間40分

型名		VS700/9D	VS500/9D
スロット	メモリースティック(メモリースティックPRO)	トリプルメモリースロット×1＊26	
	SDメモリーカード	トリプルメモリースロット×1＊26	
	xD-ピクチャーカード	トリプルメモリースロット×1＊26	
	PCカード	Type II×1、PC Card Standard準拠、CardBus対応	
インターフェイス	USB	コネクタ4ピン×3[USB 2.0]	
	IEEE1394(DV)	4ピン×1	
	FAXモデム	RJ11モジュラコネクタ×1	
	LAN	RJ45コネクタ×1	
サウンド関連インターフェイス	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力	角形×1＊27	
	ライン入力	ステレオミニジャック×2 (本体実装：入力インピーダンス 20KΩ、入力レベル 1Vrms、TVボード実装：入力インピーダンス 47KΩ、入力レベル 2Vrms)	
	ライン出力	ヘッドフォン出力と共用(ライン出力レベル 1Vrms)	
	マイク入力	ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 20KΩ、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧3.7V)	
	ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1 (対応ヘッドフォンインピーダンス 16Ω-100Ω「推奨32Ω」、出力電力 5mW/32Ω)	
映像関連インターフェイス	TVアンテナ入力	F型同軸×1	
	ビデオ入力	Sビデオ端子×1(側面×1)、コンポジットビデオ端子×1(側面×1)	
電源		AC100V±10%、50/60Hz	
消費電力	標準	約83W	約63W
	最大	125W	105W
エネルギー消費効率		Q区分 0.00080	
電波障害対策		VCCI ClassB	
温湿度条件		10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)	
外形寸法	本体(突起部除く)	507(W)×225(D)×383(H)mm	478(W)×225(D)×360(H)mm
	キーボード	408(W)×170(D)×27(H)mm	
	リモコン	53(W)×200(D)×25(H)mm	
質量	本体	約15kg	約13kg
	キーボード	約700g＊29	
	マウス	約70g＊29	
	リモコン	約90g＊29	
主な添付品		マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ：6本)	
主なインストールソフト		Microsoft® Office Personal Edition 2003	
ディスプレイ	画面サイズ	17型ワイド(高輝度デジタルTFT液晶)	15型(スーパーシャインビューEX液晶)
	表示寸法	アクティブ表示エリア：371(W)×223(H)mm	アクティブ表示エリア：304(W)×228(H)mm
	画素ピッチ	0.290mm	0.297mm

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

＊　1：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。Microsoft® Windows® XP Home Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。別売のMicrosoft® Windows® XP Home Editionパッケージや別売のMicrosoft® Windows® XP Professionalパッケージをインストールおよび利用することはできません。
＊　2：PC2700対応-DDR333MHzメモリのみ対応しています。
＊　3：ビデオRAMはメモリ(メインRAM)を使用します。
＊　4：増設RAMサブボード(PC2700対応-DDR333MHzメモリ)[512MB]を2枚実装する必要があります。
増設RAMサブボードを増設する場合は、PK-UG-ME005(256MB)、PK-UG-ME006(512MB)を推奨します。
＊　5：1,677万色表示は、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現します。
＊　6：本機には外付けディスプレイの接続はできません。
＊　7：InterVideo InstantONにより実現しています。
＊　8：市販の音楽CDおよびCD-DAフォーマットで作成されたCD-R/RWのみ再生可能です。CD-EXTRAは音楽データのみ再生可能です。
＊　9：市販のDVDビデオおよびVideoフォーマットで作成されたDVD-R/RWのみ再生可能です。VideoCDには対応しておりません。
＊10：DLSは「DownLoadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。
＊11：回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
＊12：最大56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
＊13：キーボードの使用時間は連続使用で約400時間です。また、使用可能な距離は約1mです。（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）
＊14：金属製の机の上などで使用した場合に、動作に影響することがあります。木製の机などの上でのご利用をおすすめします。
＊15：マウスの電池寿命はアルカリ電池を使用し、約2.5ヵ月間使用可能です。マウスを連続して操作した場合は、アルカリ電池で最大約60時間です。市販の単三充電池もご利用いただけます。また、使用可能な距離は約1mです。（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）
＊16：リモコンの電池寿命はアルカリ電池で最大約100時間です。また、使用可能な距離は約3mです。（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）
＊17：2モード(720KB/1.44MB)に対応しています(ただし、720KBモードのフォーマットは不可です)。
＊18：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
＊19：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ：約135GB、Dドライブ：約4.6GB、残り：再セットアップ用およびインスタント機能用として認識されます。
＊20：DVD-RAM Ver.2 (片面4.7GB)の速度です。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
＊21：DVD-RAM Ver.1 (片面2.6GB)の書き換えはサポートしていません。
＊22：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
＊23：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
＊24：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
＊25：本製品はケーブルテレビの一部周波数にも対応しておりますが、ケーブルテレビ会社によりサービス内容に違いがあるため、接続に関しては、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談ください。
＊26：「マジックゲート」（著作権保護）機能には対応しておりません。「メモリースティック Duo」をご使用の場合は、必ずメモリースティックDuoアダプターを使用してご利用ください。詳しくは「メモリースティックDuo」の取扱説明書をご参照ください。SDメモリーカードスロットは、著作権保護機能には対応しておりません。「miniSDカード」をご使用の場合には、必ずminiSDカードアダプタを使用してご利用ください。詳しくは「miniSDカード」の取扱説明書をご参照ください。「マルチメディアカード（MMC）」はご利用できません。メモリースティック、SDメモリーカード、xD-ピクチャーカードは各々同時に使用することはできません。
＊27：SmartVisionにおける音声は出力できません。
＊28：休止状態からのResume On Ringには対応しておりません。
＊29：乾電池の質量は含まれておりません。

その他のご注意

[著作権に関するご注意]

・ お客様が複製元のCD-ROMやDVD-ROMなどの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
・ 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製などに関する注意事項にしたがってください。
・ お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。

[インターネット電話／インターネットテレビ電話について]

・ ご利用の通信事業者、プロバイダ、お客様の環境によってはご利用になれない場合があります。事前に通信事業者やプロバイダにご確認ください。ADSLなどのブロードバンド環境でのご利用を推奨いたします。

[CD/DVDの読み込み／書き込みについて]

・ コピーコントロールCDなど一部の音楽CDでは、再生やCD作成ができない場合があります。
・ CPRM（Content Protection for Recordable Media）の著作権保護機能には対応しておりません。
・ メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
・ 12cm CD、DVD以外は使用できません。ハート形、カード型などの特殊形状をしたCDは故障の原因となりますので使用できません。
・ 設定した書き込み、書き換え速度を実現するためには、書き込み、書き換え速度に応じたメディアが必要になります。
・ 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM（96KHz/24bit）で記録されている20KHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。
・ ライティングソフトウェアが表示する書き込み予想時間と異なる場合があります。

[TV視聴／録画について]

・ TV放送やデータ放送をご覧になる場合、ノイズやゴーストなど電波障害が強いところでは、TV映像がコマ落ちしたり、データ放送が受信できないなどの現象が発生する場合があります。電波の弱い場合は、ブースタが必要になる場合があります。また、ケーブルテレビをご利用の場合は、ADAMSおよび文字放送などのデータ放送が受信可能かどうか、ご利用のケーブルテレビ会社へお問い合わせください。
・ 録画時間は映像の内容およびご利用状況によって前後する場合があります。
・ 地上デジタル・BSデジタル・CSデジタル放送対応のチューナを本商品の外部入力端子に接続した場合、「一回だけ録画可能」の番組などのコピー制御された番組は本商品で録画およびタイムシフトできません。

[周辺機器接続について]

・ 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
・ 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット http://121ware.com/valuestar/（各シリーズページ→「接続情報」）をご覧ください。
・ USB1.1対応の周辺機器も利用できます。USB2.0で動作するにはUSB2.0対応の周辺機器が必要です。動作確認済み機種についてはインターネット http://121ware.com/valuestar/（各シリーズページ→「接続情報」）をご覧ください。
・ IEEE1394インターフェイスを装備した商品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット http://121ware.com/valuestar/（各シリーズページ→「接続情報」）をご覧ください。
・ 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤ・MDデッキ類と同様に、SCMS（シリアルコピーマネジメントシステム）に準拠した信号を出力します。

FAXモデム仕様一覧

適用回線		加入電話回線
ダイヤル方式		パルスダイヤル（10/20PPS） トーンダイヤル（DTMF）
FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T　G3ファクシミリ装置
	同期方式	半2重調歩同期方式
	通信規格＊1	ITU-T V.17:14,400 / 12,000 / 9,600 / 7,200 bps V.29:9,600 / 7,200 bps V.27ter:4,800 / 2,400 bps V.21 ch2:300 bps
	送信レベル	-11 ～ -15dBm（出荷時 -15dBm）
	受信レベル	-10 ～ -40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）
データモデム機能	同期方式	全2重調歩同期方式
	通信規格＊1	ITU-T V.90:56,000 ～ 28,000 bps＊2 V.34:33,600 ～ 2,400 bps V.32bis:14,400 ～ 4,800 bps V.32:9,600 ～ 4,800 bps V.22bis:2,400 / 1,200 bps V.22:1,200 / 600 bps V.21:300 bps
	エラー訂正	ITU-T V.42（LAPM）MNP class 4
	データ圧縮	ITU-T V.42 MNP class 5
	送信レベル	-11 ～ -15dBm（出荷時 -15dBm）
	受信レベル	-10 ～ -40dBm
	制御コマンド	Hayes ATコマンド準拠＊3

＊1:回線状態によっては通信速度が変わる場合があります。
＊2:送信時は 33,600 ～ 2,400 bpsになります。
＊3:ATコマンドについては、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ATコマンド」をご覧ください。

LAN仕様一覧

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長*	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

＊リピータの台数など、条件によって異なります。

索 引

英数字

あ行

か行

さ行

た行

は行

ま行

ら行

わ行

パソコンの中にもマニュアルがある

● サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いながら画面で説明を見るための、サポートナビゲーターが入っています。

デスクトップにある 困ったときのサポートナビゲーター をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

必要に応じて、次の５種類の説明を利用してください。

つながった後のインターネット	ウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。
パソコン使いこなし術	Windowsの便利な操作方法など、一歩進んだ使い方を説明しています。
ソフトの紹介と説明	このパソコンに入っているアプリケーションソフトの使い方などを説明しています。
パソコン各部の説明	このパソコンの各部の機能や設定について、詳しい情報を知りたいときに利用してください。
トラブル解決	うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。

2

準備と設定

VALUESTAR

初版 2004年6月
NEC
853-810601-287-A
Printed in Japan

このマニュアルは、再生紙(古紙率:表紙50%、本文100%)を使用しています。